

【決議事項】

1. 2024 年度に係る財務諸表等（以下の報告書類）
 - 1-1. 同 事業報告
 - 1-2. 同 財務諸表等
 - 1-3. 同 監査報告書
2. 新名誉会員の推薦
3. 一部役員の任期満了による新役員の選任

【報告事項】

1. 2025 年度に係る計画等
 - 1-1. 同 事業計画書
 - 1-2. 同 収支予算書
2. 会費滞納会員の取り扱い

2025 年 6 月 11 日

一般社団法人 情報処理学会

<https://www.ipsj.or.jp/>

目 次

【決議事項】

1. 2024 年度に係る財務諸表等（以下の報告書類）

1-1.	同	事業報告	・・・・・・・・・・・・・・・・	1
1-2.	同	財務諸表等	・・・・・・・・・・・・・・・・	52
1-3.	同	監査報告書	・・・・・・・・・・・・・・・・	60

2.	新名誉会員の推薦	・・・・・・・・・・・・・・・・	63
----	----------	------------------	----

3.	一部役員の任期満了による新役員の選任	・・・・・・・・・・・・・・・・	64
----	--------------------	------------------	----

【報告事項】

1. 2025 年度に係る計画等

1-1.	同	事業計画書	・・・・・・・・・・・・・・・・	65
1-2.	同	収支予算書	・・・・・・・・・・・・・・・・	84

2.	会費滞納会員の取り扱い	・・・・・・・・・・・・・・・・	87
----	-------------	------------------	----

[第 1 号議案]

1-1. 2024 年度事業報告

1. 概況：重点活動
 2. 会員の異動状況
 3. 会議等に関する事項（総会，理事会，各種委員会）
 4. 実施事業 1：調査研究活動（定款第 4 条 1 項 1 号および 2 号）
 5. 実施事業 2：人材育成（定款第 4 条 1 項 4 号）
 6. 実施事業 3：学術講習会の開催（定款第 4 条 1 項 1 号および 2 号）
 7. 実施事業 4：会誌の刊行（定款第 4 条 1 項 1 号および 2 号）
 8. 実施事業 5：論文誌・学術図書等の刊行（定款第 4 条 1 項 1 号および 2 号）
 9. 実施事業 6：標準化活動（定款第 4 条 1 項 3 号）
 10. 実施事業 7：国際活動（定款第 4 条 1 項 5 号および 2 号）
 11. その他：関連学協会との連絡および協力（定款 4 条 1 項 6 号）
 12. 法人運営
-
- 付 1. 会議等に関する事項（総会，理事会，各種委員会）
 - 付 2. 研究会および研究発表・学術講習会等一覧
 - 付 3. 刊行物（会誌・論文誌・図書等）一覧
 - 付 4. 国際会議一覧
 - 付 5. 表彰等
 - その他・附属明細書

2024 年度 事業報告

1. 概況：重点活動

新型コロナウイルス感染症が 5 類に引き下げとなり対面活動が戻ってきた一方で、テレワークによる在宅勤務や会議・イベントのオンライン化やハイブリッド開催など、情報処理技術を前提とした新しい働き方や社会活動のあり方は、ニューノーマルとして定着し、ワークライフバランスの改善や社会活動の効率化に大きく寄与している。新技術の進展も目覚ましく、特に生成 AI は学术界や IT 業界に限らず様々な業界での DX 化の促進等大きな影響をもたらしている。また、AI 研究者が 2024 年のノーベル物理学賞と化学賞を受賞し、AI 開発やルール作り等の国家間の主導権争いも過熱している。

このような環境の中で、社会課題解決や社会経済活動を支える基盤としての情報処理技術は、これまで以上にその重要性が増してきている。そのため、情報処理分野での指導的役割を担う立場として、本会の果たすべき役割はますます拡大しており、社会と文化の発展に寄与するための、より長期的視点に基づいた事業の推進が求められている。

それらの社会的役割を果たすため、本会では、2020 年の本会創立 60 周年記念において学会宣言 “More local and more diverse for global values” を提唱し、その実現に向けた具体的目標として、①広く新しい情報処理ユーザーへの学会活動の訴求、②広く新しい情報処理ユーザーへの新しいサービスの提供、③自らが運営しやすい学会の情報システムと業務プロセスの整備、の 3 つを柱とする 5 ヶ年の中期計画を 2021 年度に制定した。

2024 年度は、その 5 年間の仕上げ期間に入ることから、これまでに中期計画の達成に向けて取り組んできた企画や施策をさらに加速し、新価値創造に繋げていくため、中期計画を受けて定められた 7 つの重点活動項目において各種の施策を実施した。

1.1 学会運営体制の充実および財政基盤の強化

急激に変化する社会環境の中で、学会を安定的に運営しつつ、これを発展させるために、学会として中核的な活動は大切にしつつ、各種活動を効率化するためのオンラインの活用や業務の DX 化の更なる強化に取り組んだ。社会環境の変化に対応した学会の新たなミッションを定義・発信するだけでなく、情報処理分野により社会の変革を先導する学会であるための運営体制が必要である。このため、下記の施策を実施した。

- ① 経営企画委員会、広報広聴戦略委員会が連携し、本学会のビジョンおよび社会的意義を発信することともに、国や地域への政策提言等を通し、情報処理分野による社会の変革を先導した。
- ② 学会価値の向上による会員増と財政基盤の強化に取組み、更なる会員数の増加を目指した。
- ③ 過去最高の入会者数となったジュニア会員について、引き続きジュニア会員活性化委員会を中心にジュニア会員制度の定着・活用および、さらなる会員数の増加策の実施、学部4年生以降における学生会員への移行・学会活動を促進するための調査・分析を行った。
- ④ 第三者機関であるアドバイザリーボードからの提言を適宜諸事業へ反映した。
- ⑤ 公平な社会の促進を宣言したダイバーシティ宣言や、改訂・公開された倫理綱領について、さらなる普及を目指しての委員会活動や、他団体との合同推進活動や他団体サポート活動などを推進した。
- ⑥ 去る 2020 年 11 月に公表した「60 周年宣言」に基づき 2021 年度に策定した「中期計画」を推進するとともに、本会各種活動の「データドリブンな意思決定」に向けた第一歩として、「本会主要アクティビティ」をその名称を「学会主要活動指標」として理事会レベルで共有し活動の活性化に繋げていくための整備を進めた。
- ⑦ 中長期視点からの持続的な経費削減ならびに事務局職員の働き方の実態に合わせたオフィスの最適

化を目的として、2025年度内の実施を目指し本会事務局本部の移転計画を進めた。

1.2 ITエンジニア向け活動の強化

従来からの認定技術者制度、各種セミナー、イベントやITフォーラム活動の実施、各種団体、企業との連携による活動推進に加え、相互理事制を取り関係を強化した日本IT団体連盟（IT連）との連携を活用し、活動内容の見直しや新しい企画立案を推進した。

- ① 日本IT団体連盟（IT連）のメンバをIT産業界アドバイザーとして技術応用委員会に招聘し、連携を強化した。
- ② 認定情報技術者（Certified IT Professional：略称CITP）制度では、個人認証の新規審査、継続研鑽の実績審査と資格更新審査を行った。2024年度の実績として新たに185名の認定情報技術者が誕生した。一方、資格更新しなかった技術者もいることから、2024年度末時点の資格保持者総数は1,702名（前年度の1,873名からは-171名）となっている。
- ③ デジタルプラクティス、連続セミナー・短期集中セミナー、ITフォーラムなどの相互連携活動により、ITエンジニアの育成に貢献するとともに、会員増、収入増を図った。
- ④ 日本IT団体連盟（IT連）、全国地域情報産業団体連合会（ANIA）、情報処理推進機構（IPA）、情報サービス産業協会（JISA）、日本情報システム・ユーザー協会（JUAS）、電子情報技術産業協会（JEITA）、科学技術振興機構（JST）、先端IT活用推進コンソーシアム（AITC）、インターネット協会（IAJ）、情報通信技術委員（TTC）、日本データ通信協会（JADAC）、日本規格協会（JSA）、モバイルコンピューティング推進コンソーシアム（MCPC）、ITスキル研究フォーラム（iSRF）、iCD協会、日本情報技術取引所（JIET）、学びのイノベーション・プラットフォーム（PLIJ）などのITエンジニアを対象とする団体や企業との連携をさらに深め、共同イベントの開催などを推進して、会員増に貢献した。

1.3 学生・若手研究者育成の活動推進

初等中等教育を含む情報教育プログラムの推進、今後の情報教育のグランドデザインの検討を推進していく。

- ① 2025年実施の大学入学共通テストへ「情報」が出題されることが決まり、国立大学協会も全ての国立大学が大学入学共通テストにおいて、原則として「情報」を加えた6教科8科目を課すことを公表したことを受け、各大学の入試における「情報」の出題の実現に向けた活動を行った。また国公立大学の個別入試においても「情報」が出題されることを期待し情報教育の推進に全面的に協力した。また、2022年度から始まった新指導要領の高校「情報Ⅰ/Ⅱ」に関する教員研修に対し、講師の派遣やオープン教材IPSJ-M00Cの提供を行った。また、2023年度に引き続き、小中高の教職員を対象とした会費割引キャンペーンを実施するとともに、2025年度以降の支援のあり方について検討を行い、新たな小中高校教員支援プログラムとして制度設計を行った。更に次々期学習指導要領に向けた研究・調査を行った。
- ② 国立情報学研究所と協力してグローバルサイエンスキャンパス「情報科学の達人」の後継となる「JST次世代科学技術チャレンジプログラム」の共同開催を継続して実施した。
- ③ 教育理事を中心とする「ジュニア会員活性化委員会」において、小中高校生、高専生、大学学部1～3年生を対象とする会費無料の「ジュニア会員制度」を活用し、学生・生徒の育成を支援するとともに、学部4年生以降における有料学生会員への移行・学会活動の継続を促進するための調査・分析を行った。
- ④ 研究会や支部などの協力も得て、学生や若手研究者、ジュニア会員のためのイベントを企画開催した。
- ⑤ 若手研究者が招待講演を経験することで研究実績につながることをねらい、各研究会が主催している研究発表会・シンポジウムにおいて、若手研究者に招待講演を依頼する際に、講演者に支払う謝金を学会が支援する「若手研究者招待講演謝金補助」事業を進め、様々な研究会で活用された。

- ⑥ 中高生情報学研究コンテストについては、2023 年度に開始したブロック大会を継続して実施し、審査方法の見直しと改善を行った。
- ⑦ DX ハイスクール施策（文科省）に協力して、支部とともに情報教育のための人材支援を行った。

1.4 会員サービスと広報広聴活動の充実

会員サービスと満足度の向上および広報宣伝の充実を図るため、広報広聴戦略委員会が中心となって「広報」と「広聴」を戦略的に推進し、魅力ある学会作りを進めた。

- ① 2023年度に立ち上げた9つのワーキンググループ(ウェビナー/SNS/Web/メール/ガイドライン/学生交流向け/産業界向け/情処ラジオ/ノベルティ)の活動を推進した。
- ② 学会のセミナー・イベント、委員会など各種活動をオンライン開催、現地開催、ハイブリッド開催など最適な形態での開催を推進した。
- ③ オンライン刊行物の新しいビジネスモデルの推進、ビデオを中心とした IPSJ-YouTube や JM00C 等を活用したサービス提供形態の検討を推進した。
- ④ 小中高教員のための新規入会キャンペーンを継続実施し、入会者は 23 名であった。また、本キャンペーンの過去 5 年間の効果を検証するとともに、次年度以降の支援のあり方について検討を行い、新たな小中高校教員支援プログラムとして制度設計を行った。
- ⑤ 会員・非会員の活動傾向等を分析し、目的に合わせたステップメール、セグメントメール、リアル施策による各種交流会等を通じて、入会促進、退会防止活動を推進する。
- ⑥ Web サイトの利便性向上、訪問者の導線を短くし満足度を上げるために FAQ のリニューアル（検索機能追加）を行った。
- ⑦ 「入会に結びつけるための広報戦略」として本会各種活動を「会員サービスの差別化」という視点から現状把握ならびに今後の活動の方向性について検討を進めた。
- ⑧ 学会を活用した高度技術人材の育成・活躍をめざして、2025 年 3 月 学会 Web ページに会長声明を公表した。

1.5 情報システム・DX の推進

情報システム・DX委員会が主体となり、学会情報システムの見直しに加え、ニューノーマル時代に向けた事務局業務のBCP/DX化を推進した。

- ① 電子図書館(情報学広場)については、新システム（Weko3）への移行に伴う課題の把握と対策を実施し、2022年より進めてきた開発を完了。2025年2月より運用を開始した。
- ② 学会 Web サイトの FAQ について、情報の掲載方法を見直して事務局問合せ負荷の軽減を図るとともに、会員・入会希望者等の利便性向上のため検索機能の導入を進めた。
- ③ 学会会員システム(SMMS)につき、クレジットカード決済方式移行（3Dセキュア対応）に伴う改修を完了した。
- ④ Web上で定時総会出欠・委任状・議決権行使を管理するシステムを運用開始し、2024年度定時総会に導入した。
- ⑤ オープンバッジの適用を推進し、2025年3月全国大会学生奨励賞で利用した。
- ⑥ 2025年度の学会本部事務局移転にあわせて、事務局のBCP対応およびセキュリティ対策としてサーバ類の冗長化ならびにオンプレミス・サーバのクラウド化、オフィスLANへのリモートアクセス化の検討を進めた。

1.6 調査研究・学術講習会・会誌・論文活動の継続推進

ニューノーマル時代での学会誌・研究論文の在り方を継続検討した。学会誌はオンライン記事の強化を行うとともに、好評だった過去の特集などのオンライン化を推進した。論文誌については、オープンアク

セス時代に向けた在り方について継続検討した。

- ① ハイブリッド開催を主体に研究会やシンポジウムの活動を推進した。
- ② 各種オンラインツールを利用した全国大会、FIT、セミナーなど各種イベントの最適な開催方式(ハイブリッド・現地・オンライン)を財務面も含めて推進した。
- ③ 会誌は、オンライン特集記事や、「note」の定着化とともに、会誌ウェビナーや記事のビデオ化などを検討した。

1.7 グローバル化の推進

研究会活動を中心に、国際会議を積極的に主催、共催し活動の活性化を図るとともに、海外学協会とのニューノーマル時代の新たな連携を推進する。

- ① IEEE や ACM との連携を継続し、第 87 回全国大会での両学会会長による招待講演や Joint Award の継続、浸透を図った。
- ② アジアの関連学会である中国 CCF (China Computer Federation) , 韓国 KIISE (Korean Institute of Information Scientists and Engineers) との連携を継続し、CCF の全国大会にあたる会議では副会長より挨拶、KIISE 大会では会長よりビデオメッセージを送付、また、第 87 回全国大会では CCF 会長、KIISE 会長の招待講演も実施した。
- ③ SC44 (Consumer protection in the field of privacy by design) の国内審議体制の構築を進める。また JTC 1 の運営・方向性を議論する直属の AG, AHG についても、優先度を見極めながら対応していく。
- ④ 2023 年度の第 86 回全国大会で中国 CCF より提案された APAC (Asia-Pacific Alliance for Computing) の創設について、本会として参画するスタンスで対応を進めた。

2. 会員の異動状況

下記の取り組みを実施し、会員数の増加に努めた。

2.1 新規会員の獲得と会員減の防止

新規会員の獲得と会員のリテンション強化に向けて、学会中期計画ならびに 2021 年度から 2022 年度に行った広報広聴マーケティング活動結果を踏まえ、広報広聴戦略委員会の傘下に 9 つのワーキンググループ (①ウェビナー・②SNS・③Web サイト・④メール・⑤ガイドライン・⑥学生交流・⑦産業界・⑧情報ラジオ・⑨ノベルティ) を立ち上げ、各活動を推進した。

これらの活動により、学生会員は 194 名増、ジュニア会員は 80 名増となったものの、正会員は 290 名減となり対前年度で個人会員は若干の減少となった。一方、賛助会員は、イベントスポンサーへの働きかけ等の取り組みにより 5 社 (12 口) と増加した。

2.2 学生会員ならびにジュニア会員の獲得と育成

- ① ジュニア会員活性化委員会 (時限) を中心にジュニア会員制度を通じて若年層に学会活動を広く周知し、学生会員の獲得を促進した。
- ② ジュニア会員制度を通じて若年層に学会活動を広く周知するとともに、ジュニア会員の論文掲載料無料化全国大会での第 7 回中高生情報学研究コンテスト等々の施策を行い、学生会員育成活動を推進した。中高生情報学研究コンテストは、ブロック大会 (オンライン開催) を実施し、全国各地から多くの参加者を集めることができた。
- ③ 2023 年度に続き、新規入会 (4 月～11 月) と既存会員 (8 月～11 月) , ジュニア会員獲得の施策として、ジュニアを指導する初等中等教員の入会と継続促進するキャンペーンを実施した。その結果、新たな

会員層を発掘（23名）するとともに、初等中等教員の既存正会員の継続（113名）を促した。またジュニア会員から学生会員への昇格が74名となった。なお、ジュニア会員活性化委員会は時限委員会のため2024年度をもって終了することとなっており、初等中等教員の会費割引キャンペーンも2024年度が最終年度となっていたため、次年度以降の支援のあり方について検討を行い、新たな小中高校教員支援プログラムとして制度設計を行った。

- ④ 学生・若手向けセミナーの企画開催など、学生会員の新規獲得と正会員への定着率の向上に努めた。
- ⑤ 研究会ならびに支部の協力により新規学生会員の獲得活動を実施し、学生会員の正会員への移行・定着の施策として1研究会への無料登録を継続した。

会員種別	会員数		増減数 ①-②	備考：2024年度の異動内訳				
	①2024 年度末	②2023 年度末		入会		退会		資格 喪失
名誉会員	45	44	1	0 1	新入会 正会員から異動	0		
正会員	14,013	14,303	-290	510 794 0	学生会員から異動 ジュニアから異動	1,130 1	名誉会員に異動	463
学生会員	3,295	3,101	194	1,847 74	ジュニアから異動	914 794 0	正会員に異動 ジュニアに異動	19
ジュニア会員	3,461	3,381	80	1,245 0 0	正会員から異動 学生から異動	1,091 0 74	正会員に異動 学生会員に異動	
個人会員 計	20,814	20,829	-15	4,471		4,004		482
賛助会員 (口数)	258 (640)	252 (625)	6 (15)	19 (29)		13 (14)		

*2024年度期末正会員数には終身会員857名を含む。

3. 会議等に関する事項（総会、理事会、各種委員会）

ニューノーマル（新しい常態）時代の活動形態を推進し総会、理事会をはじめ、各種実施事業に関する各種委員会の殆どをオンラインまたはハイブリッドで開催した。また、60周年宣言「More Local」の促進活動として支部長会議を7月と3月の年2回開催、また、例年秋季に開催するアドバイザーボードに支部長もオブザーバ出席頂く形で支部との交流を図った。詳細は付録1（p.20～p.30）に掲載する。

4. 実施事業1：調査研究活動（定款第4条1項1号および2号）

4.1 研究発表会、シンポジウム・講習会等

42研究会, 4研究グループ (内1研究グループは調査研究運営委員会所属) により活動し, 研究発表会 (153回 内69回はオンサイト開催, 内9回はオンライン開催, 内75回はハイブリッド開催) およびシンポジウム等 (19回 内9回はオンサイト開催, 内10回はハイブリッド開催) を開催した。また, 研究会登録者数は9,093名と微増であった。詳細は付録2 (p. 31~p. 37) に掲載する。

※前年度参考: 41研究会, 6研究グループ, 研究発表会154回, シンポジウム19回, 研究会登録者数9,079名

(1) コンピュータサイエンス領域

11研究会により, 研究発表会 (42回 内12回はオンサイト開催, 内2回はオンライン開催, 内28回はハイブリッド開催), シンポジウム等 (6回 内2回はオンサイト開催, 内4回はハイブリッド開催) を行った。また, 研究会登録者数は2,738名であった。それぞれの研究会が積極的な活動を行っているが, 中でも特記事項は次の通りである。

※前年度参考: 研究発表会41回, シンポジウム6回, 研究会登録者数2,765名

- ① ソフトウェア工学(SE)研究会が IEEE Computer Society Tokyo/Japan Joint Chapter の共催と多くの協賛団体のもと, 「ソフトウェアエンジニアリングシンポジウム2024 (SES2024) (2024年9月17日~19日, 慶應義塾大学/オンライン)」を開催した。参加者は226名であった。
- ② 優秀な若手会員を顕彰するため, 領域共通の積立金を活用して2024年度コンピュータサイエンス領域奨励賞を19名に授与した。
- ③ コンピュータサイエンス領域の研究会分野において, 顕著な功績のあった10件に対し, 領域共通の積立金を活用して2024年度コンピュータサイエンス領域功績賞を授与した。

(2) 情報環境領域

16研究会により, 研究発表会 (58回 内33回はオンサイト開催, 内5回はオンライン開催, 内20回はハイブリッド開催), シンポジウム等 (9回 内5回はオンサイト開催, 内4回はハイブリッド開催) を行った。また, 研究会登録者数は3,123名であった。特記事項は次の通りである。

※前年度参考: 研究発表会61回, シンポジウム9回, 研究会登録者数3,153名

- ① 10研究会*が合同で, ネットワークに関する研究分野を対象に「DICOM02024シンポジウム (2024年6月26日~28日, 花巻温泉ホテル千秋閣)」を開催した。合宿形式で開催し, 研究者間の深いディスカッションと交流を図る場となった。参加者は367名であった。

※マルチメディア通信と分散処理 (DPS), コラボレーションとネットワークサービス (CN), モバイルコンピューティングと新社会システム (MBL), コンピュータセキュリティ (CSEC), 高度交通システムとスマートコミュニティ (ITS), ユビキタスコンピューティングシステム (UBI), インターネットと運用技術 (IOT), コンシューマ・デバイス&システム (CDS), セキュリティ心理学とトラスト (SPT), デジタルコンテンツクリエーション (DCC) 各研究会

- ② 5研究会*が合同で「インタラクション2025シンポジウム (2025年3月2日~4日, 学術総合センター)」を開催した。参加者は848名と盛況であった。ジュニア会員は参加費無料とすることで会員増にも貢献した。

※ヒューマンコンピュータインタラクション (HCI), コラボレーションとネットワークサービス (CN), ユビキタスコンピューティングシステム (UBI), デジタルコンテンツクリエーション (DCC), エンタテインメントコンピューティング (EC) 各研究会

- ③ 情報環境領域の研究会分野において, 顕著な功績のあった個人・団体に贈呈する情報環境領域功績賞を3名に対し授与した。

(3) メディア知能情報領域

15研究会, 3研究グループにより, 研究発表会 (53回 内24回はオンサイト開催, 内2回はオンライン開催, 内27回はハイブリッド開催), シンポジウム等 (4回 内2回はオンサイト開催, 内2回はハイブリッド開催) を行った。また, 研究会登録者数は3,232名であった。特記事項は次のとおりである。

※前年度参考：研究発表会52回，シンポジウム3回，研究会登録者数3,160名

- ① エンタテインメントコンピューティング(EC)研究会が「エンタテインメントコンピューティング2024 シンポジウム（2024年9月2日～4日，北海道情報大学）」を開催し，参加者は208名であった。

4.2 その他

(1) 表彰

優れた研究発表および業績等に対して，山下記念研究賞，業績賞，情報処理技術研究開発賞，マイクロソフト情報学研究賞，IPSJ/ACM Award for Early Career Contributions to Global Research，IPSJ/IEEE Computer Society Young Computer Researcher Award，若手奨励賞を贈呈した。付録5（p.45～p.47）に掲載する。

5. 実施事業2：人材育成（定款第4条1項4号）

初等中等教育を含む情報教育，および企業の技術者を対象とした教育プログラムの推進に向けて，以下の施策を実施した。

5.1 情報教育カリキュラムの策定

第87回全国大会において「情報系専門学科カリキュラム標準 J27 に向けて」のイベントを企画・運営するなど，後継となるカリキュラム標準 J27 作成に向けた調査活動を実施した。データサイエンス教育委員会では，日本の大学学部レベルのデータサイエンス専門教育を実施している学部・学科のシラバスを収集し，生成 AI を用いて内容を分析した。これを通じて，本会 データサイエンス・カリキュラム標準（専門教育レベル）との比較を行った。さらに，J27 カリキュラム標準（DS 領域）の策定に向けて各種の情報を収集した。また，第87回全国大会において「生成 AI の導入による大学一般情報教育の DX」のイベントを企画・運営するなど生成 AI を考慮した教育に関する調査・検討を行った。

5.2 アクレディテーション（技術者教育プログラムの認定）

アクレディテーションによる大学・大学院専門教育の質的向上の推進のため，日本技術者教育認定機構（JABEE）委託の認定評価を継続した。関連して，全国の大学の情報系教員が参加する情報学科・専攻協議会（2024年7月開催）において，JABEE活動を紹介する講演を企画するなど，認定校・受審予定校のコミュニティの育成，専門職大学院認証評価などの活動支援を行った。また，JABEEに協力して情報専門系課程教育の質保証に努め，ソウル協定による国際水準を目指して教育改善を推進した。JABEE審査5件を担当した。JABEEのソウル協定の活動に，委員会として貢献した。また，JABEEに働きかけてデータサイエンス分野の認定制度の構築を推進した。

5.3 情報科教員研修の開催

高等学校情報科の教員研修を文部科学省と連携して実施した。具体的には，独立行政法人教職員支援機構の全国教員研究プラットフォーム Plant 上へのコンテンツアップロードが完了し，2024年5月23日に運用がスタートした。オンデマンドによる研修で，2025年3月末までの受講登録者数は1,150人となっている。Plant システムの運用開始に伴い，オープンバッジの発行は終了した。

5.4 認定情報技術者制度

認定情報技術者（Certified IT Professional：略称 CITP）制度では，個人認証の新規審査，継続研鑽

の実績審査と資格更新審査、および企業認定の更新審査1社を行った。2024年度の実績として新たに185名の認定情報技術者が誕生した。一方、資格更新しなかった技術者もいることから、2024年度末時点の資格保持者総数は1,702名（前年度の1,873名からは-171名）となっている。また、今年重点取り組みでは当初計画（プロモーション活動の強化）を変更し、CITP資格対象の拡大／見直しに向けた初期検討を行った。これはプロモーション強化の前段として「制度運用開始から10年を経る中、資格認定要件や審査基準の改革が不可欠」との共通認識を得たことによる。検討を行った結果、CITPが認定を得ているIFIP IP3国際認証を遵守しつつ「DX人材に対する資格拡充」が可能との見通しを得た。2025年度にWGを設けて具体検討を開始することを目指す。広報活動においては、10月に開催されたCEATEC2024のオンラインセッションで「情報技術の新たな地平：AIと量子が導く社会変革～情報処理学会が提供するセミナーと高度IT人材資格CITP～」と題する講演の中でCITPの紹介を行った。本講演は1ヶ月間オンラインで公開され、332名が視聴した。また、実務家向けの本会事業の横断的な広報取り組みに関しては、賛助会員の集いにおいて各事業の紹介が行われた。

5.5 初等中等教育での情報教育支援

(1) 初等中等教育への支援

初等中等教育現場の情報分野教員の養成支援、教材開発や出張授業などを通じて、教育現場支援をさらに推進した。第87回全国大会では、初等中等教員研究発表セッションを開催し、初等中等教員による8件の研究報告がされた。

(2) 高校教員への支援活動

現職研修も含めた「新たな教師の学びの姿」の実現のために、高校の情報科教員養成への支援を継続した。加えて、2022年度から始まった新指導要領の高校「情報Ⅰ/Ⅱ」に関する教員研修に対し、講師の派遣やオープン教材IPSJ MOOCの提供と教材の充実を継続して行った。JM00Cと本会の事業提携により、コンテンツ提供が今後本格化する見込みであり、そのための体制作りを検討した。小中高の教職員を対象とした会費割引キャンペーンは2024年度が最終年度となっていたため、次年度以降の支援のあり方について検討し、新たな小中高教員支援プログラムとして制度設計を行った。

5.6 その他

(1) 教育シンポジウムならびにコンテストの運営・後援等

- ① FIT2024において、イベント「高校情報科と大学情報入試」を開催した。対面で20名、オンラインで50名程度の方が参加され、情報入試に関する有意義な議論を行うことができた。
- ② 高校教科「情報」シンポジウム2024秋を、テーマ「大学入学共通テストとDXハイスクール」として、2024年10月27日に開催した。対面のみでの実施にもかかわらず170名の方々が参加された。
- ③ 情報システムに関連する教育実践の一層の拡充を図るために第16回情報システム教育コンテストISECON2024を開催した。
- ④ 若い世代への本会のプレゼンス向上を目指して、高専プロコン2024、パソコン甲子園2024、SuperCon2024など、大学生、高校生等を対象とするコンテストの後援（表彰活動）等を、例年どおりに推進した。
- ⑤ 第87回全国大会では、中高生を対象とした中高生情報学研究コンテストを現地開催で実施した。本コンテストは2018年度より実施しており、今回は140件の申込みがあった。また、前回同様全国大会に先立ち、各支部にもご協力を頂きながら、12月に全国を5つのブロック分けてブロック大会を開催し、各ブロックから選出されたチームが全国大会に出場できる開催形式とした。本コンテストの最優秀賞受賞者に文科省文部科学大臣賞を贈呈した。なお、審査委員の負担を軽減しつつより適切な審査を行えるように、審査方法の見直しと改善を行った。

(2) 大学入試科目に「情報」を導入するための活動

大学入試センターより、前年に引き続き、大学入学共通テスト「情報 I」の意見・評価の依頼があり、本会として評価作業を実施した。

(3) 学会誌への教育関連記事の掲載

会員の情報教育への関心を高め、初中等教育現場関係者の学会活動への参加を促すために、学会誌に「べた語義」などの教育関連連載記事を企画・編集した。

(4) 表彰, その他

- ① 教育関連の事業活動の成果を学会収益に結びつける仕組みや寄付の募集を行った。
- ② NII グローバルサイエンスキャンパス「情報科学の達人」プロジェクトの後継となる次世代科学技術チャレンジプログラムの運営に参画し、情報学分野のトップクラス人材の選抜審査と育成に協力した。前年に引き続き、第 87 回全国大会において第 5 期生の研究発表会と優秀者の表彰を行った。
- ③ 情報教育に関する活動の広報活動を積極的に行った。
- ④ 文科省が推進する「高等学校 DX 加速化推進事業 (DX ハイスクール)」に関して、文科省からの登壇依頼に応じて講演者を派遣した。また地方の DX ハイスクール校との面談や教員研修会の共催を行うなどの協力を行った。

6. 実施事業 3 : 学術講習会の開催 (定款第 4 条 1 項 1 号および 2 号)

※各開催状況の詳細は付録 2 (p. 37~p. 38) に掲載する。

6.1 全国大会/FIT

(1) 第 87 回全国大会

第 87 全国大会を 2025 年 3 月 13~15 日に立命館大学大阪いばらきキャンパスにてハイブリッド開催した。第 84 回全国大会以来、イベント・一般セッションは Zoom を用いたウェビナー・ミーティングにて実施を行い、遠隔からの講演、聴講も可能としている。86 大会から飲食を伴う懇親会を再開し、87 大会も学内にて開催した。講演件数は、1,608 件 (一般セッション 1,364 件、学生セッション 244 件)、参加者数は 4,504 名 (うち現地参加 2,851 名、オンライン参加 1,653 名) であった。顔はめパネルの設置やキャンパスツアーを行い好評であった。中高生情報学研究コンテストは、2023 年度開催したブロック大会 (全国を 5 つにブロック分け) を継続し全国大会選出チームを決定する開催形式とし、本大会にて選出チームによるコンテストを開催した。

※前年度参考: 講演件数 1,545 件、参加者数 4,198 名 (内現地参加 2,743 名、オンライン参加 1,455 名)

(2) 第 23 回情報科学技術フォーラム (FIT2024)

FIT2024 (第 23 回情報科学技術フォーラム) を、2024 年 9 月 4~6 日に広島工業大学五日市キャンパスにてハイブリッド開催した。イベント・一般セッションは Zoom を用いたウェビナー・ミーティングにて実施を行い、遠隔からの講演、聴講も可能としている。飲食を伴う懇親会を学内で行い、82 名程度が出席して参加者の交流が図れた。講演件数は 602 件、参加者数は併催研究会参加者 143 名も含めて 2,474 名 (うち現地参加 1,053 名、オンライン参加 1,421 名) であった。

※前年度参考: 講演件数 567 件、参加者数は 2,414 名 (うち現地参加 1,062 名、オンライン参加 1,352 名) イベントや一般セッションなど、当初予定していた企画はすべてハイブリッドで円滑に実施することができた。船井業績賞受賞者 Ling Liu 氏 (Professor, School of Computer Science, Georgia Institute of Technology) による受賞記念講演では、現地でご本人に講演いただき、多数の参加者から好評を得た。イベント企画 (計 12 件)、FIT2019 から開催のトップコンファレンスセッション (3 日間で 15 セッショ

ン, 87 件) も実施した。託児料金補助の準備をしたが利用者はいなかった。また、子供連れ参加者向けの休憩室を会場に設け、利用いただいた。JR 五日市駅から大学までの無料シャトルバスを運行した。

今回も企業によるインダストリアルセッションと IT 情報系キャリアセッションを開催した。また、スポンサー10 口を獲得した。

(3) 表彰

優れた発表を顕彰するため、全国大会優秀賞・奨励賞などを贈呈した。第 87 回全国大会より大会奨励賞の賞状はオープンバッジとした。詳細は付録 5 (p. 47, p. 49) に掲載する。

6.2 セミナー／IT フォーラム／プログラミング・シンポジウム

(1) 連続セミナー2024

「情報技術の新たな地平：AI と量子が導く社会変革」を全体テーマとし 2020 年度同様、新型コロナウイルス感染症の影響によりオンラインにて開催を行った。延べ申込数 826 名 (2023 年度 1, 072 名)、延べ参加者数 687 名 (同 904 名) の参加があった。多数の参加者を記録した前年度からは減少した。前年度から減少の要因としては、2023 年は生成 AI ブームにより記録的な参加者数の伸びがあったものの、今年度はブームに落ち着きが見えてきたことと、後半のセミナーの日程や講演内容の確定に時間がかかったことが考えられる。また広報活動として、テーマに関連する研究会への周知や SNS での事前通知を徹底するとともに、メール配信への反応や Peatix のイベントページ訪問数などをモニタするとともに、アーカイブ視聴を喚起するための Web ページの改善などを行なった。

※前年度参考：全 12 回、延べ参加者数 1, 072 名

(2) 短期集中セミナー

年度内に計2回の短期集中セミナーを開催した。

・ IPSJ ・ TTC 共催セミナー

「宇宙×ICTをデータ処理と通信、標準化の視点から」 (1月) ※ハイブリット開催参加者：478名

・ 「JPEG/MPEG最前線 ～国際標準化最新動向、

AIの活用とメタバースを実現する技術～」 (2月) ※オンライン開催参加者：32名

(3) IT フォーラム

IT 関連業界において現場で活躍されている産業界の方々を中心に、学界・官公庁関係の方々、次世代を担う若手の技術者・研究者の方々等、多くの方々がともに問題意識を共有し議論、交流を深められる場として、また IT 産業の今後を考える機会として「IT フォーラム 2025」を 2021 年度に引き続きオンラインで開催した (参加者：350 名 (内講演者・関連委員会委員・事務局 31 名))。

(4) プログラミング・シンポジウム

年度内に 3 回 (第 66 回プログラミング・シンポジウム (参加者 66 名) ハイブリッド開催、第 57 回情報科学若手の会 (参加者 45 名) 現地開催、夏のプログラミング・シンポジウム (参加者 61 名) 現地開催) のシンポジウムを開催した。

※前年度参考：プロシン参加者 60 名、若手の会参加者 29 名、夏プロシン参加者 22 名

6.3 IT フォーラム

① 2024 年度はサービスサイエンスフォーラム、コンタクトセンターフォーラム、CITP フォーラムの 3 つの IT フォーラムが活動を行った。各フォーラムの主な活動内容は以下のとおり。

・ サービスサイエンス：「IT フォーラム 2025」にてフォーラム開催、他 1 回 / 4 ヶ月でフォーラムをオンライン開催。

- ・コンタクトセンター：「ITフォーラム2025」にてフォーラム開催，他1回/2～3ヶ月でフォーラムをオンライン開催。
 - ・CITP：「ITフォーラム2025」にてフォーラム開催，定例会を4回（5月，8月，10月，1月）対面開催。
- ② ITフォーラム2025において，関連団体*との連携イベントを推進した。
- ※先端 IT 活用推進コミュニティ（AITC）

6.4 各支部による支部連合大会，講習会等の開催

支部連合大会，講習会，講演会，セミナー等，各支部において活発に活動がなされた。なお，現在は開催イベントの特性に応じて対面・オンライン・ハイブリッドで開催している。詳細は，付録2（p.39）および付録5（p.48～p.49）に掲載する。

7. 実施事業4：会誌の刊行（定款第4条1項1号および2号）

※発刊状況の詳細は付録3（p.40）に掲載する。

7.1 会誌「情報処理」

(1) コンテンツ

- ① 会誌「情報処理」第65巻5号から第66巻4号まで計12号（本文1,874ページ（内冊子版602ページ，電子版1,272ページ），広告64ページ，平均発行部数12,981部／号）を編集発行した。
- ② 会誌のハイブリッド刊行に向けて，2020年度からのオンライン版推進を更に加速した。
- ③ 学会誌「情報処理」noteには，「研究会推薦博士論文速報」，「未踏のスーパークリエイターたち」「教科『情報』の入学試験問題って？」，「2023年度論文賞の受賞論文紹介」など，過去記事と新規記事あわせて440記事を公開した。
- ④ 「読まれる学会誌」を目指して，会員サービス，および会員増という観点から編集を行い，時宜を得た特集，連載，単発記事が提供できるよう努めた。
- ⑤ さまざまなITに関する企画や研究会活動取材し，マンガ表現で分かりやすく解説する「IT紀行」の連載を継続した。
- ⑥ 時事性・話題性の高い記事をスピーディに掲載する「特別解説」，著名人による「巻頭コラム」，連載「ビブリオ・トーク」，連載「5分で分かる!? 有名論文ナナメ読み」，連載「情報の授業をしよう!」，連載「先生，質問です!」，教育コーナー「ぺた語義」などを引き続き掲載し，概ね好評を得た。
- ⑦ さまざまな分野とかかわる情報処理に目を向けた特集「音楽×情報処理」（65巻5号）や，生成AIと情報処理教育のかかわりなどを扱った特集「生成AIと教育」（65巻7号），「大学における数理・データサイエンス・AI教育の現状」（65巻9号）を掲載した。また小特集「私のコンピューティング人生の原点」（65巻10号），特集「ジェンダーと情報」（65巻11号）では，情報処理技術者が本分野を目指すことになった原点や，女性の働き方の現状について紹介した。
- ⑧ デジタルプラクティスから独立した，実務家向けの記事を掲載する「デジタルプラクティスコーナー」を年4回掲載し，そのうちの特集「生成AIの実社会への導入と乗り越えるべき壁」（66巻2号）は会誌との親和性が高い内容のため，会誌特集として掲載した。
- ⑨ 64巻5号より開始した博士号取得者への質問回答を掲載する連載「博士号とった人に聞いてみた」を継続した。

(2) その他、広報・宣伝の充実および編集体制の改善

- ① 4月から会誌広告代理店となった日刊工業コミュニケーションズによる、会誌広告企業/出版/セミナー情報提供サイト (<https://otsumami.tech/ipsj>) の公開を開始した。
- ② 年3回発行している学生向けの「インターン・就職情報誌」（会誌65巻7号、65巻12号、66巻4号同封）の掲載企業は52社であった。また新たに「若手研究者のためのキャリア情報誌」を創刊し、65巻2号に同封した。（Webにも同内容を掲載）
- ③ メールニュースをより魅力的なものとするため、引き続き「理事からのメッセージ」を掲載した。
- ④ 「情報処理学会 学会誌『情報処理』note」で無料/有料記事を公開、編集長が月に一度見どころを紹介する「情報処理学会誌編集長の独言（ひとりごと）」も継続した。また、X(旧 Twitter)での情報発信を充実させるなどオンラインメディアでの発信を強化した。
- ⑤ IPSJ メールニュースにおける会誌・論文誌の目次配信を継続した。
- ⑥ 学会の知名度向上をはかるため、技術書の展示会「技術書典16（オンライン）/17（オンラインおよび現地参加）」に会誌編集委員会として出展し、会誌特集別刷やグッズを販売した。
- ⑦ 全国大会にてIPSJ ONEの小学生版「IPSJ KIDS 準備室」，「IPSJ ONE KIDS」を現地開催しその模様を後日オンラインで配信した。
- ⑧ 毎年12月号に掲載している総目次を紙面からオンライン掲載に移行したことで印刷費を削減した。

8. 実施事業5：論文誌・学術図書等の刊行（定款第4条1項1号および2号）

※各発行状況の詳細は付録3（p.40～p.41）に掲載する。

8.1 論文誌（ジャーナル/JIP/トランザクション/デジタルプラクティス）

(1) 「情報処理学会論文誌（ジャーナル）」（月刊）

- ① 論文の充実（論文投稿数の増加に向けた取り組み）

論文誌（一般論文，特集号論文）の月刊体制を維持し，目標220編に対し209編（含JIP preprint62編）が掲載された。招待論文を4編掲載し，特集号を15号発行した。ジャーナル/JIP編集委員会幹事会が提案母体となる「若手研究者特集号」を企画（投稿条件：第一著者が40歳以下の会員）し，若手研究者に対して投稿機会を提供するとともに，第一著者50%の方が本特集号をきっかけに入会をした。第87回全国大会でイベント企画「論文必勝法」を企画し，論文執筆やその指導法についての講演や，論文投稿に関するノウハウを参加者に共有し，論文投稿数の増加を図った。

※前年度参考：213編

- ② 論文誌編集委員の貢献に報いるため，論文編集委員会より論文編集貢献賞を選定し贈呈した。
- ③ 幹事会，グループ会議ともに原則オンライン開催を継続し，年1回のみハイブリッド会議を開催した。Google driveを活用した原稿管理表の共有，Slackによる情報共有，google docによるノウハウの共有など編集委員会運営の効率化を行った。
- ④ 特集号編集委員会からの要望である査読結果の一括ダウンロード機能について，査読システム（Scholar one manuscript）のトピック機能を活用することとし，システム改修について検討した。
- ⑤ デジタルコンテンツ事業検討委員会とともに電子図書館のプラットフォームについて検討を進めた。

(2) 「Journal of Information Processing (JIP)」

- ① 年間論文掲載数の目標90編に対して掲載件数は89編（うち招待論文2編）であった。国外からの投稿に対する優遇策を継続して実施している。

※前年度参考：93 編（うち招待論文 3 編）

- ② 二重投稿対策として英文論文を対象とし、剽窃チェックツールを活用した。
- ③ Impact factor 取得のため、英文論文の質を向上させつつ関係先と調整を続けた。J-STAGE ジャーナルコンサルティングプログラムに採択され、2024 年度はジャーナルインパクトファクター取得の準備として JIP の OA 誌化を目指すコンサルティングを受け、JIP Information for Authors の改訂を進めている。

(3) トランザクション（10 誌）

研究会が編集した「情報処理学会論文誌（トランザクション）」10 誌を年度内に計 29 回発行した。トランザクションの掲載論文は目標 120 編に対し計 103 編（含 JIP preprint26 編）となった。

※前年度参考：10 誌 120 編

(4) その他

各誌の優れた論文を顕彰するため、論文賞を贈呈した。詳細は付録 5（p. 44）に掲載する。

8.2 専門誌：教科書シリーズほか

J17 も参考にしながら新企画書の発行と既企画のメンテナンスとを中心に活動を行い、新刊 1 冊、重版 19 冊を発行した。IT テキストシリーズ全ての今年度販売数は 9,908 部。

※前年度参考：9,555 部

8.3 歴史資料の保存・公開

- ① 「情報処理技術遺産1件の関連調査と認定を行った（情報処理技術遺産 累計：110件）。詳細は付録5（p. 50）に掲載する。
- ② 「コンピュータ博物館」の今年度のアクセス数は、876,431件（日英合わせ）、転載数12件であった。
※前年度参考：アクセス数654,665件、転載数9件
- ③ 第87回全国大会（ハイブリッド開催）で特別セッション「私の詩と真実」で2件講演発表を行った。

8.4 デジタルコンテンツ事業の推進

- ① 多くのユーザーへのビジビリティ向上を目的に2014年4月より開始したサイトライセンスサービスについて、2014年度開始当初契約数36件から2023年度88件とサービスを拡大してきている。ダウンロード数も2022年度と比べて20%増加している。また、大学図書館コンソーシアム連合の会員館のうち希望する機関に対し、期間限定の無料トライアルを実施し、サイトライセンスサービスの周知拡大に努めた。
- ② 電子図書館については情報学広場をWeko3に移行して継続利用する方向で、3段階のステップで2022年度は本体開発と移行ツール開発、2023年度は総合試験を実施し、2024年度に向けて移行の準備を行った。
- ③ 倫理普及検討WG主導で倫理綱領啓蒙普及目的の倫理事例ビデオを電子情報通信学会と共同で制作した。
- ④ JM00C特別講座について、（一社）日本オープンオンライン教育推進協議会と協力して今後の具体的な連携内容を検討していくこととした。

9. 実施事業 6：標準化活動（定款第 4 条 1 項 3 号）

9.1 情報規格調査活動

(1) ISO/IEC JTC1 対応組織としての戦略的な貢献

ISO/IEC JTC 1 直属の 20 の SC（全 23SC 委員会中）および各 AG（Advisory Group）、WG、AHG（Ad Hoc Group）の対応を行った。さらに国際提案準備と、JIS 原案作成を行った。前年度から引き続き、文字コード（SC 2）、デジタル記録媒体（SC 23）、メディア符号化（SC 29）、文書記述言語（SC 34）などの重点領域の委員会議長、幹事国などの国際役職引き受けを継続するとともに、国の代表として、JTC 1 総会（5 月、11 月）に出席し、審議プロセス・組織の見直し、新規標準化領域などの議論に参加した。会議の開催形態は、今年度は 2 回とも対面開催であった。

- ① 今年度の引き受け件数は、議長 2 件（全 23SC 委員会中）、セクレタリアート 4 件（全 23SC 委員会中）。その他、コンビーナ（各 SC 委員会傘下の WG 主査）9 件（130WG 中）、プロジェクトエディタ 延べ 83 名と 2023 年度同様に貢献した。
- ③ 11 月の総会で新設が決議された SC 44（Consumer protection in the field of privacy by design）については、新設された後の国内体制について検討を開始した。なお、一昨年 5 月の JTC 1 総会で新設が決議されたスマートシティの SC 新設については、その後 ISO/TMB および IEC/SMB で是非について議論を行った結果、スマートシティに関する議論を行なっている ISO TC 268、IEC SyC Smart cities と JTC 1/WG 11 を統合して新たに ISO/IEC JTC 4 として発足させることになった。
- ④ 国際標準化の日本提案としては、新業務項目（NP）の提案（承認済）7 件、国際標準（IS）などの発行されたもの 8 件などである。
- ⑤ 標準化の対象が社会システムなど上位のレイヤに移るトレンドの中、JTC 1 が取り組むテーマが ISO、IEC、および ITU-T と重複する傾向が進んでいるため、JTC 1 と連携テーマがある ITU-T への国内対応委員会を設置している（一社）情報通信技術委員会（TTC）との連絡会を継続して開催した。

(2) 健全な情報規格調査会の運営の維持

- ① 今年度の国際会議は、対面開催が基本になり、渡航費等の支出も増加している。1,270 回の標準化国際会議への参加者は、対面、ハイブリッド、オンライン合わせて、延べ 3,893 人であった。
- ② 国内においても、オンライン開催に加え、技術委員会を四半期毎に機械振興会館での対面開催とするなど、各専門委員会でも対面とオンラインを使い分けながら運用している。
- ③ 今年度も引き続き、本部と情報規格調査会との連絡会を開催した。中長期戦略、予算策定などの情報を共有しつつ運営を推進した。

(3) 標準化活動の支援と広報

- ① 前年度に引き続き、委員会活動を広く紹介するための一般向け広報として、活動報告を公開ホームページに掲載した。特に今年度は、JTC 1/AG 1（Communications）が四半期毎に発行する News Letter の和訳の掲載を開始した。
- ② 情報技術標準化フォーラムは、今年度も中止とした。
- ③ SC 29「PEG/MPEG 最前線 ～国際標準化最新動向、AI の活用とメタバースを実現する技術～」，ITSCJ・TTC「宇宙×X をデータ処理と通信、標準化の視点から」、日本機械輸出組合向けセミナーの 3 件のセミナーを実施した。また、本会第 87 回全国大会のイベント企画として「情報技術における国際標準化活動 ～ISO/IEC JTC 1 の活動紹介～」の標準化活動紹介セミナーを実施した。
- ④ 広報活動を強化し、情報規格調査会の存在と活動の認知度を高めるため、広報広聴戦略委員会に参加した。

(4) 表彰

標準化関連活動への貢献を顕彰するため、標準化功績賞等を贈呈した。詳細は付録 5（p. 49～p. 50）に掲載する。

10. 実施事業7：国際活動（定款第4条1項5号および2号）

10.1 関連する海外学協会との連携・協力

(1) International Federation for Information Processing (IFIP) 活動への参加

- ① IFIP 日本代表、各 TC 日本代表の総会 General Assembly (GA) ・理事会 Council への参加
IFIP 総会 (9月19日～20日 リスボン (ポルトガル) / オンライン) に相田 IFIP 日本代表が参加した。
- ② 各 TC 日本代表が TC-meeting へ参加した。会誌 (3月号) への活動報告、会議レポートの掲載のほか、メールニュース、Web を利用した情報発信を行った。
- ③ International Professional Practice Partnership (IFIP IP3) へ継続的に参画している (IP3は 2015年10月に正式に IFIP の組織と承認された)。

(2) IEEE-Computer Society との連携・協力

- ① 2024年7月2日～4日に大阪で開催された The 48th Annual International Computer Software & Applications Conference (COMPSAC2024) への技術協力を行った。
- ② 第87回全国大会において IEEE-CS 会長 鷲崎弘宜氏の招待講演を行った。
演題「Impact of IEEE Computer Society in Advancing Emerging Technologies including LLM/AI and Software Engineering」
- ③ 姉妹学会 MOU を継続し、会員向けの連携サービスを継続。
- ④ IEEE-CS と本会との Joint Award として、「IPSJ/IEEE-CS Young Computer Researcher Award」2名の受賞者を決定した。

(3) ACM との連携・協力

- ① ACM と本会との Joint Award として、「IPSJ/ACM Award for Early Career Contributions to Global Research」1名の受賞者を決定した。
- ② 第87回全国大会において、Joint Award 表彰式と ACM 会長 Yannis Ioannidis 氏の招待講演をオンラインで行った。
演題「ACM on Information System Flawlessness, Risk and Dependability」

(4) 海外学協会との連携・協力

- ① China Computer Federation (CCF) と Korean Institute of Information Scientists and Engineers (KIISE) との連携・協力
 - ・10月のCCFの年次大会において、副会長が挨拶を行った。
 - ・6月のKIISEの年次大会において、会長がビデオメッセージ挨拶を行った。
 - ・第87回全国大会において、CCF副会長 Shimin Hu 氏の招待講演を行った。
演題「Advancing 3D Reconstruction and Generation: From NeRF to 3D Gaussian Splatting」
 - ・第87回全国大会において、KIISE会長 Byungseok Shisn 氏の招待講演をオンラインで行った。
演題「50 Years of Korean Software Research with KIISE and beyond」
- ② 2023年度の第86回全国大会で中国CCFより提案されたAPAC (Asia-Pacific Alliance for Computing) の創設について、本会として参画するスタンスで対応を進めた。
- ③ 他の海外学会との協力関係の継続
以下の海外学会との協力関係を継続するとともに、アジアの関連学会とは中長期的な交流に向けて意見交換や相互訪問を行った。
 - ・Institute of Electrical and Electronics Engineers (IEEE)
 - ・Australian Computer Society (ACS)

・ Computer Society of India (CSI)

③ The International Association for Pattern Recognition (IAPR) 活動への参加

(5) 国際会議の開催（2 件）※今年度内に終了報告が完了した国際会議

詳細は付録4（p. 43）に掲載する。

なお、今年度内に開催された国際会議は以下のとおり。

・ iPWS Cup 2024

2024年9月20日、国立京都国際会館

・ 30th Asia and South Pacific Design Automation Conference (ASP-DAC 2025)

2025年1月20日～23日、日本科学未来館

1 1. その他：関連学協会等との連携および協力（定款 4 条 1 項 6 号）

11.1 関連学協会・日本学術会議

(1) 日本工学会および電気・情報関連学会連絡協議会への参加

日本工学会事務研究委員会へ参加した。また、電気・情報関連学会連絡協議会への参加など関連学協会
の共通の問題について意見交換を行った。特にコロナ対応の学会事業、事務局業務につき連携を図った。

(2) 研究発表・学術講習会等の共催

電子情報通信学会との共催による「情報科学技術フォーラム (FIT)」, (一社) 情報通信技術委員会と
の共催による「宇宙×ICT をデータ処理と通信, 標準化の視点から」セミナーほか, 研究発表会および学
術講習会において, 関連学協会等と適宜共催を行った。

(3) 日本学術会議など関連団体等への協力

日本学術会議に協力学術研究団体として協力するとともに, 理学・工学系学協会連絡協議会に参加した。

11.2 会議の協賛後援等

(1) 国内会議の協賛・後援等

U16 プロコン八王子大会 (U16 プロコン八王子主催 2024 年 12 月 15 日 (日) 開催) ほか, 関連学協会等
の会議の協賛・後援等 93 件を行った。

(2) 国際会議の協賛・後援等

The 25th International Conference on Formal Engineering Methods (ICFEM2024) (ICFEM主催 2024年
12月2日 (月) ～6日 (金) 開催) ほか, 関連学協会等の会議の協賛・後援等18件を行った。

1 2. 法人運営

(1) ニューノーマルに向けた取り組み

ニューノーマル時代, そして持続可能な地球環境と経済活動の両立が必須となる世界において「本会
60 周年宣言～More local and more diverse for global values～」を念頭に, 引き続き学会のイベン
ト, 委員会等各種活動を, オンライン開催, 現地開催, あるいはハイブリッド開催といった適切な形態
で推進した。2024 年度定時総会からは, 定時総会出欠・委任状・議決権行使を Web 上で管理するシステ
ムを導入した。また, 事務局業務に関しても 2020 年からの BCP/DX 化推進を継続・強化した。

(2) 中長期計画の推進

去る2020年11月に公表した「60周年宣言」に基づき2021年度に策定した「中期計画」を推進するとともに、本会各種活動の「データドリブンな意思決定」に向けた第一歩として、「本会主要アクティビティ」をその名称を「学会主要活動指標」として理事会レベルで共有し活動の活性化に繋げていく取り組みを進めた。

12.1 財務基盤の強化

- ① 財務基盤安定のための検討と学会のビジネスモデルの検討を長期戦略の検討と合わせて継続した。
- ② 2022年度版事業別サマ리를財務会計および管理会計に適用し、健全な学会運営・財務管理体制構築を推進した。

12.2 アドバイザリーボードによる運営改善

アドバイザリーボードは、ユーザー企業、ベンダー企業、アカデミア、教育など幅広い分野から、各分野の識者10名をお招きし本会の活動に対して第三者として忌憚のない意見を頂き、それらを本会の活動や在り方に生かしていくことを目的として開催している。今年度は、ボードメンバー2名を新たに迎え2024年11月に開催した。開催にあたっては、前回のアドバイザリーボードでご意見を頂いた「社会を変えた大きな変化に対して何をやっていくべきなのか」を踏まえつつ、「学会員を増やす取り組み」、「サステナブルな情報の在り方」、「活動のすそ野を拓ける」といった切り口でご意見を頂き、これらを継続的に検討し本会運営の改善に役立てていく。

12.3 広報広聴活動の推進

学会中期計画を踏まえ、広報広聴戦略委員会の傘下9つのワーキンググループで各活動を推進した。また、「入会に結びつけるための広報戦略」として本会各種活動を「会員サービスの差別化」という視点から現状把握ならびに今後の活動の方向性について検討を進めた。更に学会を活用した高度技術人材の育成・活躍をめざして、2025年3月学会Webページに会長声明を公表した。

(1) ウェビナーWG

- ① 情処ウェビナー第11回（4/30、視聴者数1,282名）を開催した。

(2) SNSWG

- ① XおよびFacebook等で学会プレゼンスの向上、行事等の周知を行った。
- ② SNS発信強化として体制の整備を進めた。
- ③ 2025年度に向けて、SNSチームによる学会各種イベントへの取材検討を進めた。

(3) Web サイト WG

- ① Webサイトの利便性向上、訪問者の導線を短くし満足度を上げるためにFAQのリニューアル（検索機能追加）を行った。
- ② 学会Webトップページに学会活動への興味を引くようなインタビューコンテンツ「ピックアップ」コーナー、タイムリーで時事性の高い話題を取り上げた「Check it ピックアップキーワード」コーナーを継続し、トップページコンテンツの魅力向上を図った。

(4) メール WG

- ① 配メールを活用し、メールニュース、セグメントメール、イベント案内メール、入会者ステップメールの配信を前年度同様に推進した。
- ② テキストメールだけでなくHTMLメールも活用し、各種イベント案内等の訴求力向上を図った。

(5) ガイドライン WG

- ① 2022年度に作成した広報広聴戦略ガイドライン（メール・イベント・Webサイト）を、理事会をはじめ

め各委員会，研究会に周知し利活用の促進を図った。

(6) 学生交流向け WG

① オンラインセミナーを3回開催した。

- ・「博士に進学するな，と言われたら？（11/25）」参加者86名
- ・「一目置かれるための発表練習方法（12/25）」参加者219名 ※再放送（2/7）参加者89名
- ・「全国大会の歩き方2025（3/3）」参加者73名 ※再放送（3/10）参加者59名

(7) 産業界向け WG

- ① 「賛助企業との交流会」を隔月ペース（4/17，6/26，8/20，10/2，11/129，3/6）で開催し，参加者から好評を得た。また，11/29の開催は初の現地開催を実施した。
- ② 各会の開催時には，本会の活動紹介スライドを流し企業の方々へ学会活動に興味を持ってもらえるよう訴求を行った。

(8) 情処ラジオ WG

- ① Info-WorkPlace委員会と連携し，YouTube，Podcastで「情処ラジオ」を継続配信した。
- ② 2024年9月のFIT2024，2024年12月の理工系女子のためのキャリアフォーラム2024，2025年3月の第87回全国大会でイベント企画として座談会を実施した。

(9) ノベルティ WG

- ① 販売用Tシャツを，技術書の展示会「技術書典17（オンラインおよび現地参加）」で販売した。
- ② ファイバークロスを，巻頭コラム執筆者へ寄贈，FIT2024，第87回全国大会でも一部配布した。
- ③ 本会のプレゼンス向上（SNS拡散）のため，ファイバークロス，うちわ，シールを作成し第87回全国大会で配布した。

12.4 学会情報システム・DXの見直し

情報システム・DX委員会が主体となり，学会情報システムの見直しに加え，ニューノーマル時代に向けた事務局業務のBCP/DX化を推進した。

- ① 電子図書館（情報学広場）については，新システム（Weko3）への移行に伴う課題の把握と対策を実施し，2022年より進めてきた開発を完了。2025年2月より運用を開始した。
- ② 学会 Web サイトの FAQ について，情報の掲載方法を見直して事務局問合せ負荷の軽減を図るとともに，会員・入会希望者等の利便性向上のため検索機能の導入を進めた。
- ③ 学会会員システム(SMMS)につき，クレジットカード決済方式移行（3Dセキュア対応）に伴う改修を完了した。
- ④ Web上で定時総会出欠・委任状・議決権行使を管理するシステムを運用開始し，2024年度定時総会に導入した。
- ⑤ オープンバッジの適用を推進し，2025年3月全国大会学生奨励賞で利用を開始した。
- ⑥ 事務局職員 PC 入れ替え（主に Windows11マシンへの移行）やシステムプラットフォームの強化・ライセンス更改などを継続的に実施した。
- ⑦ 支部Webサイトのシステム統合は，8支部中6支部について完了済みであり，2024年度の実施はなし。サイト未統合の東北支部については，2025年度の統合に向け，費用見積りと予算化を行った。
- ⑧ 2025年度の学会本部事務局移転にあわせて，事務局のBCP対応およびセキュリティ対策としてサーバ類の冗長化ならびにオンプレミス・サーバのクラウド化，オフィスLANへのリモートアクセス化の検討を進めた。

12.5 著作権関連

著作権の利用許諾に関する対応などを行った。また，JST，学術著作権協会からの要請があった本会コ

ンテンツの AI 利用の可否については、著者の権利を尊重し、著作者人格権を行使させる権利は残しておくという考えのもと検討を進め、JST ならびに学術著作権協会に対して利用を認める、こととした。

12.6 ダイバーシティへの取り組み

NPO 法人「女子中高生理工系キャリアパスプロジェクト」へ賛助会員加入を継続した。また、「男女共同参画学協会連絡会」へに正式加盟学協会会員として加入を継続した。また、2023 年度に ACM から本会へ依頼された DEI Award のノミネーションについて、本会として日本科学未来館 浅川智恵子氏を推薦した。

12.7 倫理綱領の普及啓蒙

電子情報通信学会との共同で倫理事例動画の作成、整備を行い、事例紹介動画を YouTube で公開し普及啓蒙を推進した。なお、本活動に関する本会側対応については、定時総会をもって終了とした。

12.8 ワークプレイスへの取り組み

Info-WorkPlace 委員会を中心に、働き方改革やダイバーシティへの取り組みに関する情報発信・情報共有に力を入れた。特に、情処ラジオワーキンググループと連携し、「情処ラジオ」として、聞き流しが可能な音声による発信を継続した。テーマは、会員の疑問や進路の不安、人間関係、キャリア形成など、生き方全般を主に取り上げた。司会（ナビゲーター）がゲストの体験談や周りにいる人の話を聞いて、公開する形式で行った。また、2024 年 9 月の FIT2024、12 月の理工系女子のためのキャリアフォーラム 2024、2025 年 3 月の第 87 回全国大会において、イベント企画として公開座談会を実施し一部を YouTube（IPJS 公式チャンネル）で配信・公開した。その他にも聴覚障がい者からのヒアリングといった取り組みも進めた。なお、本活動を所掌する「Info-WorkPlace 委員会」は、その活動内容も含め委員会名を「ダイバーシティ委員会」に変更する方向で検討を進めた。

12.9 その他表彰等

(1) 顕彰、名誉会員・フェローの選定など

功績賞、学会活動貢献賞の贈呈のほか、フェロー認定を行った。詳細は付録 5（P. 44, P. 47, P48）に掲載する。また、本会では外部団体が主催する学術賞について、本学会内に選考 WG などを設け候補者を募集し、情報処理分野のみならず推薦を行った。主な賞は次の通り（日本学術振興会賞、日本学術振興会育志賞、電気科学技術奨励賞など）。

(2) 学会運営サポート

健全な法人運営のために、監査法人のほか弁護士、税理士、社労士、司法書士との顧問契約を継続している。

(3) 事務局職員

事務局常勤職員の年度末在籍者は 29 名（本部 22 名、規格 7 名）である。なお、2025 年 2 月より事務局長が交代した。

※前年度参考 31 名

以上

付1. 会議等に関する事項（総会、理事会、各種委員会）

■ 総 会

[2024年度定時総会の構成（定款・法人法上の社員）]

総代表会員数：124名

※総会成立定数：63名

*会議の結果はいずれも全会一致

開催年月日	議事事項	会議結果
2024年度定時総会 (ハイブリッド参加型開催) 2024年6月5日 議長：森本典繁（会長） 出席：88名（内、委任状39名）	<決議事項> 第1号議案：2023年度に係る財務諸表等の件 第2号議案：新名誉会員の推薦の件 第3号議案：一部役員の任期満了による新役員の選任の件 <報告事項> 第1号報告：2024年度に係る計画等の件 第2号報告：会費滞納会員の取り扱いの件	承認 承認 承認 報告 報告

■理事会

[第677回までの構成（理事27名）]

会 長：森本典繁

副会長：松原 仁、田島 玲

先任理事：荒瀬由紀、稲見昌彦、大場みち子、小川秀人、加藤由花、鎌田真由美、木村朝子、佐藤寿倫、寺田雅之、長原 一、野田夏子

後任理事：井上美智子、小野智弘、河合和哉、斉藤典明、櫻井祐子、首藤一幸、田村孝之、中山泰一、長谷川亘、湊 真一、吉濱佐知子

監 事：長谷川輝之、中野美由紀

[第678回以降の構成（理事28名）]

会 長：森本典繁

副 会 長：田島 玲、砂原秀樹

先任理事：井上美智子、小野智弘、河合和哉、斉藤典明、櫻井祐子、首藤一幸、田村孝之、中山泰一、長谷川亘、湊 真一、吉濱佐知子

後任理事：稲見昌彦、大場みち子、緒方広明、鎌田真由美、岸 知二、木村朝子、高岡詠子、千葉直子、塚本昌彦、寺田 努、遠山紗矢香、山下直美

監 事：中野美由紀、長谷川輝之

※理事会成立定数：13名（第677回まで）、14名（第678回以降）

*会議の結果はいずれも全会一致

[illegible]

第676回理事会(オンライン開催) 2024年4月26日 議長：森本典繁(会長) 議決可能理事数：全議案とも25名 出席理事数：21名	<承認事項> 1. 2024年度定時総会の招集について 付. 総会までのスケジュール[総務] 2. 2024年度定時総会関係[総務・財務] (1) 2023年度事業報告・付録 (2) 2023年度決算報告(会計監査前) (3) 2024年度事業計画 ※総会報告事項 (4) 2024年度予算 ※総会報告事項 (5) 名誉会員の推薦(2024年1月第674回理事会承認済) (6) 一部役員の任期満了による新役員の選任 (7) 会費滞納会員の扱い ※総会報告事項 3. 「「高柳健次郎」映像表示の実現100周年記念国際シンポジウム2026」の共催依頼[総務] <審議事項>(該当なし) <報告事項> 1. 2023年度末会員数状況[総務] 2. 2024年度定時総会以降の役員担当業務等(予定)[総務] 3. 第32回経営企画委員会議事録[総務] 4. 2023年度情報システム・DX委員会活動報告[総務] 5. 外来語表記(カタ)末尾の長音符号に対する対応について(結果報告)[会誌] 6. 2023年度資格制度運営委員会報告[教育] 参. 理事会アクションアイテムリスト	承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 確認 確認 確認 確認 確認 確認
決議の省略・報告の省略 2024年5月16日(監事確認日) 議決可能理事数：全議案とも25名	<法令および定款により理事会決議があったものとする事項> 1. 2023年度事業報告[総務] 2. 2023年度財務諸表等[財務] 3. 2022年度監査報告書[総務・財務]	承認 承認 承認
決議の省略・報告の省略 2024年5月30日(監事確認日) 議決可能理事数：全議案とも25名	<法令および定款により理事会決議があったものとする事項> 1. 2024年4月の新規入会申請[総務] 2. 功績賞ならびに顕功賞受賞候補者選定手続の改訂について[総務] 3. Info-WorkPlace委員長の任期延長について[総務] 4. 国内会議への協賛・後援願いについて[総務] 5. 国際会議への協賛・後援願いについて[総務] 6. シンポジウム等の開催願い[調査研究・教育] 7. 領域委員会財務委員の交代について[調査研究] 8. 2024年度JIS案作成事業に係る契約締結承認願い[標準化] 9. 情報規格調査会委員の変更[標準化] 10. 情報規格調査会規程実施細則の変更について[標準化] <法令および定款により理事会報告があったものとする事項> 1. 2024年4月期開催会議[総務] 2. 第36回Info-WorkPlace委員会議事録[総務] 3. 第302回会誌編集委員会議事録、会誌特集・巻頭コラム一覧、理事からのメッセージ[会誌] 4. 第515回論文誌ジャーナル/JIP編集委員会(幹事会)議事録抜粋[論文誌] 5. 外来語表記(カタ)末尾の長音符号に対する対応について[論文誌] 6. 第106・107回資格制度運営委員会議事録[教育] 7. 第97回個人認証審査委員会議事録[教育] 8. 第103・104回企業認定審査委員会議事録[教育] 9. 第420回規格役員会議事録[標準化]	承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 確認 確認 確認 確認 確認 確認 確認 確認 確認
第677回理事会(ハイブリッド開催) 2024年6月5日 議長：森本典繁(会長) 議決可能理事数：全議案とも25名 出席理事数：25名	<承認事項> 1. 次期事務局長の採用について[総務] 2. iPWS Cup 2024国際会議開催申請書[調査研究] 3. 第86回全国大会大会優秀賞・大会奨励賞受賞候補者[事業] <審議事項>(該当なし) <報告事項> 1. 法令・定款による理事の職務執行状況報告(3月~5月)[総務] 2. 期末会計監査結果報告書：詳細(監査法人)[総務] 3. 2024年度定時総会以降の役員担当業務等(予定)[総務] 4. 第33回経営企画委員会議事録[総務] 5. 第18回広報広聴戦略委員会議事録[総務] 6. 2023年度監事監査報告ならびに付帯意見[総務] 参. 理事会アクションアイテムリスト	承認 承認 承認 確認 確認 確認 確認 確認 確認 確認
第678回理事会(ハイブリッド開催) 2024年6月5日 議長：森本典繁(会長) 議決可能理事数：全議案とも26名 出席理事数：25名	<承認事項> 1. 代表理事(副会長)および業務執行理事の選定	承認

決議の省略・報告の省略 2024年6月28日(監事確認日) 議決可能理事数：全議案とも26名	<法令および定款により理事会決議があったものとする事項> 1. 2024年5月の新規入会申請[総務] 2. 国内会議への協賛・後援願いについて[総務] 3. 国際会議への協賛・後援願いについて[総務] 4. シンポジウム等の開催願い[調査研究] 5. 日本工学会CPD協議会退会について[教育] 6. 2024年度JIS案作成事業に係る契約締結承認願い[標準化] 7. 情報規格調査会委員の変更[標準化] <法令および定款により理事会報告があったものとする事項> 1. 2024年5月期開催会議[総務] 2. 第37・38回Info-WorkPlace委員会議事録[総務] 3. 第303回会誌編集委員会議事録、会誌特集・巻頭コラム一覧、理事からのメッセージ[会誌] 4. 第124回歴史特別委員会議事録[会誌] 5. 第99回調査研究運営委員会議事録[調査研究] 6. 第516回論文誌ジャーナル/JIP編集委員会(幹事会)議事録抜粋[論文誌] 7. 第109回セミナー推進委員会[技術応用] 8. 第88・89回FIT運営委員会議事録[事業] 9. 第421回規格役員会議事録[標準化]	承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 確認 確認 確認 確認 確認 確認 確認 確認 確認
決議の省略・報告の省略 2024年7月26日(監事確認日) 議決可能理事数：全議案とも26名	<法令および定款により理事会決議があったものとする事項> 1. 2024年6月の新規入会申請[総務] 2. 国内会議への協賛・後援願いについて[総務] 3. 国際会議への協賛・後援願いについて[総務] 4. シンポジウム等の開催願い[調査研究] 5. 2024年度山下記念研究賞受賞候補者一覧[調査研究] 6. 情報規格調査会委員の変更[標準化] <法令および定款により理事会報告があったものとする事項> 1. 2024年6月期開催会議[総務] 2. 2024年度フェロー・マイクロソフト情報学研究賞・情報処理技術研究開発賞選定手順等について[総務] 3. 令和7年度文部科学大臣表彰若手科学者賞の候補者推薦[総務] 4. 第304回会誌編集委員会議事録、会誌特集・巻頭コラム一覧、理事からのメッセージ[会誌] 5. 各領域委員会報告(議事録抜粋)[調査研究] 6. 第517回論文誌ジャーナル/JIP編集委員会(幹事会)議事録抜粋[論文誌] 7. 第41回技術応用運営委員会・第36回ITフォーラム推進委員会合同委員会議事録[技術応用] 8. 第110回セミナー推進委員会[技術応用] 9. 2024年度全国大会運営委員会・第87回全国大会プログラム委員会・第1回合同委員会議事録[事業] 10. 情報処理教育委員会(2024年度第1回)議事録[教育] 11. 第108・109回資格制度運営委員会議事録[教育] 12. 第422回規格役員会議事録[標準化]	承認 承認 承認 承認 承認 確認 確認 確認 確認 確認 確認 確認 確認 確認 確認 確認 確認
第679回理事会(オンライン開催) 2024年7月31日 議長：田島玲(副会長) 議決可能理事数：全議案とも26名 出席理事数：23名	<承認事項> 1. ICMU2023国際会議終了報告書[調査研究] 2. ICMU2025国際会議開催申請書[調査研究] 3. HPCAsia2024国際会議終了報告書[調査研究] <審議事項> 1. 中長期計画に関するKPIについて(年度別学会主要アキティティ推移)[経営企画] <報告事項> 1. 第34・35回経営企画委員会議事録[総務] 2. 第18回広報広聴戦略委員会議事録[総務] 3. 2024年7月広告収入状況ならびに広告提供のお願い[会誌] 4. 第87回情報処理学会教科書編集委員会議事録[会誌] 5. 2024年度論文誌ジャーナル・JIP・トランザクション(10誌)-掲載状況[論文誌] 参. 理事会アクションアイテムリスト	承認 承認 承認 継続検討 確認 確認 確認 確認 確認 確認
決議の省略・報告の省略 2024年8月31日(監事確認日) 議決可能理事数：全議案とも26名	<法令および定款により理事会決議があったものとする事項> 1. 2024年7月の新規入会申請[総務] 2. 国内会議への協賛・後援願いについて[総務] 3. 国際会議への協賛・後援願いについて[総務] 4. 情報処理学会と日本アカデミー会における企業実践論文の提携開始について[会誌] 5. シンポジウム等の開催願い[調査研究] 6. 大会優秀賞・大会奨励賞候補者選定手続の改訂について[事業] 7. 2024年度上期CITP個人認証合格者承認依頼[教育] 8. 理数系学会教育問題連絡会への参加方法移行[教育] 9. 2024年度JIS案作成事業覚書締結に係る承認願い[標準化] <法令および定款により理事会報告があったものとする事項> 1. 2024年7月期開催会議[総務] 2. 2025年度役員・代表会員選挙日程[総務] 3. 第518回論文誌ジャーナル/JIP編集委員会(幹事会)議事録抜粋[論文誌] 4. 第111回セミナー推進委員会[技術応用]	承認 承認 承認 承認 承認 再提案 承認 承認 承認 確認 確認 確認 確認 確認

決議の省略・報告の省略 2024年12月2日（監事確認日） 議決可能理事数：全議案とも26名	<法令および定款により理事会決議があったものとする事項> 2024年10月の新規入会申請〔総務〕 - 国内会議への協賛・後援願いについて〔総務〕 「生成AIによるソフトウェア開発」出版提案書〔会誌・出版〕 - シンポジウム等の開催願い/終了報告〔調査研究〕 <法令および定款により理事会報告があったものとする事項> 2024年10月期開催会議〔総務〕 - 第40-42回Info-WorkPlace委員会議事録〔総務〕 - 第27回デジタルコンテンツ事業検討委員会兼NII-IPJS協議会議〔総務〕 - 第307回会誌編集委員会議事録、会誌特集・巻頭コラム一覧、理事からのメッセージ、2023年度モチ評価〔会誌〕 2025年度研究会登録費の改定について〔調査研究〕 - 第520・521回論文誌ジャーナル/JIP編集委員会（幹事会）議事録抜粋〔論文誌〕 - 第113回セミナー推進委員会議事録〔技術応用〕 2024年度第3回全国大会運営委員会議事録〔メール審議〕〔事業〕 - 第90回FIT運営委員会議事録〔事業〕 - FIT2024学術賞選定委員会議事録〔事業〕 - 第112回資格制度運営委員会議事録〔教育〕 - 第108回企業認定審査委員会議事録〔教育〕 - 第425回規格役員会議事録〔標準化〕	承認 承認 承認 承認 確認 確認 確認 確認 確認 確認 確認 確認 確認 確認 確認 確認 確認 確認 確認 確認
12月役員検討会（オンライン開催） 2024年12月20日 議長：田島玲（副会長） 出席：役員・支部長	<テーマ> - 各支部の状況報告および意見交換 - テーマ意見交換 - 中高生情報学研究コンテストブロック大会制導入2年目を迎えて～ - IEIGE会長声明「大学・大学院生の教育機会を尊重した求人スタイルへの移行」を踏まえた議論	確認 確認 確認
決議の省略・報告の省略 2024年12月27日（監事確認日） 議決可能理事数：全議案とも26名	<法令および定款により理事会決議があったものとする事項> 2024年11月の新規入会申請〔総務〕 2025年度役員選挙理事会推薦最終候補者〔総務〕 2025年度代表会員最終候補者〔総務〕 - 国内会議への協賛・後援願いについて〔総務〕 - 国際会議への協賛・後援願いについて〔総務〕 - シンポジウム等の開催願い/終了報告〔調査研究・教育〕 - 情報規格調査会委員の変更〔標準化〕 <法令および定款により理事会報告があったものとする事項> 2024年11月期開催会議〔総務〕 - 第39回経営企画委員会議事録〔総務〕 - 第9期第1回アドバンスリーボード議事録〔総務〕 - 第308回会誌編集委員会議事録、会誌特集・巻頭コラム一覧、理事からのメッセージ、2023年度モチ評価〔会誌〕 - Sports Informatics and Technology運営に関する覚書/著作権に関する覚書について〔調査研究〕 - 第522回論文誌ジャーナル/JIP編集委員会（幹事会）議事録抜粋〔論文誌〕 2024年度第1回論文賞選定委員会（ジャーナル）議事録〔論文誌〕 2024年度全国大会運営委員会・第87回全国大会プログラム委員会第4回合同委員会議事録〔事業〕 - 第426回規格役員会議事録〔標準化〕	承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 確認 確認 確認 確認 確認 確認 確認 確認 確認
第682回理事会（オンライン開催） 2025年1月28日 議長：田島玲（副会長） 議決可能理事数：全議案とも26名 出席理事数：22名	<承認事項> - 名誉会員の推薦について〔総務〕 - Info-WorkPlace委員会の委員会名変更および規程改訂について〔総務〕 - IWSEC2025国際会議開催申請書〔調査研究〕 - JIP “Information for Authors” の改訂について〔論文誌〕 2024年度技術者教育プログラム認定審査業務契約書（案）〔教育〕 <審議事項> - 事業計画・予算ほか〔総務・財務〕 2025年度事業計画（1次）・2024年度事業報告（1月現在） 2025年度予算（1次）・2024年度決算見込（1月現在） - 中長期計画に関するKPIについて〔総務〕 - 小中高教員の会費割引キャンペーンの見直し案について〔教育〕 <報告事項> - 法令・定款による理事の職務執行状況報告（9月～11月）〔総務〕 2024年度会員状況（2024年12月現在）〔総務〕 - 第39・40回経営企画委員会（兼 倫理委員会）議事録〔総務〕 - 第22回広報広聴戦略委員会議事録〔総務〕 - 第89回教科書編集委員会議事録（参考 今期IT-Text販売見通し）〔会誌〕 - 第38回IFIP委員会議事録〔調査研究〕 2024年度論文誌論文掲載状況〔論文誌〕	承認 承認 承認 承認 承認 継続検討 継続検討 承認 承認 確認 確認 確認 確認 確認 確認 確認

	8. 連続セミナー2024開催終了報告[技術応用] 9. プログラミング・シボジウム活動報告[事業] 10. ISO/IEC JTC1および情報規格調査会の近況について[標準化] 参. 理事会アクションアイテムリスト	確認 確認 確認
決議の省略・報告の省略 2025年1月30日(監事確認日) 議決可能理事数：全議案とも26名	<法令および定款により理事会決議があったものとする事項> 1. 2024年12月の新規入会申請[総務] 2. 2025年度支部予算配分額[総務] 3. 感謝状受領/学会活動貢献賞の選定について[総務] 4. 2024年度マイクロソフト情報学研究賞/情報処理技術研究開発賞について[総務] 5. 国内会議への協賛・後援願いについて[総務] 6. 国際会議への協賛・後援願いについて[総務] 7. 寄付金の受入について(学会長期運営積立資産への繰り入れ)[総務] 8. シボジウム等の開催願い[調査研究] 9. 2024年度第2回CITP個人認証合格者承認依頼[教育] 10. 情報規格調査会委員の変更[標準化] <法令および定款により理事会報告があったものとする事項> 1. 2024年12月期開催会議[総務] 2. 第309回会誌編集委員会議事録、会誌特集・巻頭コラム一覧、理事からのメッセージ[会誌] 3. 第523回論文誌ジャーナル/JIP編集委員会(幹事会)議事録抜粋[論文誌] 4. 第43回技術応用運営委員会・第38回ITフォーラム推進委員会合同委員会議事録[技術応用] 5. 第114回セミナー推進委員会議事録[技術応用] 6. 情報処理教育委員会(2024年度第4回)議事録[教育] 7. 第113・114回資格制度運営委員会議事録[教育] 8. 第109・110回企業認定審査委員会議事録[教育] 9. 第427回規格役員会議事録[標準化]	承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 確認 確認 確認 確認 確認 確認 確認 確認 確認
決議の省略・報告の省略 2025年3月3日(監事確認日) 議決可能理事数：全議案とも26名	<法令および定款により理事会決議があったものとする事項> 1. 2025年1月の新規入会申請[総務] 2. 国内会議への協賛・後援願いについて[総務] 3. 日本工学会フェロー候補者の推薦について[総務] 4. シボジウム等の開催願い/終了報告[調査研究] 5. JM00C業務受託契約について[教育] <法令および定款により理事会報告があったものとする事項> 1. 2025年1月開催会議[総務] 2. 期中監査報告[総務] 3. 第310回会誌編集委員会議事録、会誌特集・巻頭コラム一覧、理事からのメッセージ[会誌] 4. 第126回歴史特別委員会議事録[会誌] 5. 第524回論文誌ジャーナル/JIP編集委員会(幹事会)議事録抜粋[論文誌] 6. 2024度第2回論文賞選定委員会(ジャーナル)議事録[論文誌] 7. 第115回セミナー推進委員会議事録[技術応用] 8. 2024年度CITP個人認証資格更新者報告[教育] 9. 第115回資格制度運営委員会議事録[教育] 10. 第100・101回個人認証審査委員会議事録[教育] 11. 第111回企業認定審査委員会議事録[教育] 12. 第428回規格役員会議事録[標準化]	承認 承認 承認 承認 承認 確認 確認 確認 確認 確認 確認 確認 確認 確認 確認 確認 確認
決議の省略・報告の省略 2025年3月24日(監事確認日) 議決可能理事数：全議案とも26名	<法令および定款により理事会決議があったものとする事項> 1. 2025年2月の新規入会申請[総務] 2. 2024年度情報処理学会フェロー候補者の選定について[総務] 3. 2024年度業績賞について[総務] 4. 「フェローに関する規程」「フェロー選定手続」規程改訂について[総務] 5. 国内会議への協賛・後援願いについて[総務] 6. 国際会議への協賛・後援願いについて[総務] 7. シボジウム等の開催願い/終了報告[調査研究・教育] 8. 研究会主査・幹事の交代について[調査研究] 9. 2024年度論文賞について[論文誌] 10. 2024年度中高生情報学研究コンテストからの若手奨励賞受賞候補者について[教育] 11. ISO/IEC JTC1/SC44(フライング・パイレーズの分野における消費者保護)の国内審議団体引受けについて[標準化] 12. 情報規格調査会委員の変更[標準化] <法令および定款により理事会報告があったものとする事項> 1. 2025年2月開催会議[総務] 2. 第311回会誌編集委員会議事録、会誌特集・巻頭コラム一覧、理事からのメッセージ[会誌] 3. 各領域委員会報告(議事録抜粋)[調査研究] 4. 第525回論文誌ジャーナル/JIP編集委員会(幹事会)議事録抜粋[論文誌] 5. トンガクショ編集委員長・副委員長の交代について[論文誌] 6. 第44回技術応用運営委員会/第39回ITフォーラム推進委員会合同委員会議事録[技術応用] 7. 第2回FIT2025プログラム委員会議事録[事業] 8. 情報処理教育委員会(2024年度第5回)議事録[教育]	承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 確認 確認 確認 確認 確認 確認 確認 確認 確認

■各種委員会

※委員は6月以降の構成を掲載（以下、同）

◎委員長・主査、○副委員長・財務委員、幹事・副査、△担当理事（担務）、*オブザーバ、アドバイザー委員

1. 法人運営

1.1 経営企画委員会（兼 倫理委員会）

◎/△田島 玲、○/△砂原秀樹、○/△小野智弘、○/△田村孝之、△鎌田真由美、△千葉直子、△大場みち子、△寺田 努、△首藤一幸、△塚本昌彦

[4月24日、5月29日、6月27日、7月18日、9月18日、10月15日、11月12日、12月12日、'25年1月21日、2月27日、3月18日]
学会運営全般／総会関連事項／損益状況／倫理関係／中長期戦略関係／アドバイザーボード関係／その他運営上の諸課題など

1.1.1 本部・規格連絡会

◎田島 玲、○/△河合和哉、○千葉直子、△田村孝之、小野智弘、鎌田真由美、○関 喜一、伊藤雅樹、河内清人、落合真一、田丸健三郎、福田昭一、山本英朗、深澤 彰

[12月24日] 本部・規格調査会間の連絡

1.2 広報広聴戦略委員会

◎/△田島 玲、○/△砂原秀樹、○井上創造、○辰己丈夫、○/△首藤一幸、○/△塚本昌彦、△小野智弘、△田村孝之、△大場みち子、△寺田 努、△櫻井祐子、関 喜一、△吉濱佐知子、畑田祐二

[5月23日、7月18日、9月12日、11月12日、'25年1月16日、3月7日]
広報活動／マーケティング活動／営業活動／提言活動／対外的情報発信など

1.3 情報システム・DX委員会（情報システム委員会より名称変更）

◎田村孝之、○千葉 直子、小野智弘、鎌田 真由美、西村浩二

[7月30日、12月9日] 情報システムに関する諸対応

1.3.1 セキュリティ委員会

◎西村浩二、大谷和子、△小野智弘、△鎌田真由美、佐々木良一、△田村孝之、△千葉 直子、寺田真敏、丸山 宏

[電子メールベース] 情報セキュリティに関する諸対応

1.4 著作権委員会

◎△櫻井 祐子、●△高岡 詠子、稲見 昌彦、天野 真家、井上 美智子、大谷 和子、緒方 広明、小野 智弘、岸 知二、斉藤 典明、吉濱 佐知子

[電子メールベース] 知的財産権専門委員推薦、その他著作権に関する対応

1.5 Info-WorkPlace委員会

◎井上 創造、○木塚あゆみ、御家 雄一、太田 智美、大場 みち子、小川 秀人、木村 朝子、△櫻井 祐子、△高岡 詠子、高橋 尚子、遠山 紗矢香、中野 美由紀、中山 泰一、野田 夏子、湊 真一、森 尚平、山下 直美、吉濱 佐知子

[4月23日、5月21日、8月6日、9月24日、10月30日、11月13日、25年1月14日、3月5日] 働き方に関する取り組みを実施する+A135

1.6 デジタルコンテンツ事業検討委員会

◎/△ 砂原 秀樹、○井上 美智子、○斉藤 典明、稲見 昌彦、岸 知二、蔵川 圭、櫻井 祐子、田村 孝之、中山 泰一、水野 慎士、吉濱 佐知子

[10月19日] デジタルコンテンツ事業の推進

1.6.1 ビデオコンテンツWG

◎辰己丈夫、砂原 秀樹、五十嵐 悠紀、稲垣 知宏、阪田 史郎、岸 知二、木村 朝子

[電子メールベース] デジタルコンテンツ事業の推進

1.7 ジュニア会員活性化委員会（時限 ～2025年定時総会迄）

◎湊 真一、○遠山 紗矢香、木村 朝子、櫻井 祐子、首藤 一幸、高岡 詠子、千葉 直子、塚本 昌彦、中山 泰一、吉濱 佐知子、井手 広康、兼宗 進、北村 操代、辰己 丈夫、中野 由章、吉田 葵、和田 勉、坂東 宏和

[9月9日] ジュニア会員向け活動の活性化

1.8 支部長会議

◎/△森本典繁、△田島 玲、△砂原秀樹、△小野智弘、△田村孝之、△鎌田真由美、△千葉直子

各支部長：堀山貴史（北海道）、羽生貴弘（東北）、奥田隆史（東海）、東海彰吾（北陸）、岡部寿男（関西）、多田村克己（中国）、高田直樹（四国）、岡村耕二（九州）

[7月31日、12月20日（役員検討会）、'25年3月28日] 本部-支部の意見交換

1.9 アドバイザリーボード

◎木村康則、石戸奈々子、内山英俊、後藤滋樹、篠原弘道、田中邦裕、長尾和彦、福原利信、ランドバーグ史枝、若江雅子

[11月6日] 第三者的な見地からの情報処理学会の運営に関する助言

2. 調査研究活動

2.1 調査研究運営委員会

◎/△斉藤典明、○/△緒方広明、○/△岸 知二、田中清史、森信一郎、戸田智基、倉本 到、西田知博

開催年月日	主な議事事項	会議結果
2024年6月18日	1. 2024年度委員構成確認 2. 2025年共通費について 3. 2025年度シンポジウム事務諸費等について 4. シンポジウム・国際会議のスケジュールについて 5. 2023年度監事監査報告ならびに付帯意見 6. 2023年度調査研究活動状況および決算報告 7. 2024年度調査研究活動計画	確認 承認⇒ 各領域・研究会に提案 承認⇒ 各領域・研究会に提案 確認 確認 確認 確認
2024年10月18日 (調研・3領域合同)	1. 研究会グループの名称変更について 2. 2025年度研究会登録費算定方法 3. 研究会／研究グループの継続・終了・名称変更について 4. 2024年度調査研究／トランザクション活動状況 5. 国内シンポジウム・国際会議 進捗確認 6. 各賞の推薦募集について	承認 承認⇒ 理事会報告 承認⇒ 理事会報告 確認 確認 確認
2025年3月24日	1. 情報保障への補助について 2. 若手研究者招待講演謝金補助について 3. 領域委員会報告 4. 2024年度事業報告／2025年度事業計画 5. 2024年度活動状況／2025年度計画 6. 第38回IFIP委員会報告 7. シンポジウム・国際会議の終了報告の提出について 8. 研究会活動貢献賞について	確認・承認 確認・承認 確認 確認 確認 確認 確認 確認

2.2 コンピュータサイエンス領域委員会（山下記念研究賞選定委員会を兼ねる）

◎△岸 知二、○田中清史、小野廣隆、小野寺民也、片桐孝洋、金本俊幾、品川高廣、菅谷みどり、津邑公曉、中島伸介、森畑明昌、鷺崎弘宣、渡邊真也

2024年6月26日	領域共通-1. 2024年度委員構成確認 領域共通-2. 2024年度山下記念研究賞 領域共通-3. 2025年度共通費について 領域共通-4. 2025年度シンポジウム事務諸費について 領域共通-5. 理事候補者の選出について 領域共通-6. シンポジウム・国際会議のスケジュールについて 領域共通-7. 2023年度監事監査報告ならびに付帯意見 領域共通-8. 2023年度調査研究活動状況および決算報告 領域共通-9. 2024年度調査研究活動計画	確認 選定⇒ 理事会提案 承認 承認 確認 確認 確認 確認 確認
2024年10月18日 (調研・3領域合同)	調査研究運営委員会に同じ。	
2025年3月12日	領域共通-1. 領域委員長・財務委員について 領域共通-2. 2024年度事業報告／2025年度事業計画 領域共通-3. 2024年度活動状況／2025年度計画 領域共通-4. 第38回IFIP委員会報告 領域共通-5. シンポジウム・国際会議の終了報告の提出について 領域共通-6. 研究会活動貢献賞について	確認・承認 確認 確認 確認 確認 確認

2.3 情報環境領域委員会（山下記念研究賞選定委員会を兼ねる）

◎/△斉藤典明、○森信一郎、石川翔吾、石原 進、居駒幹夫、井上智雄、小川剛史、金沢輝一、北口善明、志築文太郎、島岡政基、菅沼 明、菅沼拓夫、千田浩司、前川卓也、松村誠明、峰野博史、吉村 健

[7月4日、10月18日(調研・3領域合同)、『25年2月21日] コンピュータサイエンス領域委員会の領域共通事項に同じ。

2.4 メディア知能情報領域委員会（山下記念研究賞選定委員会を兼ねる）

◎△緒方広明、○戸田智基、小向太郎、佐藤健吾、篠崎隆宏、島田敬士、杉原太郎、須藤克仁、田中正行、長瀧寛之、橋本 剛、橋本雄太、福田直樹、松下光範、森島繁生、森勢将雅

[7月3日、10月18日(調研・3領域合同)、『25年2月27日] コンピュータサイエンス領域委員会の領域共通事項に同じ。

3. 人材育成活動

3.1 情報処理教育委員会（教育賞選定委員会を兼ねる） ※傘下の委員会は掲載略

◎稲垣知宏、●角田博保、○斎藤俊則、○稲葉利江子、△湊 真一、△遠山紗矢香、石川 洋、井手広康、植原 啓介、大場みち子、大屋隆生、柿崎淑郎、 寛 捷彦、掛下哲郎、加藤 浩、*久野 靖、千田栄幸、高岡詠子、高田真吾、高橋尚子、辰巳丈夫、谷 聖一、寺元貴幸、長瀧寛之、中谷多哉子、中野由章、中山泰一、西 直樹、野々村琢人、坂東宏和、美馬のゆり、山口 泰、鷺崎弘宜、*和田 勉

[4月9日、6月27日、8月1日、10月2日、12月9日、'25年2月26日]

JABEE対応／情報学分野の参照基準／次期学習指導要領改訂／免許更新講習／認定情報技術者制度／傘下の小委員会報告ほか

4. 学術講習活動

4.1 事業運営委員会

◎△中山 泰一、●△木村 朝子、岸 知二

[電子メールベース] 全国大会、FIT、その他イベントの運営推進

4.2 全国大会運営委員会 ※プログラム委員会、現地実行委員会は掲載略

◎砂原 秀樹、●△中山 泰一、△木村 朝子、丸山 勝久、西尾 信彦

[7月2日、8月9日、12月5日、10月21日ほか電子メールベース] 全国大会の運営・開催推進

4.3 FIT運営委員会 ※実行委員会・プログラム委員会は掲載略

◎藤井 俊彰、●田島 玲、○斎藤 典明、砂原 秀樹、△中山 泰一、△木村 朝子、緒方 広明、斎藤 英雄、篠田 浩一、佐藤 洋一、北岡 教英、塩田 さやか、高橋 桂太、中野 学、海野 恭平、蔵田 武志、堤 公孝

[4月18日（メール審議）6月14日、11月5日] FITの運営・開催推進

4.4 プログラミング・シンポジウム幹事会 ※運営委員会は掲載略

◎松崎公紀、鵜川始陽、大島聡史、中山心太、丸山一貴、三廻部大、八木原勇太、渡辺勇士、石畑清

[5月16日、8月22日、10月15日、10月24日、12月10日、'25年1月27日] 夏のプロシン／若手の会／冬のプロシンの開催推進

4.5 技術応用運営委員会

◎中川八穂子、○田島玲、○/△吉濱佐知子、△山下直美、鎌田真由美、千葉直子、塚本昌彦、西直樹、菊池修、長坂健治、関口俊一、小川秀人、木下泰三

[7月8日、10月8日、'25年1月7日、3月5日 ほか電子メールベース] 技術応用活動全体の調整・推進

4.6 ITフォーラム推進委員会

◎/△吉濱佐知子、○/△山下直美、諏訪良武、寺下薫、赤根大吾

[7月8日、10月8日、'25年1月7日、3月5日 ほか電子メールベース] ITフォーラムの運営・開催

4.7 セミナー推進委員会

◎/△吉濱佐知子、○/△山下直美、小川秀人、荒川豊、鎌田真由美、田島玲、荒木拓也、北村操代、齋藤正史、浦本直彦、中野美由紀、平山敏弘、福島俊一、稲葉利江子、青木秀一、吉田葵

[4月10日、5月10日、7月5日、8月2日、9月27日、11月8日、12月11日、'25年1月22日、2月21日、3月28日]

連続セミナー・短期集中セミナーの開催推進

5. 会誌／出版活動

5.1 会誌編集委員会

◎五十嵐悠紀、○櫻 惇志、○高橋尚子、○福地健太郎、△櫻井祐子、△高岡詠子、安部麻里、浦西友樹、勝沼 聡、木村朝子、酒井政裕、田中 宏、寺西 勇、中澤里奈、西原翔太、橋本誠志、櫻リベカ、斎藤俊則、末永高志、春田秀一郎、辰巳丈夫、三重野琢也、須川賢洋、斎藤彰宏

[4月10日、5月7日、6月3日、7月10日、9月13日、10月7日、11月6日、12月2日、'25年1月8日、2月4日、3月6日]

全回共通：会誌の編集刊行

5.2 出版委員会

△櫻井祐子、△高岡詠子

[電子メールベース] 実務書の出版企画に関する検討

5.2.1 教科書編集委員会

◎阪田史郎、○菊池浩明、△櫻井祐子、△高岡詠子、石井一夫、岩崎英哉、上原忠弘、駒谷昇一、斎藤典明、高橋尚子、辰巳丈夫、田名部元成、中島 毅

[4月2日、7月3日、10月1日、12月17日] 教科書シリーズの刊行に関する検討

5.2.2 歴史特別委員会（傘下の小委員会は掲載略）

◎橋爪宏達、○旭 寛治、△櫻井祐子、△高岡詠子、小橋喜嗣、喜多千草、高橋尚子、高橋義雄、前島正裕、*宇田 理、*前山和喜

[6月17日、9月11日、'25年1月16日]

コンピュータに関する歴史の公開推進、情報処理技術遺産等の調査ほか

6. 論文誌活動

6.1 論文誌運営委員会

◎/△井上美智子、△稲見昌彦、△緒方広明、△岸 知二、△斉藤典明

[電子メールベース] 論文誌全体に関する諸課題の対応

6.2 論文誌ジャーナル編集委員会（幹事会）

◎柏崎 礼生、○/△稲見昌彦、○荒木徹也、○五郎丸秀樹、○村井 源、○山井成良、宇田隆哉、岸野泰恵、高野 諒、角田雅照、寺岡秀敏、橋本泰一、畑島 隆、松村耕平

[4月8日、5月9日、6月10日、7月1日、8月1日、9月9日、10月8日、11月1日、12月10日、'25年1月10日、2月5日、3月4日]

全回共通：論文誌ジャーナルの編集刊行

6.3 JIP編集委員会（幹事会）

◎高倉弘喜、○/△井上美智子、ほか「6.2 ジャーナル編集委員会（幹事会）」メンバ、
*Adam KOZYNIAK、*Monica CARLY、*Robert DELANEY、*Sylvain KAMDEM、
（海外編集委員）Raymond WAI-MAN PANG（香港）

[4月8日、5月9日、6月10日、7月1日、8月1日、9月9日、10月8日、11月1日、12月10日、'25年1月10日、2月5日、3月4日]

全回共通：JIPの編集刊行

6.4 トランザクション運営委員会

◎/△井上美智子、高倉弘喜、阿倍博信、天笠俊之、石原 亨、緒方広明、尾崎友哉、金沢輝一、佐藤 聡、佐藤健吾、庄野 逸、津邑公暁、森畑明昌、吉田尚史

[電子メールベース] トランザクションの編集刊行に関する諸課題の対応

7. 標準化活動

7.1 情報規格調査会（規格役員会）

◎/△河合和哉、○関喜一、△千葉直子、相蘭敏子、山本英朗、田丸健三郎、河内清人、深澤良彰、大城 貴士

[4月8日、5月20日、6月10日、7月8日、9月9日、10月7日、11月18日、12月16日、'25年1月15日、2月10日、3月10日]

規格賛助員の入退会等／委員変更／国際会議派遣・招致／月次決算／JTC1総会対応／標準化関連受託対応ほか

8. 国際活動

8.1 IFIP委員会

☆越前 功(2024.9-)、相田 仁(-2024.9)、◎/△斉藤典明、○/△岸 知二、○/△緒方広明、廣川 直、五十嵐淳、斎藤俊則、村山優子、井上真杉、張 勇兵、内木哲也、小向太郎、金川信康、越前 功、栗原 聡、北村喜文、山西良典、掛下哲郎、櫻井茂明

[11月18日] IFIP年次総会報告／各TCの活動報告ほか。

9. 上記以外の委員会および委員は次サイトを参照

<https://www.ipsj.or.jp/annai/committee/meibo/2024meibo.html>

付2. 研究会および研究発表・学術講習会等一覧

[研究会等の詳細]		
研究会等の名称（（ ）内：英略称、*：研究グループ）	主査名（運営委員数）	登録者数
[コンピュータサイエンス領域]		
データベースシステム（DBS）	中島伸介（41）	299
ソフトウェア工学（SE）	鷺崎弘宜（38）	372
システム・アーキテクチャ（ARC）	津邑公暁（27）	234
システムソフトウェアとオペレーティング・システム（OS）	品川高廣（32）	250
システムとLSIの設計技術（SLDM）	金本俊幾（26）	204
ハイパフォーマンスコンピューティング（HPC）	片桐孝洋（39）	442
プログラミング（PRO）	森畑明昌（24）	217
アルゴリズム（AL）	小野廣隆（21）	165
数理モデル化と問題解決（MPS）	渡邊真也（18）	202
組込みシステム（EMB）	菅谷みどり（25）	160
量子ソフトウェア（QS）	小野寺民也（19）	193
[情報環境領域]		
マルチメディア通信と分散処理（DPS）	菅沼拓夫（22）	231
ヒューマンコンピュータインタラクション（HCI）	志築文太郎（39）	385
情報システムと社会環境（IS）	居駒幹夫（22）	160
情報基礎とアクセス技術（IFAT）	金沢輝一（7）	83
オーディオビジュアル複合情報処理（AVM）	松村誠明（4）	29
コラボレーションとネットワークサービス（CN）	井上智雄（31）	201
ドキュメントコミュニケーション（DC）	菅沼 明（7）	43
モバイルコンピューティングと新社会システム（MBL）	吉村 健（32）	177
コンピュータセキュリティ（CSEC）	千田浩司（52）	606
高度交通システムとスマートコミュニティ（ITS）	石原 進（32）	138
ユビキタスコンピューティングシステム（UBI）	前川卓也（40）	203
インターネットと運用技術（IOT）	北口善明（49）	381
セキュリティ心理学とトラスト（SPT）	島岡政基（16）	137
コンシューマ・デバイス&システム（CDS）	峰野博史（42）	189
デジタルコンテンツクリエイション（DCC）	小川剛史（20）	104
高齢社会デザイン（ASD）	石川翔吾（16）	56
[メディア知能情報領域]		
自然言語処理（NL）	須藤克仁（31）	365
知能システム（ICS）	福田直樹（17）	117
コンピュータビジョンとイメージメディア（CVIM）	田中正行（46）	461
コンピュータグラフィックスとビジュアル情報学（CG）	森島繁生（27）	166
コンピュータと教育（CE）	長瀧寛之（38）	496
人文科学とコンピュータ（CH）	橋本雄太（29）	245
音楽情報科学（MUS）	森勢将雅（22）	270
音声言語情報処理（SLP）	篠崎隆宏（23）	168
電子化知的財産・社会基盤（EIP）	小向太郎（17）	118
ゲーム情報学（GI）	橋本 剛（22）	187
エンタテインメントコンピューティング（EC）	松下光範（23）	207
バイオ情報学（BIO）	佐藤健吾（14）	120
教育学習支援情報システム（GLE）	島田敬士（22）	207
アクセシビリティ（AAC）	杉原太郎（13）	75
スポーツ情報学（SI）	松原 仁（4）	30
*ネットワーク生態学（NE）	鳥海不二夫（―）	---
*会員の力を社会につなげる（SSR）	寛 捷彦（―）	---
*情報処理に関する法的問題（LIP）	高岡詠子（―）	---
[調査研究運営委員会]		
*ビッグデータビジネス利活用（PBD）	石井一夫（―）	---

1. 研究発表会（調査研究活動分）

1.1 コンピュータサイエンス領域

1.1.1 データベースシステム研究発表会

回次	開催年月	場所	発表件数	参加者数	共催団体、その他備考
第179回	2024年9月11日～12日	淡路夢舞台	41	77	電子情報通信学会
第180回	2024年12月26日	オンライン開催	9	13	電子情報通信学会

1.1.2 ソフトウェア工学研究発表会

第217回	2024年7月25日～27日	小樽経済センター/オンライン開催	25	42	電子情報通信学会
第218回	2024年11月4日～11月5日	立命館大学/オンライン開催	8	34	
第219回	2025年3月3日～4日	早稲田大学/オンライン開催	29	76	

1.1.3 システム・アーキテクチャ研究発表会

第249回	2024年6月10日～12日	石和びゅう一ほてる/オンライン開催	33	42	電子情報通信学会
第250回	2024年8月8日～9日	あわぎんホール/オンライン開催	34	89	電子情報通信学会
第251回	2024年12月16日～17日	沖縄産業支援センター/オンライン開催	27	121	電子情報通信学会
第252回	2025年3月17日～19日	おきえらぶフローラルホテル/オンライン開催	52	114	電子情報通信学会

1.1.4 システムソフトウェアとオペレーティング・システム研究発表会

第163回	2024年5月30日～31日	大濱信泉記念館/オンライン開催	16	43	
第164回	2024年8月8日～9日	あわぎんホール/オンライン開催	15	95	
第165回	2024年9月19日～20日	熊本大学/オンライン開催	9	90	
第166回	2025年3月6日～7日	けんしん郡山文化センター/オンライン開催	20	58	

1.1.5 システムとLSIの設計技術研究発表会

第206回	2024年11月7日	キャンパスプラザ京都	7	20	
第207回	2024年11月12日～14日	大分県大分市 コンパルホール /オンライン開催	58	27	電子情報通信学会
第208回	2025年3月17日～19日	おきえらぶフローラルホテル/オンライン開催	52	114	電子情報通信学会

1.1.6 ハイパフォーマンスコンピューティング研究発表会

第194回	2024年5月8日	東京工業大学/オンライン開催	9	110	
第195回	2024年8月8日～9日	あわぎんホール/オンライン開催	32	248	
第196回	2024年9月30日	九州大学	7	83	
第197回	2024年12月16日～17日	沖縄産業支援センター/オンライン開催	27	121	電子情報通信学会
第198回	2025年3月17日～19日	北海道大学/オンライン開催	61	294	

1.1.7 プログラミング研究発表会

第149回	2024年6月13日	オンライン開催	4	80	
第150回	2024年8月8日～9日	あわぎんホール/オンライン開催	7	71	
第151回	2024年11月12日～13日	東京科学大学	5	61	
第152回	2025年1月15日～16日	秋田拠点センターALVE/オンライン開催	11	79	
第153回	2025年3月25日～26日	東京大学/オンライン開催	13	80	

1.1.8 アルゴリズム研究発表会

第198回	2024年5月8日～9日	京都大学	15	76	電子情報通信学会
第199回	2024年9月5日～6日	広島工業大学/オンライン開催	7	58	電子情報通信学会
第200回	2024年11月26日～27日	室ガス文化センター	27	80	電子情報通信学会
第201回	2025年1月14日～15日	くまもと県民交流館パレア	14	60	併催：人工知能学会
第202回	2025年3月18日	福井工業大学	13	52	

1.1.9 数理モデル化と問題解決研究発表会

第148回	2024年6月20日～6月22日	沖縄科学技術大学院大学	59	98	電子情報通信学会
第149回	2024年7月22日	ラスベガス	14	15	
第150回	2024年9月5日	広島工業大学/オンライン開催	6	8	
第151回	2024年12月9日～10日	関西大学	21	33	
第152回	2025年3月22日～23日	生涯学習センターきらん	25	44	

1.1.10 組込みシステム研究発表会

第66回	2024年7月19日	芝浦工業大学/オンライン開催	5	25	
第67回	2024年11月20日～21日	パシフィコ横浜/オンライン開催	20	42	
第68回	2025年3月17日～19日	おきえらぶフローラルホテル/オンライン開催	52	114	電子情報通信学会

1.1.11 量子ソフトウェア研究発表会

第12回	2024年6月27日～28日	大阪大学/オンライン開催	18	112	
第13回	2024年10月28日～29日	メルカリ/オンライン開催	16	114	
第14回	2025年3月17日～19日	北海道大学/オンライン開催	61	294	

1.2 情報環境領域

1.2.1 マルチメディア通信と分散処理研究発表会

第199回	2024年5月15日～17日	沖縄県青年会館	53	107	電子情報通信学会
第200回	2024年7月18日～19日	花ごころの湯 新富亭/オンライン開催	7	32	
第201回	2024年9月19日～20日	みやづ歴史の館/オンライン開催	23	58	
第202回	2025年3月17日～18日	群馬県庁昭和庁舎/オンライン開催	72	162	

1.2.2 ヒューマンコンピュータインタラクション研究発表会

第208回	2024年6月6日～6月7日	東京大学/オンライン開催	35	172	電子情報通信学会/日本バーチャリティ学会/ヒューマンインタフェース学会/映像情報メディア学会
第209回	2024年7月22日～23日	北海道大学	23	38	
第210回	2024年11月18日～19日	淡路夢舞台	33	67	
第211回	2025年1月14日～15日	沖縄産業支援センター	48	80	
第212回	2025年3月5日～7日	芝浦工業大学/オンライン開催	57	133	

1.2.3 情報システムと社会環境研究発表会

第168回	2024年6月15日	青山学院大学/オンライン開催	8	32	
第169回	2024年8月22日～23日	新潟工科大学/オンライン開催	18	41	
第170回	2024年12月14日	東海大学/オンライン開催	9	29	
第171回	2025年3月4日～5日	東京都立産業技術大学院大学/オンライン開催	9	26	

1.2.4 情報基礎とアクセス技術研究発表会

第155回	2024年6月28日	国立情報学研究所	3	10	
第156回	2024年9月11日～12日	淡路夢舞台	41	77	電子情報通信学会
第157回	2024年12月26日	オンライン開催	9	13	電子情報通信学会
第158回	2025年3月27日	筑波大学	6	14	

1.2.5 オーディオビジュアル複合情報処理研究発表会

第125回	2024年9月4日～5日	広島工業大学/オンライン開催	28	0	電子情報通信学会/映像情報メディア学会/電気学会
-------	--------------	----------------	----	---	--------------------------

1.2.6 コラボレーションとネットワークサービス研究発表会

第123回	2024年5月10日	オンライン開催	7	51	電子情報通信学会
第124回	2025年1月23日～24日	奄美市市民交流センター	61	97	
第125回	2025年3月5日～6日	芝浦工業大学/オンライン開催	12	36	

1.2.7 ドキュメントコミュニケーション研究発表会

第133回	2024年7月11日～12日	御影公会堂	14	35	電子情報通信学会
第134回	2024年11月29日	オンライン開催	2	4	
第135回	2025年1月24日	オンライン開催	4	11	
第136回	2025年3月27日	筑波大学	6	14	

1.2.8 モバイルコンピューティングと新社会研究発表会

第111回	2024年5月15日～17日	沖縄県青年会館	53	107	電子情報通信学会
第112回	2024年9月26日～27日	愛媛大学	43	87	
第113回	2024年11月5日～7日	新和歌ロッジ/和歌山県民文化会館	21	40	
第114回	2025年2月27日～28日	大阪大学	31	63	電子情報通信学会

1.2.9 コンピュータセキュリティ研究発表会

第105回	2024年5月30日～31日	とりぎん文化会館/オンライン開催	28	92	電子情報通信学会
第106回	2024年7月22日～23日	札幌コンベンションセンター	89	109	電子情報通信学会
第107回	2024年12月3日～4日	福井県協ビル	37	93	
第108回	2025年3月17日～18日	群馬県庁昭和庁舎/オンライン開催	72	162	

1.2.10 高度交通システムとスマートコミュニティ研究発表会

第97回	2024年5月15日～17日	沖縄県青年会館	53	107	電子情報通信学会
第98回	2024年9月14日	日本大学/オンライン開催	12	44	電子情報通信学会/電気学会
第99回	2024年11月5日～7日	新和歌ロジ/和歌山県民文化会館	21	40	
第100回	2025年3月11日～12日	同志社大学	18	49	

1.2.11 ユビキタスコンピューティングシステム研究発表会

第82回	2024年5月9日～10日	屋久島環境文化村センター	19	28	
第83回	2024年9月26日～27日	愛媛大学	43	87	
第84回	2024年11月18日～19日	淡路夢舞台	33	67	
第85回	2025年2月27日～28日	大阪大学	31	63	電子情報通信学会

1.2.12 インターネットと運用技術研究発表会

第65回	2024年5月30日～31日	とりぎん文化会館/オンライン開催	28	92	電子情報通信学会
第66回	2024年7月19日	J:COM ホルトホール大分/オンライン開催	7	78	
第67回	2024年9月19日～20日	大阪教育大学/オンライン開催	9	90	
第68回	2025年3月3日～5日	奄美市市民交流センター/オンライン開催	69	95	電子情報通信学会

1.2.13 セキュリティ心理学とトラスト研究発表会

第55回	2024年5月10日	オンライン開催	7	51	電子情報通信学会
第56回	2024年7月22日～23日	札幌コンベンションセンター	89	109	電子情報通信学会
第57回	2024年12月3日～4日	福井県協ビル	37	93	
第58回	2025年3月6日～7日	沖縄県立美術館・博物館	70	36	電子情報通信学会

1.2.14 コンシューマ・デバイス&システム研究発表会

第40回	2024年5月30日～31日	京都大学	16	32	
第41回	2024年9月26日～27日	愛媛大学	43	87	
第42回	2025年1月23日～24日	奄美市市民交流センター	61	97	

1.2.15 デジタルコンテンツクリエイション研究発表会

第37回	2024年5月29日	愛知工業大学	11	26	
第38回	2024年11月29日～30日	福井工業大学	42	124	
第39回	2025年1月23日～24日	奄美市市民交流センター	61	97	

1.2.16 高齢社会デザイン研究発表会

第30回	2024年9月26日～27日	愛媛大学	43	87	
第31回	2024年12月26日	静岡大学/オンライン開催	3	10	
第32回	2025年3月19日	Future Care Lab/オンライン開催	6	16	

1.3 メディア知能情報領域

1.3.1 自然言語処理研究発表会

第260回	2024年6月28日～29日	北陸先端科学技術大学院大学/オンライン開催	26	87	
第261回	2024年9月3日	梅田スカイビル/オンライン開催	16	70	
第262回	2024年12月12日～14日	名古屋大学/オンライン開催	44	90	電子情報通信学会
第263回	2025年3月8日～9日	長崎原爆資料館ホール/オンライン開催	29	105	電子情報通信学会

1.3.2 知能システム研究発表会

第215回	2024年9月13日	福井市地域交流プラザ	8	16	電子情報通信学会
第216回	2025年2月18日～19日	名古屋工業大学	14	24	併催：電子情報通信学会/人工知能学会/ 日本ソフトウェア科学会/IEEE
第217回	2025年3月1日	ホテルラフォーレ那須/オンライン開催	5	7	併催：電子情報通信学会/人工知能学会/ 日本ソフトウェア科学会

1.3.3 コンピュータビジョンとイメージメディア研究発表会

第238回	2024年5月15日～16日	東京大学	61	127	電子情報通信学会
第239回	2024年11月29日～30日	福井工業大学	42	124	電子情報通信学会
第240回	2025年1月21日～22日	九州大学	45	109	電子情報通信学会/バーチャリアリティ学会
第241回	2025年3月18日～19日	滋賀大学	35	101	電子情報通信学会

1.3.4 コンピュータグラフィックスとビジュアル情報学研究発表会

第194回	2024年6月29日	東洋大学/オンライン開催	8	32	
第195回	2024年9月9日	東洋大学	7	20	
第196回	2024年11月29日～30日	福井工業大学	42	124	電子情報通信学会
第197回	2025年3月5日～6日	株式会社エクサウィザーズ	14	32	

1.3.5 コンピュータと教育研究発表会

第175回	2024年6月1日	埼玉工業大学/オンライン開催	11	65	
第176回	2024年10月5日～6日	尾道市立大学/オンライン開催	11	77	
第177回	2024年12月7日～8日	福井県国際交流会館/オンライン開催	23	86	電子情報通信学会
第178回	2025年2月15日～16日	東京女子体育大学	15	81	
第179回	2025年3月1日～2日	大阪工業大学/オンライン開催	19	92	

1.3.6 人文科学とコンピュータ研究発表会

第135回	2024年5月18日	京都大学	14	48	
第136回	2024年7月26日	国際日本文化研究センター	6	30	
第137回	2025年2月8日	オンライン開催	11	47	

1.3.7 音楽情報科学研究発表会

第140回	2024年6月14日～15日	日本大学/オンライン開催	74	357	電子情報通信学会
第141回	2024年8月26日～27日	駒澤大学	18	126	
第142回	2025年3月6日～8日	九州大学	61	141	

1.3.8 音声言語情報処理研究発表会

第152回	2024年6月14日～15日	日本大学/オンライン開催	74	357	電子情報通信学会
第153回	2024年10月22日	オンライン開催	7	91	電子情報通信学会
第154回	2024年12月12日～14日	名古屋大学/オンライン開催	44	90	電子情報通信学会
第155回	2025年3月2日～4日	沖縄県青年会館/オンライン開催	109	225	電子情報通信学会/日本音響学会/APSIPA JC

1.3.9 電子化知的財産・社会基盤研究発表会

第104回	2024年6月5日～6日	立教大学	22	47	電子情報通信学会
第105回	2024年9月19日～20日	みやづ歴史の館/オンライン開催	23	58	
第106回	2024年12月3日～4日	福井県織協ビル	37	93	
第107回	2025年2月13日～14日	同志社大学	32	60	

1.3.10 ゲーム情報学研究発表会

第52回	2024年6月14日～15日	松江オープンソースラボ/オンライン開催	10	51	
第53回	2024年9月6日	広島工業大学/オンライン開催	9	13	
第54回	2025年3月6日～8日	東京大学/オンライン開催	12	54	

1.3.11 エンタテインメントコンピューティング研究発表会

第72回	2024年6月6日～7日	東京大学/オンライン開催	35	272	電子情報通信学会/日本バーチャリアリティ学会/ヒューマンインタフェース学会/映像情報メディア学会
第73回	2024年9月1日	北海道情報大学	1	14	
第74回	2024年11月16日	サンポートホール高松	8	13	
第75回	2025年3月17日～19日	京都大学	47	104	

1.3.12 バイオ情報学研究発表会

第78回	2024年6月20日～22日	沖縄科学技術大学院大学	59	98	電子情報通信学会
第79回	2024年9月6日	広島工業大学/オンライン開催	9	10	
第80回	2024年12月4日	早稲田大学	16	56	
第81回	2025年3月6日～7日	北陸先端科学技術大学院大学	17	34	

1.3.13 教育学習支援情報システム研究発表会

第43回	2024年6月15日	近畿大学/オンライン開催	13	57	電子情報通信学会
第44回	2024年11月15日～16日	広島大学/オンライン開催	9	33	
第45回	2025年3月20日～21日	群馬大学/オンライン開催	24	64	

1.3.14 アクセシビリティ研究発表会

第25回	2024年7月25日～26日	リオン株式会社/オンライン開催	14	39	
第26回	2024年12月23日～24日	ヤマハ株式会社/オンライン開催	12	32	
第27回	2025年3月10日～11日	筑波技術大学/オンライン開催	23	39	電子情報通信学会

1.3.15 スポーツ情報学研究発表会

第1回	2024年6月21日	日本スポーツ振興センター/オンライン開催	50	238	日本スポーツ振興センター
第2回	2024年11月1日～2日	北見工業大学	20	53	映像情報メディア学会

2. シンポジウム等

2.1 調査研究活動分

名称	開催年月	場所	演題数	参加数
マルチメディア、分散、協調とモバイル(DICOMO 2024)シンポジウム(DPS, CN, MBL, CSEC, ITS, UBI, IOT, SPT, CDS, DCC)	2024年6月26日～28日	花巻温泉ホテル千秋閣	240	367
cross-disciplinary workshop on computing Systems, Infrastructures, and programinG (xSIG2024)	2024年8月7日	あわぎんホール／オンライン開催	69	278
情報教育シンポジウム2024(SSS2024)	2024年8月10日～12日	ライトキューブ宇都宮／オンライン開催	57	159
DAシンポジウム2024(SLDM)	2024年8月28日～30日	鳥羽シーサイドホテル	53	107
エンタテインメントコンピューティング2024(EC)	2024年9月2日～9月4日	北海道情報大学	111	208
ソフトウェアエンジニアリングシンポジウム(SES2024)(SE)	2024年9月17日～19日	慶應義塾大学／オンライン開催	107	226
コンピュータセキュリティシンポジウム2024(GSS2024)(CSEC, SPT)	2024年10月22日～25日	神戸国際会議場／オンライン開催	320	1051
マルチメディア通信と分散処理ワークショップ(DPSWS2024)(DPS)	2024年10月30日～11月1日	安芸グランドホテル	41	71
Asia Pacific Conference on Robot IoT System Development and Platform (APRIS2024)(EMB)	2024年11月5日～6日	芝浦工業大学／オンライン開催	29	75
ゲームプログラミングワークショップ(GPW2024)(GI)	2024年11月15日～17日	箱根セミナーハウス／オンライン開催	28	79
コラボレーションとネットワークサービスワークショップ2024(CN)	2024年11月21日～22日	吉田屋山王閣	30	41
コンピュータシステム・シンポジウム(ComSys2024)(OS)	2024年12月2日～3日	慶應義塾大学／オンライン開催	40	111
インターネットと運用技術シンポジウム(IOTS2024)(IOT)	2024年12月5日～6日	東北大学医学部長陵会館／オンライン開催	26	190
人文科学とコンピュータシンポジウム(じんもんこん2024)(CH)	2024年12月7日～8日	東北大学	49	130
災害コミュニケーションシンポジウム(IS, IOT, SPT)	2024年12月26日	京都大学防災研究所／オンライン開催	12	44
ウィンターワークショップ2025(SE)	2025年1月10日～11日	海峡メッセ下関	20	68
Japan UBI Symposium ～Past, Present, and Future of UBI～(UBI)	2025年2月26日	グラングリーン大阪	50	75
インタラクション2025(HCI, GN, UBI, DCC, EC)	2025年3月2日～4日	学術総合センター	295	848
ITS研究フォーラム(ITS)	2025年3月11日	同志社大学／オンライン開催	5	54

2.2 教育活動分

高校教科「情報」シンポジウム2024秋ージョーシン2024秋ー	2024年10月27日	東京通信大学新宿駅前キャンパス／ハイブリッド開催	8	170
2024年度情報処理学会高等学校情報科教員研修	2024年5月23日～2025年3月31日	オンデマンド開催(文部科学省：全国教員研修プラットフォームPlantでの受講)	43	527

3. 事業活動

3.1 全国大会

名称	開催年月	場所	一般講演	招待講演	参加数
第87回全国大会	2025年3月13日～15日	立命館大学 大阪いばらきキャンパス(ハイブリッド開催)	1,608	4	4,504

3.2 FIT(情報科学技術フォーラム)

FIT2024 第23回情報科学技術フォーラム	2024年9月4日～6日	広島工業大学 五日市キャンパス(ハイブリッド開催)	602	1	2,331
-------------------------	--------------	---------------------------	-----	---	-------

※共催：電子情報通信学会(情報・システムサイエティ、ヒューマンコミュニケーショングループ)

3.3 連続セミナー2024：テーマ「情報技術の新たな地平：AIと量子が導く社会変革」

名称	開催年月	場所	演題数	参加数
量子情報科学への招待（1）量子コンピュータの実現と可能性	2024年6月11日	オンライン開催	5	76
量子情報科学への招待(2)量子インターネットの現在地と未来	2024年6月19日	オンライン開催	6	63
産業界での生成AI開発／活用	2024年7月3日	オンライン開催	7	101
次世代AIモデルに向けた研究開発動向	2024年8月7日	オンライン開催	5	94
AIセキュリティ：AIを攻撃から守る／AIを使った攻撃に備える	2024年9月2日	オンライン開催	5	62
AIガバナンスとAI品質マネジメント：拡大するAIリスクへの対策	2024年9月19日	オンライン開催	5	65
メタバース①～仮想空間を活用した身体・知覚・認知の拡張～	2024年10月9日	オンライン開催	4	46
メタバース②～仮想空間の価値を実空間に環流するインターバース～	2024年10月25日	オンライン開催	4	42
公平な資源配分問題から見るマーケットデザイン：機械学習とオンライン学習の観点から	2024年11月1日	オンライン開催	4	40
自動運転技術と展開	2024年11月18日	オンライン開催	6	34
都市はWell-beingと持続可能性の両立を追い求める	2024年12月6日	オンライン開催	5	29
知能化した情報環境における共生インタラクションの未来	2024年12月20日	オンライン開催	5	35

※協賛：照明学会、情報通信技術委員会、インターネット協会、情報サービス産業協会、電子情報技術産業協会、映像情報メディア学会、電子情報通信学会、電気学会

3.4 短期集中セミナー

名称	開催年月	場所	演題数	参加数	備考
宇宙×ICTをデータ処理と通信、標準化の視点から	2025年1月17日	ハイブリッド開催	7	478	※1

※1）共催：一般社団法人情報処理学会、一般社団法人情報通信技術委員会

JPEG/MPEG最前線 ～国際標準化最新動向、AI の活用とメタバースを実現する技術	2025年2月17日	オンライン開催	11	45	※1, 2
--	------------	---------	----	----	-------

※1）主催：一般社団法人 情報処理学会、一般社団法人 情報処理学会 情報規格調査会

※2）協賛：電子情報技術産業協会、ビジネス機械・情報システム産業協会、映像情報メディア学会、日本技術士会

3.5 プログラミング・シンポジウム

名称	開催年月	場所	演題数	参加数
夏のプログラミング・シンポジウム2024	2024年9月21日	現地開催 リクルート 九段下オフィス	8	61
第57回情報科学若手の会	2024年9月14日～16日	ハイブリッド開催 加藤山崎教育基金軽井沢研修所	17	45
第66回プログラミング・シンポジウム	2025年1月10日～12日	ハイブリッド開催 ホテルラフォーレ那須	23	66

4. 技術応用活動

4.1 個別ITフォーラム（3件）

名称	代表者名
サービスサイエンス	諏訪 良武
コンタクトセンター	寺下 薫
CITP	赤根 大吾

4.2 ITフォーラム関連のイベント

名称	開催年月	場所	演題数	参加数	備考
ITフォーラム2025	2025年2月7日	オンライン	28	350	※1, 2

※1）スポンサー：2口

※2）ITフォーラム3件（他団体連携1件（AITC）、スポンサー講演、学会講演）を開催

5. 支部活動（※役員会等は除く）

5.1 北海道支部

- ・情報処理北海道シンポジウム2024（12月1日、北見工大） 演題数52件、参加者数75名
- ・支部講演会 2回（6月20日、9月11日）
- ・後援・協賛 2回（9月15日、'25年3月7日-8日）

5.2 東北支部

- ・電気関係学会東北支部連合大会（8月29日-30日、秋田県立大） 発表数200件、参加者数162名
- ・支部研究会 7回（11月26日-27日、12月14日、12月20日、'25年1月25日、1月25日、2月27日）
- ・支部講演会 2回（10月2日、12月2日）*オンライン開催
- ・後援・共催 3回（7月14日、8月7日-8日、10月15日-16日）

5.3 東海支部

- ・電気・電子・情報関係学会東海支部連合大会（8月28日-29日、岐阜大） 演題数277件、参加者数465名
- ・講演会 6回（5月16日、8月28日、8月29日、10月25日、11月22日、'25年1月6日）

5.4 北陸支部

- ・特別講演会 1回（5月17日）
- ・電気・情報系学会北陸支部連合大会（9月14日、オンライン開催） 演題数164件、参加者数 484名
- ・見学会 1回（'25年1月12日）
- ・後援 1回（'25年1月29日）

5.5 関西支部

- ・記念講演会 1回（5月17日） 参加者72名
- ・関西支部支部大会（9月29日、オンライン開催）発表76件 参加者206名
- ・支部研究会：
組込みとセキュリティ研究会（9月24日）
ヒューマンコミュニケーション研究会（9月24日）
行動変容と社会システム研究会（9月24日、'24年3月2日-5日）
プログラミング・情報教育研究会（9月24日、11月4日）
- ・支部セミナー 3回（7月31日、9月17日、11月25日）
- ・講演会 1回（11月21日） 参加者80名

5.6 中国支部

- ・電気・情報関連学会中国支部連合大会（10月28日、オンライン開催） 演題数188件、参加者数 350名
- ・講演会 11回（4月17日、4月22日、9月6日、9月13日、12月5日、12月6日、12月6日、
12月13日、'25年1月29日、1月31日、3月28日）
- ・講習会 3回（7月11日、11月12日、'25年3月25日）
- ・協賛・後援 9回（7月12日、9月13日、10月9日、11月16日-17日、11月16日-17日、11月20日、11月23日、'25年2月21日、3月13日）

5.7 四国支部

- ・記念講演会 1回（6月7日） 参加者20名
- ・電気系学会四国支部連合大会（9月21日、徳島大常三島キャンパス） 講演数189件 参加者263名
- ・共催事業 7回（6月8日-8月31日、9月14日-12月14日、11月8日、12月21日、'25年2月8-9日・2月22-23日、3月7-8日、3月8-9日）
- ・講演会 2回（11月27日、12月2日）

5.8 九州支部

- ・記念講演会 1回（6月4日） 参加者15名
- ・電気関係学会九州支部連合大会（9月26日-27日、鹿児島大学） 発表数363名 参加者数617名
- ・若手の会セミナー（12月13日-14日、国民宿舎 波戸岬） 参加者数27名
- ・火の国情報シンポジウム（'25年3月5日-6日、長崎大） 発表数53名 参加者数102名
- ・後援・共催 4回（11月15日、10月25日、'25年1月7日、3月4日）

付3. 刊行物（機関誌・図書）一覧

1. 会誌「情報処理」（月刊）

発行年月日	巻	号	特集テーマ	その他参考		
				記事数 ※冊子+オンライン 刊行	本文頁数 ※冊子+オンライン 刊行	広告頁数
2024年4月15日	65	5	音楽×情報処理	28	194	6
2024年5月15日	65	6	ウェルビーイングとテクノロジーに関する動向	19	111	6
2024年6月15日	65	7	生成AIと教育	19	95	6
2024年7月15日	65	8	経済安全保障に向けたセキュリティ・アシュアランス～信頼の基盤構築のためのアプローチ～	18	94	6
2024年8月15日	65	9	大学における数理・データサイエンス・AI教育の現状	23	96	4
2024年9月15日	65	10	私のコンピューティング人生の原点	42	139	6
2024年10月15日	65	11	ジェンダーと情報	86	478	8
2024年11月15日	65	12	未来予測技術で何ができるの？	39	178	4
2024年12月15日	65	1	量子が紡ぐ新たな世界	21	114	4
2025年1月15日	66	2	生成AIの実社会への導入と乗り越えるべき壁	19	170	6
2025年2月15日	66	3	ATLAS実験「真空・時空」の解明・初期宇宙の進化への実験的アプローチ	18	100	4
2025年3月15日	66	4	次世代データベース Tsurugi	20	105	4

2. 「情報処理学会論文誌（ジャーナル）」（月刊）

※オンライン刊行のみ

発行年月日	巻	号	特集テーマ	その他参考		
				論文数	テクニカルノート数	本文頁数
2024年4月15日	65	4	ソフトウェア工学	11	0	120
2024年5月15日	65	5	情報システム論文	11	0	112
2024年6月15日	65	6	移動の価値を再創造する高度交通システムとパーベシブシステム	12	0	117
2024年7月15日	65	7	---	8	2	105
2024年8月15日	65	8	---	12	0	44
2024年9月15日	65	9	サプライチェーンを安全にするサイバーセキュリティ技術／組込みシステム工学	30	1	201
2024年10月15日	65	10	ユビキタスコンピューティングシステム(XII)	13	0	130
2024年11月15日	65	11	---	9	0	42
2024年12月15日	65	12	エンタテインメントコンピューティング／社会的・倫理的なオンライン活動を支援するセキュリティとトラスト	27	4	317
2025年1月15日	66	1	人々の幸福で豊かな暮らしを支えるコラボレーション技術とネットワークサービス	15	1	152
2025年2月15日	66	2	インタラクションの理解および基盤・応用技術／ネットワークサービスと分散処理／組込みシステム工学	30	3	311
2025年3月15日	66	3	気づきのあるネットワーク運用技術／若手研究者	19	1	155

3. 「Journal of Information Processing (JIP)」(年刊)

※オンライン刊行のみ

発行年	巻	号	備考	その他参考		
				論文数	テクニカルノート数	本文頁数
2024年4月15日	32	—	トランザクション連携論文：2	5	0	50
2024年5月15日	32	—	トランザクション連携論文：6	8	0	100
2024年6月15日	32	—	トランザクション連携論文：2	5	0	56
2024年7月15日	32	—	トランザクション連携論文：1	1	0	13
2024年8月15日	32	—	“Applications and the internet” in conjunction with the main topics of COMPSAC 2023 トランザクション連携論文：2	10	0	113
2024年9月15日	32	—	トランザクション連携論文：0	14	0	183
2024年10月15日	32	—	トランザクション連携論文：0	3	0	33
2024年11月15日	32	—	トランザクション連携論文：8	14	0	162
2024年12月15日	32	—	トランザクション連携論文：0	6	1	73
2025年1月15日	33	—	トランザクション連携論文：0	3	1	39
2025年2月15日	33	—	トランザクション連携論文：6	11	0	144
2025年3月15日	33	—	トランザクション連携論文：0	6	1	80

4. 「情報処理学会論文誌（トランザクション）」(不定期、10誌)

※オンライン刊行のみ

発行年月日	巻	号	トランザクション名	その他参考	
				論文数	本文頁数
2024年4月22日	17	2	プログラミング	3	3
2024年6月18日	17	3	プログラミング	1	5
2024年8月19日	17	4	プログラミング	2	28
2025年3月18日	18	1	プログラミング	2	15
2024年9月25日	17	3	数理モデル化と応用	2	24
2025年2月25日	18	1	数理モデル化と応用	1	9
2025年3月11日	18	2	数理モデル化と応用	3	33
2024年4月23日	17	2	データベース	7	49
2024年7月24日	17	3	データベース	2	11
2024年10月22日	17	4	データベース	7	42
2025年1月28日	18	1	データベース	5	33
2024年10月22日	17	2	コンピューティングシステム	1	0
2024年5月24日	14	2	コンシューマ・デバイス&システム	5	29
2024年10月31日	14	3	コンシューマ・デバイス&システム	5	33
2025年1月22日	15	1	コンシューマ・デバイス&システム	2	10
2024年8月29日	12	2	デジタルコンテンツ	2	20
2025年2月27日	13	1	デジタルコンテンツ	2	23
2024年6月17日	10	2	教育とコンピュータ	3	33
2024年10月4日	10	3	教育とコンピュータ	4	53
2025年2月21日	11	1	教育とコンピュータ	1	14
2024年4月15日	5	2	デジタルプラクティス	3	34
2024年7月15日	5	3	デジタルプラクティス	7	69
2024年10月15日	5	4	デジタルプラクティス	7	75
2025年1月15日	6	1	デジタルプラクティス	13	107
2024年4月30日	17	—	Bioinformatics	4	30
2024年8月30日	17	—	Bioinformatics	1	7
2024年12月27日	17	—	Bioinformatics	3	28
2024年6月7日	17	—	System and LSI Design Methodology	4	43
2025年2月27日	18	—	System and LSI Design Methodology	1	8

5. その他出版（重版）

※判型：A5、委託出版社名：オーム社

発行年月	書籍名	発行部数	本文頁数
2024年4月10日	IT textシリーズ 組込みシステム（1版7刷）	100	266
2024年4月30日	IT textシリーズ Javaオブジェクト指向プログラミング（1版8刷）	150	270
2024年7月10日	IT textシリーズ ネットワークセキュリティ（1版7刷）	1000	206
2024年7月10日	IT Textシリーズ（一般教育） 一般情報教育（1版5刷）	1500	218
2024年9月10日	IT textシリーズ コンパイラとバーチャルマシン（1版18刷）	400	212
2024年9月10日	IT textシリーズ 基礎Web技術（改訂2版）（2版6刷）	500	188
2024年9月10日	IT textシリーズ 人工知能（改訂2版）（2版8刷）	600	244
2024年9月10日	IT textシリーズ 数理最適化（1版8刷）	100	272
2024年10月30日	IT textシリーズ 情報リテラシー（1版18刷）	180	248
2025年1月20日	IT textシリーズ アルゴリズム論（1版22刷）	400	230
2025年1月20日	IT textシリーズ オペレーティングシステム（改訂2版）（2版8刷）	1500	260
2025年1月20日	IT textシリーズ コンピュータアーキテクチャ（改訂2版）（2版5刷）	300	232
2025年1月20日	IT Textシリーズ（一般教育） 情報システム基礎（1版17刷）	300	218
2025年2月10日	IT textシリーズ データベースの基礎（1版5刷）	300	288
2025年2月20日	IT textシリーズ 応用Web技術（改訂2版）（2版3刷）	113	192
2025年3月10日	IT Textシリーズ 情報セキュリティ（改訂2版）（2版4刷）	500	288
2025年3月10日	IT textシリーズ ソフトウェア開発（改訂2版）（2版11刷）	300	244
2025年3月20日	IT textシリーズ ソフトウェア工学（1版2刷）	143	228
2025年3月20日	IT textシリーズ 認知インタフェース（1版16刷）	102	248

6. その他出版（新刊）

2025年2月20日	IT textシリーズ ヒューマンコンピュータインタラクション（改訂3版）	1500	272
------------	---------------------------------------	------	-----

付4. 国際会議一覧

※以下は、2024年度内に終了報告が完了した国際会議

名称	開催年月	場所	参加数	内 海外参加	海外 共催団体
The 14th International Conference on Mobile Computing and Ubiquitous Networking (ICMU2023)	2023年11月29日-12月1日	京都市国際交流会館／オンライン開催	84名	58名	・ IEEE-CS
International Conference on High Performance Computing in Asia Pacific Region (HPCAsia2024)	2024年1月25日-27日	ウイנקあいち／オンライン開催	220名	160名	・ ACM

付5. 表彰等 *いずれも所属（（ ）内）は選定当時、掲載は順不同、敬称略

1. 新名誉会員（1名） [2025年度定時総会（2025年6月）] [理事会（2025年1月）]

・ Sorel Reisman (California State Univ)

2. 功績賞（2名）・顕功賞:該当なし [2025年度定時総会（2025年6月）] [功績賞選定委員会（2025年3月）]

(1) 功績賞（2名）

・ 茨木俊秀（京都情報大学院大） ・ 中川八穂子（日立）

3. 新フェロー（14名） [2025年度定時総会（2025年6月）] [フェロー選定委員会（2025年2月）]

・荒瀬 由紀(東京科学大)	「言語の意味理解と生成技術、それらの言語教育応用に対する貢献」
・石川 正俊(東京理科大)	「高速ビジョンとその応用システムに関する先駆的研究開発」
・柿本 正憲(東京工科大)	「視覚特性を考慮したCG描画技術の研究開発およびメディア学教育に関する貢献」
・加藤 ジェーン(高知工科大学)	「画像・映像認識と深層学習の先駆的研究および人材育成への貢献」
・加藤 伸子(筑波技術大)	「聴覚障害者のIT人材育成と聴覚障害者のコミュニケーションを支援する研究」
・加藤 由花(東京女子大)	「学会誌編集を通じた学会の活性化および本会のダイバーシティ推進活動に対する貢献」
・小池 英樹(東京科学大)	「知覚型ヒューマンコンピュータインタラクションに関わる先駆的研究」
・河野 健二(慶應義塾大)	「システムソフトウェアに関する研究、特に仮想化に関する研究への貢献」
・五味 秀仁(LINEヤフー)	「アイデンティティ管理方式の国際標準化と商用化開発への貢献」
・中小路 久美代(はこだて未来大)	「インタラクティブなシステムによる人の知的活動支援における先駆的研究」
・中野 真一(群馬大)	「効率的なアルゴリズムの開発とアルゴリズムに関する国際会議の企画運営」
・宮崎 純(東京科学大)	「高性能データ基盤とその高度応用」
・山下 茂(立命館大)	「論理設計技術に関する先駆的研究と量子計算分野の研究推進に対する貢献」
・義久 智樹(滋賀大)	「低負荷なストリームデータ集配信システムの研究および関連分野活性化に対する貢献」

4. 論文賞（6件21名） [2025年度定時総会（2025年6月）] [論文賞選定委員会（2025年2月）]

(1) 情報処理学会論文賞

・ 速さと正確さへの主観的なバイアスがポインティング手法評価の一般化可能性に与える影響
木下大樹、大場洋介、富張瑠斗（明治大学）、山中祥太（LINEヤフー株式会社）、宮下芳明（明治大学）

・ FID02の形式化の再考と複数モードの検証への拡張
佐藤瑞己（株式会社フレクト）、米山一樹（茨城大学）

(2) Journal of Information Processing Outstanding Paper Award

・ Understanding the Breakdown of Same-origin Policies in Web Services That Rehost Websites
Takuya Watanabe、Eitaro Shioji、Mitsuaki Akiyama (NTT Social Informatics Laboratories)、
Tatsuya Mori (Waseda University/NICT/RIKEN AIP)

(3) 情報処理学会論文誌 数理モデル化と応用 優秀論文賞

・ 動画像シミュレータを介した強化学習による細胞追跡手法
長村徹、瀬尾茂人、藤本健二、繁田浩功、松田秀雄（大阪大学）

(4) 情報処理学会論文誌 データベース 優秀論文賞

・ Dynamic Hyperbolic Embeddings with Graph-Centralized Regularization for Recommender Systems
Kojiro Iizuka (Gunosy Inc./University of Tsukuba)、Makoto P. Kato (University of Tsukuba)、
Yoshifumi Seki (Gunosy Inc.)

(5) 情報処理学会論文誌 デジタルプラクティス 優秀論文賞

・ 特許文献によるBERT事前学習モデルと特許調査業務への応用
秋山 賢二、斎藤 隆文（東京農工大学）

5. 業績賞（3件15名、*：代表貢献者） [2025年度定時総会（2025年6月）] [業績賞選定委員会（2025年3月）]

- ・「異業種間の安全なデータ連携を実現する「秘匿クロス統計技術」の開発と社会課題への応用」
*野澤一真 (NTTドコモ)、佐々木一也 (NTTドコモ)、長谷川 慶太 (NTT)、
紀伊真昇 (NTT)、寺田雅之 (NTTドコモ)
- ・「ビッグデータ時代を支える世界最大容量テープストレージ開発」
*鶴田和弘、小倉英司、田中啓介、宮村剛志、岡 摂子 (日本IBM)
- ・「プライバシー配慮と複数人同時見守りを両立するミリ波センシング技術の実用化」
*紺野剛史、吉岡隆宏、井手健太、白石壮太、津山慶之 (富士通)

6. 情報処理技術研究開発賞（1名） [2025年度定時総会（2025年6月）] [情報処理技術研究開発賞選定委員会（2025年1月）]

- ・池松 香 (LINEヤフー) 「スマートデバイスのインタラクション手法の拡張」

7. マイクロソフト情報学研究賞（2名） [第87回全国大会（2025年3月）表彰] [マイクロソフト情報学研究賞選定委員会（2024年1月）]

- ・鳴海 紘也 (慶 大) 「折紙に着想を得たデジタルファブリケーションの研究」
- ・坂野 遼平 (一橋大) 「IoTメッセージングのスケラビリティに関する研究」

8. IPSJ/ACM Award for Early Career Contributions to Global Research（1名）
[第87回全国大会（2025年3月）表彰 *2025年6月 ACM Award Banquet招待予定] [IPSJ/ACM審査会（2025年2月）]

- ・Theoretical and Empirical Modeling for Understanding Human Motor Behaviors in Graphical User Interfaces
山中 祥太 (LINEヤフー)

9. IPSJ/ IEEE Computer Society Young Computer Researcher Award（2名）
[第87回全国大会（2025年3月）表彰] [IPSJ/IEEE-CS審査会（2025年2月）]

- ・Outstanding Research on Haptics for Human-Computer Interaction
蜂須 拓 (筑波大)
- ・Established indirect sensing method based on machine learning for information hidden in real-world uncertainties
勝木 孝行 (日本IBM)

10. 山下記念研究賞（54編） [第87回全国大会（2025年3月）表彰] [各領域委員会（2024年7月）]

<コンピュータサイエンス領域（14編）>

- ・ドメイン特徴に基づくランキング学習モデルのドメイン適応 [DBS] 伊藤拓誠 (筑波大)
- ・動的モード分解を活用した高速将来予測アルゴリズム [DBS] 千原直己 (阪大)
- ・大規模言語モデルを用いた要求仕様自動分類 [SE] 長岡武志 (東芝)
- ・推薦の優先度に基づく識別子名一括変更支援 [SE] 土居直樹 (東工大)
- ・連合学習におけるバックドアの発動遅延によるステルスな学習攪乱 [ARC] 筒井政成 (ソニー・インタラクティブエンタテインメント)
- ・Towards Automatic Verification of Concurrency Memory Bug Freeness of Linux Kernel Modules by Transpilation to PlusCal [OS] 服部 穰 (東大)
- ・Gain-Cell構造に基づく完全合成可能なスタンダードセルベースDRAM [SLDM] 陳 岱鋒 (名大)
- ・計算品質を考慮した適者生存戦略に基づき近似計算の品質検証を高速化するファジングテスト手法 [SLDM] 本多佑成 (ルネサスエレクトロニクス)
- ・CUDA Fortran+MIG+UVMを用いたBLR行列QR分解の大規模高速化 [HPC] 大島聡史 (九大)
- ・倍精度指数関数の高速な完全精度実装 [HPC] 小泉 透 (名工大)
- ・A Sufficient Condition of Logically Constrained Term Rewrite Systems for Decidability of All-Path Reachability Problems with Constant Destinations [PRO] 小嶋美咲 (名大)
- ・輪番割当6分の5予想の解決 [AL] 河村彰星 (京大)
- ・DDSとSOME/IPの協調フレームワーク [EMB] 岩上竜大 (埼玉大)
- ・魔法状態評価の大規模化に向けた効率的アルゴリズム [QS] 浜口広樹 (東大)

<情報環境領域（21編）>

- ・ NWDAFに着目した分散モバイルコアネットワークに関する検討 [DPS] 倉田真之（KDDI総研）
- ・ 集計処理をもとにした関係データベースとグラフデータベースの性能評価 [DPS] 田村大樹（三菱電機）
- ・ Lyric App Framework: インタラクティブな歌詞駆動型視覚表現の開発用フレームワーク [HCI] 加藤 淳（AIST）
- ・ 人間と食物の意見の相違がその味に及ぼす影響：対話可能な食口ロボットを用いた実験的探求 [HCI] 久米佑弥（電通大）
- ・ ビジネスゲームを利用した情報システム教育の設計と実践報告 [IS] 松澤芳昭（青山学院大）
- ・ マスク言語モデルによる日本語文章の自動強調付与 [IFAT] Zhuo Binggang（鳥取大）
- ・ VR会議における他者との対面量に着目した会議の質評価の試み [CN] 渡会隆哉（はこだて未来大）
- ・ 画像認識を用いた小型農業用ロボット向け作物列追従システムの提案 [MBL] 北出卓也（NTTドコモ）
- ・ Ultra Wide Bandを用いた高精度位置測位システムの一検討 [MBL] 藤原拓也（阪大）
- ・ プロンプト・チューニングは大規模言語モデルの安全性を高めるか？ [CSEC] 中井綱人（三菱電機）
- ・ 入力時の日本語と英語の差異がChatGPTで生成するコードの安全性に与える影響の考察 [CSEC] 山岸 伶（日立）
- ・ 遠隔車両制御システムのためのリアルタイムシミュレータ [ITS] 佐々木健吾（豊田中央研）
- ・ 敵対的生成モデルに基づく活動人口の波形描画を用いた混雑寿命予報 [UBI] 安納爽響（東工大）
- ・ GNSS衛星ごとの信号情報に対する点群ニューラルネットワークを用いたUVインデックス推定 [UBI] 厚見 昂（東大）
- ・ 突発的なWebトラフィックの増減に適応するfuzzy entropyを用いたオートスケーリングシステム [IOT] 横山尚弥（北陸先端大）
- ・ プライバシーポリシーに使用される技術用語および個人情報保護法に対するユーザの理解度の調査 [SPT] 金森祥子（NICT）
- ・ ユーザブルセキュリティ研究に向けた情報セキュリティ・プライバシーに関する問題セットの構築 [SPT] 吉川 諒（-）
- ・ 様々な産地市場に転用可能な魚種の自動判別モデル [CDS] 長谷川達人（福井大）
- ・ 3Dプリンターで飲料中に雲を造形するアート作品の制作 [DCC] INOMATA AKI（デジタルハリウッド大）
- ・ 微分可能レンダリングを用いた所望の集光模様を持つゼリーの設計手法 [DCC] 猪腰大樹（芝浦工大）
- ・ Digital Platform for improving Older Adults' Quality of Life in Today's Super-Aging Society [ASD] 行木陽子（中央大）

<メディア知能情報領域（19編）>

- ・ 未知の知識に対する事前学習済み言語モデルが持つ推論能力の調査 [NL] 坂井優介（奈良先端大）
- ・ 多様な選好を持つ荷主からなる混載輸送サービスにおけるダイナミックプライシングによる貨物量変動の抑制 [ICS] 近藤 愛（沖電気）
- ・ View Birdification: On-Ground Pedestrian Movement Estimation and Prediction from Ego-centric In-Crowd Views [CVIM] 西村真衣（オムロンサイニックス）
- ・ カゲを考慮した低ランク性に基づく多波長・多方向光源下の相互反射除去 [CVIM] 谷口暢章（パナソニックエンターテインメント&コミュニケーション）
- ・ オパールのビジュアルシミュレーション-焼結の再現と回折方向の効率的な探索- [CG] 横田壮真（慶大）
- ・ 大学入学共通テスト「情報Ⅰ」における「データの活用」の分野に則した授業の検討 [CE] 稲垣俊介（山梨大）
- ・ 円グラフと帯グラフの量的把握の比較検討 [CE] 隅谷孝洋（広島大）
- ・ 物語の展開パターンの結合の特徴に基づく構造の自動生成ー『ブラック・ジャック』新作に向けて [CH] 村井 源（はこだて未来大）
- ・ 歴史マイクロナレッジの提唱とHIMIKO (Historical Micro Knowledge and Ontology) システムの実装 [CH] 小川 潤（国立情報学研究所）
- ・ TextAlive App API: 「リリックアプリ」の提案とプログラミング・コンテストでの実証実験 [MUS] 加藤 淳（AIST）
- ・ ChatGPT-EDSS: ChatGPT由来のContext Word Embeddingから学習される共感的対話音声合成モデル [SLP] 齋藤佑樹（東大）
- ・ パラレルデータを用いた知識蒸留によるNeural Transducer型目的話者音声認識の性能改善の検討 [SLP] 森谷崇史（NTT）
- ・ 選挙運動におけるAI 利用の規制 ―アメリカにおけるディープフェイク規制を中心にー [EIP] 湯浅壺道（明大）
- ・ 4 × 3盤面の2048の完全解析 [GI] 山下修平（三菱電機）
- ・ 2人完全情報零和ゲーム「PYLOS」の子供用、通常、上級ルールでの強解決 [GI] 三納侑樹（電通大）
- ・ 英会話はハートがすべてなんで！？キャンユースピークイングリッシュ？ [EC] 山西良典（関大）
- ・ Protein-compound interaction prediction using microbial chemical communication network [BIO] 齋藤 裕（AIST）
- ・ Comfortable Sakai によるSakai LMSの機能改善およびユーザ評価 [CLE] 武田和樹（京大）
- ・ 介護施設の雰囲気向上に着目した介護支援技術評価指標の開発 [AAC] 平賀暉章（沖電気）

11. 大会優秀賞・大会奨励賞

賞状等授与、発送をもって表彰 *第87回全国大会ハイブリッド開催により] [86回全国大会 大会優秀賞・大会奨励賞選定委員会 (2024年6月)]

(1) 大会優秀賞 (11名)

- | | | | |
|----------------|-----------------|------------------|-----------------|
| ・阿部 玲華 (京都大学) | ・安藤 佑咲 (群馬大学) | ・岩崎 裕憲 (東京電機大学) | ・金澤 理乃 (神奈川大学) |
| ・古宮 大暉 (神奈川大学) | ・坂野 達郎 (東京大学) | ・須藤 文仁 (東京電機大学) | ・藤井 一喜 (東京工業大学) |
| ・藤田 然 (青山学院大学) | ・萩野 直人 (青山学院大学) | ・宮崎 信浩 (富士通株式会社) | |

(2) 大会奨励賞 (8名)

- | | | | |
|----------------|-----------------|-----------------|----------------|
| ・青木 雄佐 (龍谷大学) | ・古菅 翔生 (横浜国立大学) | ・小林 裕二 (東京農工大学) | ・近藤 竜也 (神奈川大学) |
| ・坂野 晃 (東京工業大学) | ・土山 啓汰 (弘前大学) | ・永木 謙吾 (立命館大学) | ・劉 雅婷 (神奈川大学) |

12. 若手奨励賞 (19件)

[当該コンテストにて表彰] [若手奨励賞選定委員会 (2024年4月~2025年3月)]

<第30回スーパーコンピューティングコンテスト(2024年8月)>

- | | |
|-----------|---------------------------------|
| ・Calamari | 関口勇音, 太田克樹, 松井智生 (筑波大学附属駒場高等学校) |
|-----------|---------------------------------|

<第35回全国高等専門学校プログラミングコンテスト (2024年10月) 課題部門>

- | | |
|------------------------------|---------------------------------------|
| ・Triplean—インバウンド対応・清掃支援システム— | 白川琥大、松葉勇希、北仲悠人、山下温斗、鮎川 颯 (鳥羽商船高等専門学校) |
|------------------------------|---------------------------------------|

<第35回全国高等専門学校プログラミングコンテスト (2024年10月) 自由部門>

- | | |
|------|---|
| ・uni | 山田美羽、天竺寛貴、横井優樹、小原崇靖、菅 勇磨 (香川高等専門学校(詫間)) |
|------|---|

<第35回全国高等専門学校プログラミングコンテスト (2024年10月) 競技部門>

- | | |
|------|------------------------------|
| ・回鍋肉 | 三島知樹、田中 庵、長谷川友音 (松江工業高等専門学校) |
|------|------------------------------|

<ETロボコン2024 プログラミング部門 (2024年11月)>

- | | |
|-----------------|---|
| ・Smart Slackers | 小野弘太郎、里村秀行、福村龍飛、井上陽馨、江崎伸一郎、萩本月哉、鈴木新世、原田和真、福元祐介、松本和馬、宗像悠成 (九州産業大学) |
|-----------------|---|

<パソコン甲子園2024 プログラミング部門 (2024年11月)>

- | | |
|-------------|--------------------------|
| ・競技のマジョリティア | 尼丁祥吾、木村友咲 (澁高等学校) |
| ・DoublePlay | 小熊大翔、松井智生 (筑波大学附属駒場高等学校) |
| ・Terminal | 坂山航大、高橋洋翔 (開成高等学校) |

<パソコン甲子園2024 モバイル部門 (2024年11月)>

- | | |
|-----------|-----------------------------|
| ・あんちょこモード | 知念栄樹、兼本集久、小野心歌 (沖縄工業高等専門学校) |
|-----------|-----------------------------|

<第5回日本情報オリンピック女性部門 (2025年3月)>

- | | |
|----------------------|-------------------|
| ・旗智里奈 (洛南高等学校附属中学校) | ・谷 瞳 (久留米大学附設中学校) |
| ・志村瑛美 (東京都立新宿山吹高等学校) | ・馨儀 (筑波大学附属高等学校) |

<第24回日本情報オリンピック (2025年3月)>

- | | | |
|----------------------|--------------------|----------------------|
| ・小熊大翔 (筑波大学附属駒場高等学校) | ・平澤由埜 (神奈川大学附属中学校) | ・太田克樹 (筑波大学附属駒場高等学校) |
|----------------------|--------------------|----------------------|

<中高生情報学研究コンテスト (2025年3月)>

- | | |
|---|----------------------------------|
| ・スクールバス位置確認システム「バスなう」の開発と運用 | 伊藤叡一郎 (津田学園中学校・高等学校) |
| ・Kubernetesクラスタ上でのeBPFを用いたWebアプリ用サーバーレス基盤の実装と評価 | 二ノ方理仁 (東京都立産業技術高等専門学校) |
| ・流星の自動観測を目指す~流星の経路特定と反射領域の可視化~ | 大谷勇人、西 梨杏、村田圭総、奥出理人 (東京都立立川高等学校) |

13. 学会活動貢献賞／感謝状

[2025年度定時総会 (2025年6月)] [経営企画委員会 (2025年1月他)]

(1) 学会活動貢献賞:「学会誌における編集業務への貢献」 (1名)

- | |
|---------------|
| ・西原翔太 (サイボウズ) |
|---------------|

(2) 学会活動貢献賞:「論文誌への査読貢献」 (3名)

- | | | |
|--------------|--------------|-------------|
| ・須賀 祐治 (IIJ) | ・江木 啓訓 (電通大) | ・廣森 聡仁 (阪大) |
|--------------|--------------|-------------|

(3) 学会活動貢献賞:「情報処理教育委員会への貢献」 (1名)

- | |
|--------------|
| ・稲垣 知宏 (広島大) |
|--------------|

(4) 学会活動貢献賞：「FIT2024第23回情報科学技術フォーラム開催への貢献」（1名）

・山岸秀一（広島工業大）

(5) 学会活動貢献賞：「第86回全国大会開催への貢献」（1名）

・木下佳樹（神奈川大）

(6) 感謝状：「技術応用活動への貢献」（1名）

・中川八穂子（日立）

(7) 感謝状：「JABEE活動への貢献」（1名）

・高橋 尚子（國學院大）

(8) 感謝状：「学会誌における編集業務への貢献」（1名）

・加藤 由花（東京女子大）

(9) 感謝状：「本会の高等学校情報科の取組みへの貢献」（2名）

・福原利信（久留米西高校） ・田崎丈晴（新宿高校）

14. 支部関係

[各支部総会・支部連合大会等にて表彰] [各支部]

<北海道>

- | | |
|-----------------|-------------------------------|
| (1) 研究奨励賞（5名） | ・阿部尚輝 ・中山翔太 ・湯川泰成 ・榊 統 ・五十嵐大和 |
| (2) 学術研究賞（1件） | ・大沢岬紀、原田恵雨、土居茂雄、三上 剛 |
| (3) 技術研究賞（1件） | ・篠田裕人、中村篤弘、古田凌将、升井洋志 |
| (4) 工業高専奨励賞（3名） | ・中村亮太 ・小笠原圭吾 ・井上ゆい |

<東北>

- | | |
|-----------------|---|
| (1) 学生奨励賞（17名） | ・石沢 怜 ・石山泰成 ・瓜田壮一郎 ・遠藤隆幸 ・草刈颯太 ・小林高大 ・小林 陽
・佐久間陶治 ・久保伊吹 ・南谷隆平 ・早坂善哉 ・平根秀康 ・福士雅弘 ・本城佑太
・宮古菜々 ・村上紗彩 ・原田零生 |
| (2) 奨励賞（5名） | ・下迫 響 ・和田智輝 ・李 姣霖 ・藤原稜大 ・目黒大樹 |
| (3) 野口研究奨励賞（1名） | ・シトツキ |

<東海>

- | | |
|-----------------|-------------------------------------|
| (1) 奨励賞（6名） | ・早瀬大輝 ・南谷大輔 ・鈴木翔大 ・中村詩織 ・鈴木康太 ・市川直人 |
| (2) 学生論文奨励賞（2名） | ・竹味和輝 ・國枝祐希 |

<北陸>

- | | |
|-----------------|---|
| (1) 優秀論文発表賞（9名） | ・熊本悦士 ・深町京佑 ・須山大輝 ・成田力哉 ・二飯田大暉 ・水口直昭 ・平山裕月
・山口剛史 ・織田康太郎 |
| (2) 優秀学生表彰（12名） | ・澤浦大稀 ・五嶋凌大 ・中尾 悠 ・西川就斗 ・岩倉史昌 ・大田皐介 ・入澤恒太
・ハシムロ 琉海ジエムス ・小林丈琉 ・渡辺珠梨 ・酒井涼介 ・佐藤優祐 |
| (3) 業績賞（1名） | ・坂井 俊介 ・高林 裕太 |

<関西>

- | | |
|---------------|--------------------------|
| (1) 学生奨励賞（4名） | ・中壺柊貴 ・鳥垣耀平 ・大崎有一朗 ・岡崎理来 |
|---------------|--------------------------|

<中国>

- | | |
|--------------------------|---|
| (1) 優秀論文発表賞（3名） | ・神代春花 ・及川 歩 ・佐原海哉 |
| (2) 奨励賞（8名） | ・尾崎銀河 ・澤村和貴 ・神保啓幸 ・高橋千賢 ・畑本真優 ・藤井裕也 ・藤本剛瑠 ・吉岡 健 |
| (3) 40周年記念
功労者表彰（10名） | ・菅原一孔 ・高橋健一 ・谷口秀夫 ・乃村能成 ・金田和文
・ライフェル ヒール ・會澤邦夫 ・神崎映光 ・山岸秀一 ・松本慎平 |
| 論文貢献賞（4名） | ・佐藤将也 ・重安哲也 ・乃村能成 ・山内利宏 |
| 電気・情報関連学会中国支部 | ・川村尚生 ・佐藤洋一郎 ・重安哲也 |
| 企業貢献賞（5社） | ・(株)コア中四国カンパニー・(株)ハイエレコン・(株)日立製作所中国支社・(株)両備システムズ・マツダ |

<四国>

- | | |
|--------------|--|
| (1) 奨励賞（50名） | ・松本隆杜 ・吉田悠大 ・杉山誠治 ・内山稜太 ・前畑真由 ・貝崎新一郎
・吉見菜那 ・花岡直弥 ・酒井 匡章 ・吉田直輝 ・三浦康靖 ・佐川太陽
・村田彪馬 ・酒尾美星 ・村山圭汰 ・村上隼瑛 ・早道広峻 ・泉谷駿亮
・寺尾保範 ・小林春一 ・小松拓豊 ・桑原基一郎 ・秋山 凌 ・狩屋歩夢
・穴吹大地 ・佐野剛規 ・廣瀬真由子 ・ジャンカー・ジャシア和男 ・日永直仁 ・川田きらら |
|--------------|--|

- ・河野竜也 ・竹内将人 ・仲村一真 ・清水歩夢 ・福田健人 ・長谷川菜月
- ・藤原優杏 ・山本紘揮 ・渡辺一翔 ・高田悠佑 ・谷野宮蒼士 ・桑島治希
- ・多田一真 ・岡田哉汰 ・金丸晃大 ・西原一輝 ・三井優弥 ・菅野琴路
- ・桃谷勇汰 ・村上ヒカ

<九州>

- (1) 奨励賞-連合大会 (5名) ・邪答院優斗 ・有留直希 ・原田祐介 ・石津七海 ・濱田悠樹
- (2) 奨励賞-火の国ソル (6名) ・山村慧心 ・結城光太郎 ・城卓杜 ・影本幸哉 ・井手伊織 ・白瀬翔琉
- (3) 奨励賞-若手の会 (1名) ・加治木諒馬

15. ソフトウェアジャパンアワード (2名)

[2025年度定時総会 (2025年6月) 表彰] [技術応用運営委員会 (2025年3月)]

- ・廃棄を低減する衣服設計のソフトウェア「Algorithmic Couture」の開発

川崎 和也 (Synflux株式会社)、佐野 虎太郎 (Synflux株式会社)

16. FIT関連の各賞

- (1) FIT2024船井業績賞 (1名) ※船井情報科学振興財団主催 [FIT2024 (2024年9月) 表彰] [船井業績賞選定委員会 (2023年9月)]
・Ling Liu (Professor, School of Computer Science, Georgia Institute of Technology)

- (2) FIT2024船井ベストペーパー賞 (3件) ※船井情報科学振興財団主催 [FIT2025 (2025年9月) 表彰] [FIT賞選定委員会 (2024年11月)]
・一次関数に対する合成順と行列の積順

久保 奨 (公立鳥取環境大学) ・牧野 和久 (京都大学) ・坂本 壮太 (Acompany)

- ・明視野顕微鏡による観察画像を用いた無染色標本からの疑似Masson's trichrome染色

吉岡 佳音 ・篠田 一馬 (宇都宮大学)

- ・カーネルデータ監視による特権昇格攻撃検出手法の提案と評価

葛野 弘樹 (神戸大学) ・山内 利宏 (岡山大学)

- (3) FIT論文賞 (9件) [FIT2025 (2025年9月) 表彰] [FIT賞選定委員会 (2024年11月)]

- ・マルチメトリック空間における効率的な近似最近傍探索

植村 玲央 ・天方 大地 ・原 隆浩 (大阪大学)

- ・二人零和マルコフゲームにおける状態抽象化法に関する研究

石橋 宙希 ・岩崎 敦 (電気通信大学) ・阿部 拳之 (サイバーエージェント)

- ・値域フーリエ級数展開による冗長ウェーブレット変換

林 晃平 ・本田 宗一郎 ・亀井 宏和 ・福嶋 慶繁 (名古屋工業大学) ・前田 慶博 (芝浦工業大学)

- ・薬剤耐性のパンデミックにつながる社会的ジレンマの観測と国際比較

伊東 啓 ・吉村 仁 ・山本 太郎 (長崎大学) ・和田 崇之 (大阪公立大学) ・一ノ瀬 元喜 ・守田 智 (静岡大学) ・谷本 潤 (九州大学)

- ・3次元点群データによる仮想空間表現のユーザ体感品質分析に関する検討

槇 優一 ・阿部 直人 ・望月 崇由 (日本電信電話株式会社)

- ・LEDサーカディアン照明を用いたVLP (Visible Light Positioning) システム用光IDの評価

坂根 頌梧 ・大柴 小枝子 (京都工芸繊維大学)

- ・業務モデルの基本フローを意識した罹災証明書交付プロトタイプシステムの開発と実装～令和6年能登半島地震における氷見市を事例として

井ノ口 宗成 (富山大学)

- (4) FIT2023ヤングリサーチアワード (8名) [FIT2025 (2025年9月) 表彰] [FIT賞選定委員会 (2024年11月)]

- ・小西 陸斗 (東北大学) ・浅古 瑞穂 (電気通信大学) ・杉田 基樹 (明治大学) ・周東 裕也 (広島市立大学)
- ・鹿内 嵩天 (東北工業大学) ・川島 壮生 (名古屋工業大学) ・櫻井 舜 (北海道大学) ・櫻井 航 (科学警察研究所)
- ・藤森 和泉 (徳島大学)

17. 情報規格調査会関連の表彰

- (1) 標準化功績賞 (2名) [情報規格調査会総会 (2024年5月) 表彰] [情報規格調査会]

- ・伊藤 雅樹 ・高木 渉 氏 (株式会社 日立製作所)

- (2) 標準化顕功賞 (2名)

- ・塩谷 和範 ・西 康晴

(3) 標準化貢献賞 (4名)

[情報規格調査会総会 (2024年5月) 表彰] [情報規格調査会]

- ・杉尾 敏康 (パナソニック ホールディングス㈱)
- ・武部 泰行 氏 (一般社団法人 エコネットコンソーシアム/テュフ ラインランド ジャパン㈱)
- ・高橋 遼平 氏 (ソニー㈱) ・中條 健 氏 (シャープ㈱)

(4) 国際規格開発賞 (21名 : 20件)

[情報規格調査会 技術委員会 (2024年4月~3月) 表彰] [情報規格調査会]

- ・畔津 布岐 (JIPDEC) ・猪飼 知宏 (シャープ㈱) ・掛下 哲郎 (佐賀大) ・菊池 亮 (NTT)
- ・木下 修司 (東京都立産業技術大学院大) ・金 京淑 (産総研) ・崎村 夏彦 (JIPDEC)
- ・鈴木 伸明 (東芝) ・鈴木 俊哉 (広島大) ・鈴木 幸太郎 (豊橋技術科学大)
- ・高橋 遼平 (ソニー) ・鄭 育昌 (富士通) ・中條 健 (シャープ) ・中尾 康二 (情報通信研究機構)
- ・中島 毅 (芝浦工業大) ・原田 登 (NTT) ・日間賀 充寿 (日立製作所) ・山田 茂史 (富士通)
- ・鷺崎 弘宜 (早稲田大) ・渡邊 修 (拓殖大) ・渡辺 友弘 (デンソーウェーブ)
- ・渡邊 修 (拓殖大)

(5) 産業標準化事業表彰

[産業標準化表彰式 (2024年10月) 表彰] [経済産業省]

- ・産業標準化事業表彰(個人) (経済産業大臣表彰) : 高木 渉 氏 (日立製作所)
- ・産業標準化事業表彰(個人) (経済産業大臣表彰) : 渡邊 創 氏 (産業技術総合研究所)
- ・産業標準化事業表彰(個人) (イノベーション・環境局長表彰 (貢献者表彰)) : 片山 和典 氏 (日本電信電話)
- ・産業標準化事業表彰(個人) (イノベーション・環境局長表彰 (貢献者表彰)) : 中條 健 氏 (シャープ)
- ・産業標準化事業表彰(個人) (イノベーション・環境局長表彰 (奨励者表彰)) : 高田 圭一郎 氏 (シャープ)

18. 情報処理技術遺産および分散コンピュータ博物館

[第87回全国大会 (2025年3月) 認定] [歴史特別委員会 (2024年11月)]

(1) 情報処理技術遺産 (1件)

- ・SONY NEWS ワークステーション

(2) 分散コンピュータ博物館 (なし)

その他・附属明細書（法定記載事項）

1. その他、内部統制の整備についての決議に該当はありません。
2. その他、事業報告の内容を補足する重要な事項はありません。

以上

[第 1 号議案]

1-2. 2024 年度財務諸表等

1. 貸借対照表
2. 正味財産増減計算書
付. 参考：事業別サマリー
3. 財務諸表に対する注記
4. 附属明細書
5. 財産目録

2024年度 財務諸表

1. 貸借対照表

2025年3月31日現在

(単位：円)

科目	当期末 2025年3月31日	前期末 2024年3月31日	増減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	541,428,851	566,264,144	△ 24,835,293
未収会費	5,825,760	7,973,640	△ 2,147,880
未収金	25,220,524	30,659,140	△ 5,438,616
前払金	11,124,630	5,777,544	5,347,086
支部仮払金	1,810,979	1,558,820	252,159
貸倒引当金	△ 220,000	△ 190,000	△ 30,000
商品	1,332,693	1,338,630	△ 5,937
貯蔵品	699,997	868,041	△ 168,044
流動資産 合計	587,223,434	614,249,959	△ 27,026,525
2. 固定資産			
(1) 特定資産			
退職給付引当資産	71,931,099	87,502,860	△ 15,571,761
学会長期運営積立資産	350,910,572	355,688,726	△ 4,778,154
山下記念研究賞積立資産	2,665,581	2,732,976	△ 67,395
調査研究積立資産	203,839,406	198,629,297	5,210,109
音楽情報科学積立資産	727,689	892,275	△ 164,586
規格国際会議開催積立資産	56,714,646	56,709,342	5,304
規格国際会議派遣積立資産	66,920,308	66,919,173	1,135
規格電子化積立資産	31,229,798	31,227,096	2,702
規格長期運営積立資産	58,079,514	58,067,220	12,294
特定資産 合計	843,018,613	858,368,965	△ 15,350,352
(2) その他固定資産			
建物付属設備	2,759,900	2,759,900	0
什器備品	17,284,244	14,612,108	2,672,136
リース資産	9,042,000	9,042,000	0
ソフトウェア	67,472,330	66,913,200	559,130
減価償却累計額	△ 67,089,922	△ 59,064,687	△ 8,025,235
敷金	29,178,844	21,939,844	7,239,000
その他固定資産 合計	58,647,396	56,202,365	2,445,031
固定資産 合計	901,666,009	914,571,330	△ 12,905,321
資産 合計	1,488,889,443	1,528,821,289	△ 39,931,846
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	15,844,372	22,909,241	△ 7,064,869
未払消費税等	1,787,000	5,589,400	△ 3,802,400
未払法人税等	70,000	70,000	0
前受金	102,877,846	103,307,410	△ 429,564
預り金	1,499,512	3,514,786	△ 2,015,274
仮受金	1,914,102	309,791	1,604,311
1年以内返済リース債務	1,808,400	1,808,400	0
賞与引当金	19,000,000	20,100,000	△ 1,100,000
流動負債 合計	144,801,232	157,609,028	△ 12,807,796
2. 固定負債			
リース債務	4,068,900	5,877,300	△ 1,808,400
退職給付引当金	71,931,099	87,502,860	△ 15,571,761
固定負債 合計	75,999,999	93,380,160	△ 17,380,161
負債 合計	220,801,231	250,989,188	△ 30,187,957
III 正味財産の部			
一般正味財産	1,268,088,212	1,277,832,101	△ 9,743,889
(うち特定資産への充当額)	(771,087,514)	(770,866,105)	(221,409)
負債および正味財産合計	1,488,889,443	1,528,821,289	△ 39,931,846

2. 正味財産増減計算書

2024年4月1日から2025年3月31日まで

(単位：円)

科目	当期 2024年度	前期 2023年度	増減	備考 (増減の主な理由ほか)
I 一般正味財産増減の部				
1. 経常増減の部				
(1) 経常収益				
特定資産運用益	314,610	10,889	303,721	
特定資産受取利息	314,610	10,889	303,721	
受取入会金	778,000	768,000	10,000	
受取入会金	778,000	768,000	10,000	
受取会費	179,599,180	181,518,670	△ 1,919,490	
正会員受取会費	130,723,240	134,678,270	△ 3,955,030	
学生会員受取会費	16,813,440	15,590,400	1,223,040	
賛助会員受取会費	32,062,500	31,250,000	812,500	
事業収益	433,408,465	470,574,381	△ 37,165,916	
頒布・購読収益	40,709,167	41,882,032	△ 1,172,865	
掲載・別刷料収益	58,638,910	57,487,620	1,151,290	
広告収益	32,421,688	39,936,640	△ 7,514,952	*調査研究シンボ等減
参加費収益（含予稿集）	158,849,950	184,926,161	△ 26,076,211	*調査研究シンボ・講習会連セミ等減
審査料・登録料収益	3,413,300	2,157,100	1,256,200	
研究会登録費収益	27,074,250	28,000,100	△ 925,850	
規格賛助員費収益	91,200,000	92,000,000	△ 800,000	
国際会議収益	4,682,478	4,980,943	△ 298,465	
分担金収益	2,770,955	1,030,087	1,740,868	
抄録料、著作権使用料等収益	3,245,378	2,922,066	323,312	
受取民間委託費	10,402,389	15,251,632	△ 4,849,243	
受取補助金等	5,761,454	10,741,449	△ 4,979,995	
受取民間補助金	100,000	7,125,000	△ 7,025,000	*標準化ISO/IEC総会日本開催なしによる減
受取地方公共団体助成金	0	968,592	△ 968,592	
受取民間助成金	5,661,454	1,209,600	4,451,854	
受取国庫補助金	0	1,438,257	△ 1,438,257	
受取負担金	19,770,899	0	19,770,899	
受取負担金	19,770,899	0	19,770,899	
受取寄付金	3,050,000	3,700,000	△ 650,000	
受取寄付金	3,050,000	3,700,000	△ 650,000	
雑収益	451,884	74,313	377,571	
受取利息	68,940	1,562	67,378	
雑収益	382,944	72,751	310,193	
経常収益計	643,134,492	667,387,702	△ 24,253,210	
(2) 経常費用				
事業費	446,232,401	462,617,294	△ 16,384,893	
給料手当	114,053,506	116,401,889	△ 2,348,383	
賞与引当金繰入額	13,742,857	8,724,889	5,017,968	*前期標準化分が給与手当に含まれていたことによる増
臨時雇賃金	10,553,868	12,746,067	△ 2,192,199	
退職金	0	181,400	△ 181,400	
退職給付費用	924,750	841,100	83,650	
福利厚生費	25,226,082	24,301,766	924,316	
会議費	79,090,393	65,903,905	13,186,488	*調査研究シンボ・標準化SC29国際会議増
旅費交通費	35,956,121	33,460,528	2,495,593	
通信運搬費	14,504,772	14,384,643	120,129	
減価償却費	990,198	965,635	24,563	
消耗品費	4,179,822	5,734,761	△ 1,554,939	
印刷製本費	57,492,955	60,326,678	△ 2,833,723	
光熱水料費	76,837	105,329	△ 28,492	
賃借料	8,045,412	8,339,941	△ 294,529	
保険料	461,097	392,191	68,906	
諸謝金	15,541,517	15,120,607	420,910	
租税公課	145,601	85,409	60,192	
支払負担金	1,254,116	2,890,890	△ 1,636,774	
広告宣伝費	5,000	1,000,000	△ 995,000	
委託費	58,834,167	85,269,861	△ 26,435,694	*調査研究シンボ減
支払手数料	3,831,324	3,496,028	335,296	
支払分担金	1,017,762	1,810,444	△ 792,682	
貸倒損失	229,500	0	229,500	
雑費	74,744	133,333	△ 58,589	

科目	当期 2024年度	前期 2023年度	増減	備考 (増減の主な理由ほか)
管理費	206,645,978	200,973,882	5,672,096	
給料手当	46,827,194	48,514,345	△ 1,687,151	
賞与引当金繰入額	5,257,143	6,075,111	△ 817,968	
臨時雇賃金	1,460,364	1,302,298	158,066	
退職給付費用	1,801,033	2,629,100	△ 828,067	
福利厚生費	13,558,731	13,772,484	△ 213,753	
会議費	4,352,485	2,454,098	1,898,387	
旅費交通費	2,485,626	1,520,666	964,960	
通信運搬費	2,808,490	2,622,074	186,416	
減価償却費	9,105,659	9,158,174	△ 52,515	
消耗品費	2,545,365	2,774,732	△ 229,367	
印刷製本費	625,586	692,176	△ 66,590	
光熱水料費	1,017,758	1,057,577	△ 39,819	
賃借料	28,900,525	28,874,482	26,043	
保険料	99,611	88,403	11,208	
諸謝金	9,703,106	8,456,411	1,246,695	
租税公課	13,729,755	15,741,239	△ 2,011,484	
支払負担金	6,535,348	5,993,526	541,822	
支払助成金	268,000	170,000	98,000	
広告宣伝費	269,600	269,600	0	
委託費	49,423,926	43,359,192	6,064,734	*派遣・システム委託費増
支払手数料	5,002,747	5,180,993	△ 178,246	
貸倒引当金繰入額	220,000	180,440	39,560	
雑費	106,270	86,761	19,509	
経常費用計	652,878,379	663,591,176	△ 10,712,797	
当期経常増減額	△ 9,743,887	3,796,526	△ 13,540,413	
2. 経常外増減の部				
(1) 経常外費用				
固定資産除却損	2	3	△ 1	
経常外費用計	2	3	△ 1	
当期経常外増減額	△ 2	△ 3	1	
当期一般正味財産増減額	△ 9,743,889	3,796,523	△ 13,540,412	
一般正味財産期首残高	1,277,832,101	1,274,035,578	3,796,523	
一般正味財産期末残高	1,268,088,212	1,277,832,101	△ 9,743,889	
Ⅱ 正味財産期末残高	1,268,088,212	1,277,832,101	△ 9,743,889	

付．参考：事業別サマリー（2024年度決算）

グループ	項 目	収益				経費				差額			
		2023決算	2024予算	2024決算	2023決算	2024予算	2023決算	2024決算	2023決算	2024予算	2023決算	2024予算	2024決算
グループ1	会誌・学術刊行物	113,213	114,234	112,219	125,510	128,836	121,018	121,018	-12,297	-14,602	-8,799	-14,602	-8,799
	会誌理事	17,269	17,529	15,734	35,857	41,147	36,244	36,244	-18,588	-23,618	-20,510	-37,766	-34,505
副会長	会誌発送経費				15,044	14,148	13,995	13,995	-15,044	-14,148	-13,995		
	論文理事	51,893	53,963	56,236	36,247	35,653	34,187	34,187	15,646	18,310	22,049		
	トランザクション	15,232	14,716	11,881	9,834	10,427	8,354	8,354	5,398	4,289	3,527		
	出版・電子出版等	28,819	28,026	28,368	25,640	25,246	26,084	26,084	3,179	2,780	2,284	23,164	25,706
	出版・歴史	0	0	0	2,888	2,215	2,154	2,154	-2,888	-2,215	-2,154		

グループ2	項 目	2023決算	2024予算	2024決算	2023決算	2024予算	2023決算	2024決算	2023決算	2024予算	2023決算	2024予算	2024決算
		253,658	204,676	218,863	236,022	210,601	213,031	213,031	17,636	-5,925	17,636	-5,925	5,832
副会長	調査研究・人材育成・学術講習会・国際	39,947	35,211	38,533	39,709	39,608	39,879	39,879	238	-4,397			
	調査委員会	0	0	0	1,518	2,241	2,017	2,017	-1,518	-2,241			
	シンポジウム等 ※奇数年MIRU幹事	130,129	89,896	99,216	114,980	81,317	91,115	91,115	15,149	8,579	15,327	655	6,024
	国際活動	2,397	550	2,129	939	1,836	843	843	1,458	-1,286			
	教育活動	2,671	502	951	3,884	2,957	2,585	2,585	-1,213	-2,455			
	教育活動-受託分	5,911	3,320	2,153	3,031	2,974	2,770	2,770	2,880	346	498	-4,076	-3,508
	資格認定	2,157	3,487	3,413	3,326	5,454	4,670	4,670	-1,169	-1,967			
	全国大会	34,571	33,120	36,467	30,206	32,994	28,916	28,916	4,365	126			
	F I T	23,760	25,819	25,963	21,926	25,782	24,049	24,049	1,834	37	5,839	259	9,014
	プロシン	2,930	2,538	2,737	3,290	2,442	3,188	3,188	-360	96			
	セミナー	8,963	9,903	7,120	10,068	9,894	9,894	9,894	-1,105	9	-4,030	-2,763	-5,769
	技術応用（IT7+5M）	220	330	110	3,145	3,102	3,105	3,105	-2,925	-2,772			
	積立資産利息(調研) 他は2021年度長期積立へ集約	2	0	71	0	0	0	0	2	0	2	0	71

グループ3	項 目	2023決算	2024予算	2024決算	2023決算	2024予算	2023決算	2024決算	2023決算	2024予算	2023決算	2024予算	2024決算
		110,511	122,256	121,273	101,083	121,527	111,954	111,954	9,428	729	9,428	729	9,319
副会長	標準化	110,511	122,256	121,273	101,083	121,527	111,954	111,954	9,428	729	9,428	729	9,319

グループ4	項 目	2023決算	2024予算	2024決算	2023決算	2024予算	2023決算	2024決算	2023決算	2024予算	2023決算	2024予算	2024決算
		190,005	190,867	190,781	200,975	222,083	206,877	206,877	-10,970	-31,216	-10,970	-31,216	-16,096
副会長	総務理事	182,397	180,960	181,090	10,589	10,659	10,381	10,381	171,808	170,301			
	財務理事	5,005	7,227	6,590	18,969	28,314	21,570	21,570	-13,964	-21,087			
	長期理事	5	15	219	15,761	15,070	13,940	13,940	-15,756	-15,055	-10,970	-31,216	-16,096
	企画理事	2,598	2,665	2,882	155,656	168,040	160,986	160,986	-153,058	-165,375			

合計	667,387	632,033	643,136	663,590	683,047	652,880	652,880	652,880	3,797	-51,014	3,797	-51,014	-9,744
----	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	-------	---------	-------	---------	--------

本部合計	556,876	509,777	521,863	562,507	561,520	540,926	540,926	540,926	-5,631	-51,743	-5,631	-51,743	-19,063
------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	--------	---------	--------	---------	---------

3. 財務諸表に対する注記

3-1. 重要な会計方針

(1) 棚卸資産の評価基準および評価方法

棚卸資産の評価基準および評価方法は、先入先出法による原価法によります。

(2) 固定資産の減価償却の方法

固定資産の減価償却は、法人税法で定める定額法によります。なお、取得価額が30万円未満のものについては費用処理しています。

(3) 引当金の計上基準

- 退職給付引当金は、職員に対する退職給与の支給に備えるため、自己都合による期末要支給額を計上しています。
- 賞与引当金は、職員に支給する賞与の支出に充当するため、支給見込額を計上しています。
- 貸倒引当金は、債権の貸倒れによる損失に備えるため、貸倒実績率法により計上しています。

引当金の明細は、次の通りです。

科目	期首残高	当期増加額	当期減少額		期末残高
			目的使用	その他	
退職給付引当金	87,502,860	2,725,783	18,297,544	0	71,931,099
賞与引当金	20,100,000	19,000,000	20,100,000	0	19,000,000
貸倒引当金	190,000	220,000	190,000	0	220,000

(4) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税込方式によっています。

3-2. 特定資産の増減額およびその残高

特定資産の増減額およびその残高は次の通りです。

科目	期首残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
特定資産				
退職給付引当資産	87,502,860	2,725,783	18,297,544	71,931,099
学会長期運営積立資産	355,688,726	695,223	5,473,377	350,910,572
山下記念研究賞積立資産	2,732,976	1,001,492	1,068,887	2,665,581
調査研究積立資産	198,629,297	5,220,631	10,522	203,839,406
音楽情報科学積立資産	892,275	487	165,073	727,689
規格国際会議開催積立資産	56,709,342	6,260	956	56,714,646
規格国際会議派遣積立資産	66,919,173	1,339	204	66,920,308
規格電子化積立資産	31,227,096	3,188	486	31,229,798
規格長期運営積立資産	58,067,220	14,515	2,221	58,079,514
合 計	858,368,965	9,668,918	25,019,270	843,018,613

3-3. 特定資産の財源等の内訳

特定資産の財源等の内訳は次の通りです。

科目	当期末残高	(うち指定正味財産 からの充当額)	(うち一般正味財産 からの充当額)	(うち負債に 対応する額)
特定資産				
退職給付引当資産	71,931,099	—	—	(71,931,099)
学会長期運営積立資産	350,910,572	—	(350,910,572)	—
山下記念研究賞積立資産	2,665,581	—	(2,665,581)	—
調査研究積立資産	203,839,406	—	(203,839,406)	—
音楽情報科学積立資産	727,689	—	(727,689)	—
規格国際会議開催積立資産	56,714,646	—	(56,714,646)	—
規格国際会議派遣積立資産	66,920,308	—	(66,920,308)	—
規格電子化積立資産	31,229,798	—	(31,229,798)	—
規格長期運営積立資産	58,079,514	—	(58,079,514)	—
合 計	843,018,613	—	(771,087,514)	(71,931,099)

3-4. 補助金等の内訳ならびに交付者、当期の増減額および残高

補助金等の内訳ならびに交付者、当期の増減額および残高は、次の通りです。

補助金等の名称	交付者	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高	貸借対照表上の記載区分
国・地方公共団体・民間 補助金・助成金						
コンベンション誘致助成金 (FIT2024)	公財) 広島観光コンベンションビューロー	0	3,000,000	3,000,000	0	
大規模会議におけるシャトルバス等の運行助成(FIT2024)	公財) 広島観光コンベンションビューロー	0	300,000	300,000	0	
コンベンション等支援事業助成金 (SWoPP2024)	一財) 徳島県観光協会	0	900,000	900,000	0	
コンベンション開催支援補助金 (情報教育シンポジウム)	一社) 宇都宮観光コンベンション協会	0	17,000	17,000	0	
国内会議等補助金 (CSS2024)	一財) 神戸観光局	0	1,050,000	1,050,000	0	
コンベンション誘致促進助成金 (DPS/CSEC研究発表会)	公財) 前橋観光コンベンション協会	0	99,454	99,454	0	
通信・放送・インターネット等による講習開発支援事業 (2023年度高等学校情報科教員研修)	文部科学省 総合通信政策局	1,438,257	0	1,438,257	0	
講演会助成金 (東海支部講演会)	IEEE Nagoya Section	0	40,000	40,000	0	
MICE開催補助金 (第77回電気・情報関係学会九州支部連合大会)	公財) 鹿児島観光コンベンション協会	0	205,000	205,000	0	
火の国情報シンポジウム補助金 (九州支部火の国シンポジウム)	IEEE CAS Society福岡チャプター	0	50,000	50,000	0	
コンベンション開催支援補助金 (ISO/IEC SC25総会)	一財) 山形コンベンションビューロー	0	100,000	100,000	0	
合 計		1,438,257	5,761,454	7,199,711	0	

※注) いずれも当該事業年度内に目的たる支出は完了しています。

4. 附属明細書

4-1. 特定資産の明細

「公益法人会計基準」の運用指針(平成20年4月11日 平成21年10月16日改正 内閣府公益認定等委員会)に定める附属明細書の記載上の留意事項に従い、財務諸表の注記2および3に記載しているので、内容の記載を省略します。

4-2. 引当金の明細

「公益法人会計基準」の運用指針(平成20年4月11日 平成21年10月16日改正 内閣府公益認定等委員会)に定める附属明細書の記載上の留意事項に従い、財務諸表の注記1(3)に記載しているので、内容の記載を省略します。

以上

5. 財産目録

2025年3月31日現在

(単位：円)

貸借対照表科目	場所・物量等	使用目的等	金額
(流動資産)			
現金預金	手元保管	運転資金	345,314
	三菱UFJ銀行 本店	同上	421,048,570
	みずほ銀行 虎ノ門支店	同上	51,421,403
	三井住友銀行 三田通支店	同上	19,942,545
	三井住友銀行 本店	同上	3,461,448
	ゆうちょ銀行 019店(本部)	同上	42,721,322
	ゆうちょ銀行 008店	同上	2,488,249
未収会費	会費等に関する未収額	法人会計の未収分	5,825,760
未収金	参加費等に関する未収額	調査研究事業の未収分	5,204,471
	教育関連イベント等に関する未収額	人材育成事業の未収分	928,312
	参加費、広告等に関する未収額	学術講習会事業の未収分	10,072,380
	頒布、購読、広告他に関する未収額	会誌事業の未収分	988,520
	頒布、掲載、購読に関する未収額	学術刊行物の未収分	5,840,808
	受託に関する未収額	標準化事業の未収分	2,105,000
	支部分担金等に関する未収額	法人会計の未収分	81,033
前払金	次年度事務所家賃等の前払い	実施事業および法人の管理運営業務に関連した前払分	2,192,976
	次年度職員福利厚生費/包括保険等の前払い	職員福利厚生費/包括保険等の前払い分	925,970
	関連団体年会費等の前払い	法人の管理運営業務の前払分	3,165,073
	次年度シンポ、年間サーバ利用料の前払い	調査研究事業の前払分	4,533,146
	次年度開催イベント関連経費の前払い	学術講習会事業の前払分	307,465
支部仮払金	支部小口現金および関西支部への仮払分	学術講習会事業の仮払分	1,810,979
貸倒引当金	短期債権の貸倒れによる損失対応額	各実施事業に関連した引当金(貸倒実績率法)	△220,000
商品	頒布用バックナンバーの図書相当額	学術刊行物事業の保有分(先入先出法による原価法)	1,332,693
貯蔵品	封筒、手提げ袋、ノベルティ消耗品相当額	各実施事業の保有分(先入先出法による原価法)	699,997
流動資産 合計			587,223,434
(固定資産)			
特定資産			
退職給付引当資産	三井住友銀行 三田通支店(普通・定期預金)	実施事業と法人の管理運営業務に関連した退職給付引当金に対応する積立資産	71,931,099
学会長期運営積立資産	三菱UFJ銀行 本店(普通)	本会活動の長期運営基盤強化および各種事業活性化施策	181,839,021
	みずほ銀行 虎ノ門支店(普通)	本会活動の長期運営基盤強化および各種事業活性化施策	169,071,551
山下記念研究賞積立資産	みずほ銀行 虎ノ門支店(普通預金)	調査研究事業の積立資産	2,665,581
調査研究積立資産	三井住友銀行 三田通支店(普通・定期預金)	調査研究事業の積立資産	203,839,406
音楽情報科学積立資産	みずほ銀行 虎ノ門支店(普通・定期預金)	調査研究事業の積立資産	727,689
規格国際会議開催積立資産	三菱UFJ銀行 本店(定期預金)	標準化事業の積立資産	56,714,646
規格国際会議派遣積立資産	三井住友銀行 本店(定期預金)	標準化事業の積立資産	66,920,308
規格電子化積立資産	みずほ銀行 虎ノ門支店(定期預金)	標準化事業の積立資産	31,229,798
規格長期運営積立資産	三菱UFJ銀行 本店(定期預金)	標準化事業の積立資産	58,079,514
その他固定資産			
建物付属設備	建物付属設備、本部関連設備	法人の管理運営業務で使用する備品	2,759,900
什器備品	PC、サーバ、書庫ほか、本部関連設備	法人の管理運営業務で使用する備品	14,605,806
	PC、サーバ、書庫ほか、規格関連設備	標準化活動事業で使用する備品	2,678,438
リース資産	コピー機、本部	法人の管理運営業務で使用するリース資産	9,042,000
ソフトウェア	会員管理システム、経理システム、選挙システムほか	法人の管理運営業務のシステム	53,837,045
	研究会受付システム	調査研究事業で使用するシステム	4,902,000
	認定情報技術者管理システム	人材育成事業で使用するシステム	745,800
	出版歴史CMSソフト	学術刊行物事業で使用するシステム	3,150,000
	規格投票プログラム、Webページ関連ほか	標準化事業で使用するシステム	4,837,485
減価償却累計額	什器備品・ソフトウェアの減価償却累計額(定額法)	実施事業と法人の管理運営業務に関連した左記累計額	△67,089,922
敷金	事務室借室 化学会館/機振会館/CIRCLES神田小川町	法人の管理運営に供している資産	29,178,844
固定資産 合計			901,666,009
資産 合計			1,488,889,443
(流動負債)			
未払金	研究会・シンポジウム開催に関する未払経費	調査研究事業の未払分	2,030,518
	JST-stella達人等に関する未払経費	人材育成事業の未払分	396,260
	全国大会に関する未払経費	学術講習会事業の未払分	381,073
	会誌刊行、大会関連イベントに関する未払経費	会誌事業の未払分	1,441,926
	学術刊行物の刊行に関する未払経費	学術刊行物事業の未払分	231,868
	標準化業務に関する未払経費	標準化事業の左記未払分	921,695
	社会保険料等の未払経費	実施事業と法人の管理運営業務に関連した未払分	4,889,824
	法人の管理運営に関する未払経費	法人の管理運営業務の未払分	5,551,208
未払消費税等	未払消費税等	実施事業と法人の管理運営業務に関連した未払分	1,787,000
未払法人税等	未払法人税等	法人税法上の実施事業に関連した未払分	70,000

前受金	次年度研究会登録費ほか受入額	調査研究事業の前受分	12,647,806
	次年度教育受託受入額	人材育成事業の前受分	880,000
	次年度会誌購読料受入額	会誌事業の前受分	382,800
	次年度論文誌等購読料受入額	学術刊行物事業の前受分	10,522,920
	次年度規格賛助員費受入額	標準化事業の前受分	3,400,000
	次年度会費・入会金受入額	法人の管理運営業務に関連した前受分	75,044,320
預り金	源泉所得税等預り金	実施事業と法人の管理運営業務に関連した預り分	1,499,512
仮受金	誤入金、未清算金等仮受金	実施事業と法人の管理運営業務に関連した仮受分	1,914,102
1年以内返済リース債務			1,808,400
賞与引当金	2025年6月の職員賞与支給に関する引当金	実施事業と法人の管理運営業務に関連した引当金	19,000,000
流動負債 合計			144,801,232
(固定負債)			
リース債務			4,068,900
退職給付引当金	2025年3月末日における自己都合による期末要支給額	各実施事業と法人の管理運営業務に関連した引当金（簡便法）	71,931,099
固定負債 合計			75,999,999
負債 合計			220,801,231
正味財産			1,268,088,212

[第 1 号議案]

1-3. 2024 年度監査報告書

監査報告書

2025 年 5 月 20 日

一般社団法人 情報処理学会

会 長 森本 典繁 殿

一般社団法人 情報処理学会

監 事 中野 美由紀



監 事 長谷川 輝之



私たち監事は、2024 年 4 月 1 日から 2025 年 3 月 31 日までの 2024 年度事業年度における事業報告、計算書類、これらの附属明細書その他理事の職務の執行を監査いたしました。その方法及び結果について、次のとおり報告いたします。

1. 監査の方法及びその内容

各監事は、理事及び使用人等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、理事会その他重要な会議に出席し、理事及び使用人等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、業務及び財産の状況を調査いたしました。以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告及びその附属明細書について検討いたしました。

さらに会計帳簿又はこれに関する資料の調査を行い、当該事業年度に係る計算書類（貸借対照表及び正味財産増減計算書）及びその附属明細書並びに財産目録について検討いたしました。

2. 監査意見

- (1) 事業報告及びその附属明細書は、法令及び定款に従い、法人の状況を正しく示しているものと認めます。
- (2) 理事の職務の執行に関する不正の行為又は法令もしくは定款に違反する重大な事実は認められません。
- (3) 計算書類及びその附属明細書並びに財産目録は、法人の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に示しているものと認めます。
- (4) あすなる監査法人の監査の方法および結果は正当であると認めます。

以上

独立監査人の監査報告書

2025 年 5 月 20 日

一般社団法人 情報処理学会

会長 森本 典繁 殿

あすなろ監査法人

東京都世田谷区

代 表 社 員

業 務 執 行 社 員

公認会計士

中島 義典

監査意見

当監査法人は、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第 124 条第 2 項第 1 号の規定に基づく監査に準じて、一般社団法人情報処理学会の 2024 年 4 月 1 日から 2025 年 3 月 31 日までの 2024 年度の貸借対照表、損益計算書（公益法人会計基準に基づく「正味財産増減計算書」をいう。）及び財務諸表に対する注記並びに附属明細書（以下「財務諸表等」という。）について監査を行った。

当監査法人は、上記の財務諸表等が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠して、当該財務諸表等に係る期間の財産及び損益（正味財産増減）の状況を、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「財務諸表等の監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、法人から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

その他の記載内容

その他の記載内容は、事業報告及びその附属明細書である。理事者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。また、監事の責任は、その他の記載内容の報告プロセスの整備及び運用における理事の職務の執行を監視することにある。

当監査法人の財務諸表等に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、当監査法人はその他の記載内容に対して意見を表明するものではない。

財務諸表等の監査における当監査法人の責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と財務諸表等又は当監査法人が監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうか検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうか注意を払うことにある。

当監査法人は、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告することが求められている。

その他の記載内容に関して、当監査法人が報告すべき事項はない。

財務諸表等に対する理事者及び監事の責任

理事者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠して財務諸表等を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表等を作成し適正に表示するために理事者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

財務諸表等を作成するに当たり、理事者は、継続組織の前提に基づき財務諸表等を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に基づいて継続組織に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監事の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における理事の職務の執行を監視することにある。

財務諸表等の監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての財務諸表等に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から財務諸表等に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、財務諸表等の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 財務諸表等の監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 理事者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに理事者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 理事者が継続組織を前提として財務諸表等を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続組織の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続組織の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において財務諸表等の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する財務諸表等の注記事項が適切でない場合は、財務諸表等に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、法人は継続組織として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 財務諸表等の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた財務諸表等の表示、構成及び内容、並びに財務諸表等が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、監事に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

利害関係

法人と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

[第2号議案]

2. 新名誉会員の推薦

新名誉会員の推薦

第 682 回理事会（2025 年 1 月 28 日開催）の議を経て、定款第 5 条 1 項 2 号および名誉会員候補者推薦基準にもとづき、下記の方を新名誉会員に推薦することとしたい（順不同，敬称略）。

記

Sorel Reisman

[第3号議案]

3. 一部役員の任期満了による 新役員の選任

一部役員の任期満了による新役員の選任

定款第 27 条により、一部役員が本定時総会の終結と同時に任期満了退任となるので、2025 年 3 月に行われた役員選挙を踏まえ、下記の候補者をそれぞれ選任することとしたい。（参考：選挙投票率：★22.8%）

記

理事：萩谷 昌己
 理事：高橋 克巳
 理事：赤澤 紀子
 理事：荒川 豊
 理事：河合由起子
 理事：河合 和哉（再任）
 理事：斎藤 彰宏
 理事：菅沼 拓夫
 理事：寺岡 秀敏
 理事：長谷川 亘（再任）
 理事：森 信一郎
 理事：矢野由紀子
 理事：山口 弘純
 監事：中山 泰一

注）代表理事および業務執行理事は、本総会直後に開催の新体制理事会において選定。

（参考）

留任役員	退任役員
代表理事（副会長）： 砂原 秀樹	代表理事（会 長）： 森本 典繁 代表理事（副会長）： 田島 玲
業務執行理事： 稲見 昌彦、大場みち子、緒方 広明、 鎌田真由美、岸 知二、木村 朝子、 高岡 詠子、千葉 直子、塚本 昌彦、 寺田 努、遠山紗矢香、山下 直美	業務執行理事： 井上美智子、小野 智弘、河合 和哉、 斎藤 典明、櫻井 祐子、首藤 一幸、 田村 孝之、中山 泰一、長谷川 亘、 湊 真一、吉濱佐知子
監 事： 長谷川輝之	監 事： 中野美由紀

[第 1 号報告]

1-1. 2025 年度事業計画書

1. 概況：重点活動
2. 会員の異動予想
3. 会議等に関する事項
4. 実施事業 1：調査研究活動（定款第 4 条 1 項 1 号および 2 号）
5. 実施事業 2：人材育成（定款第 4 条 1 項 4 号）
6. 実施事業 3：学術講習会の開催（定款第 4 条 1 項 1 号および 2 号）
7. 実施事業 4：会誌の刊行（定款第 4 条 1 項 1 号および 2 号）
8. 実施事業 5：論文誌・学術図書等の刊行（定款第 4 条 1 項 1 号および 2 号）
9. 実施事業 6：標準化活動（定款第 4 条 1 項 3 号）
10. 実施事業 7：国際活動（定款第 4 条 1 項 5 号および 2 号）
11. その他：関連学協会との連絡および協力（定款 4 条 1 項 6 号）
12. 法人運営

2025 年度 事業計画書

1. 概況および重点活動

2022 年の衝撃的な ChatGPT の公開からはや 3 年目となる 2025 年、世界は大きな変化を迎えようとしている。世界情勢は引き続き不安定かつ不確定要素を大きく抱え、活用が進む生成 AI については世界中で規制と促進との両面について、多くの決断を求められている。

日本については、新型コロナウイルス感染症の 5 類引き下げ後にコロナ禍以前の復帰へ舵を切り戻した企業と引き続きオンデマンドな働き方を推進する企業、両者を取り入れたハイブリッドな働き方で模索する企業が見られる状況である。とはいえ、多くの企業ではコロナ禍中に取り入れた会議・イベントのオンライン化や、ワークロード削減を目的としたクラウド上の業務アプリの活用などが定着し、ゆっくりではあるが着実に情報処理技術はビジネス基盤として定着していると言ってよい。そのような社会的な情報処理技術の浸透状況とともに、2025 年より実施された大学入学共通テスト「情報」については、多くの大学に加えて初等・中等教育の基盤にも影響が及ぶものであり、本会に期待されるものも大きい。

このような環境の中で、現在および未来にわたる社会課題解決や社会経済活動を支える基盤としての情報処理技術は、これまで以上に社会の広範囲で重要度を増してきている。そのため、情報処理分野での指導的役割を担う立場として本会の果たすべき役割はますます拡大しており、社会と文化の発展に寄与するためのより長期的視点に基づいた事業の推進が求められている。

それらの社会的役割を果たすため、本会では、2020 年の本会創立 60 周年記念において学会宣言“More local and more diverse for global values”を提唱し、その実現に向けた具体的目標として、①広く新しい情報処理ユーザーへの学会活動の訴求、②広く新しい情報処理ユーザーへの新しいサービスの提供、③自らが運営しやすい学会の情報システムと業務プロセスの整備、の 3 つを柱とする 5 ヶ年の中期計画を 2021 年度に制定し、2024 年度までに具現化に努めてきた。

2025 年度はその総仕上げの期間として、2024 年度までの結果を踏まえて継続すべき企画や施策への取り組みを明確化し、新価値創造ならびに価値の継続的な向上に繋げていくために、自己評価を怠らず下記に示す重点活動項目の活動を通じて本会が社会に提供する価値拡大に寄与する。

1.1 学会運営体制の充実および財政基盤の強化

急激に変化する社会環境の中で、学会を安定的に運営しつつ、これを発展させるためには、学会として中核的な活動は大切にしつつ、各種活動を効率化するためのオンラインの活用や業務の DX 化の更なる強化に取り組む。社会環境の変化に対応した学会の新たなミッションを定義・発信するだけでなく、情報処理分野により社会の変革を先導する学会であるための運営体制が必要である。このため、下記の施策を実施する。

- ① 経営企画委員会、広報広聴戦略委員会が連携し、本学会のビジョンおよび社会的意義を発信することともに、国や地域への政策提言等を通し、情報処理分野による社会の変革を先導する。
- ② 学会価値の向上による会員増と財政基盤の強化に取組み、更なる会員数の増加を目指す。
- ③ 長期戦略理事を中心に、各事業の健全な継続性に向けて前年度整理をした各事業の課題について、その解決方法について投資を含めた検討を進めていく。
- ④ ジュニア会員獲得の施策として、2024 年度に引き続き、小中高校教員および教員のうち教育行政職へ出向している者を対象とした「小中高校教員支援プログラム」を初等中等教育委員会が中心となって推進し、ジュニア会員制度の定着・活用および、さらなる会員数の増加を図る。
- ⑤ 第三者機関であるアドバイザリーボードからの提言を適宜諸事業へ反映する。
- ⑥ 公平な社会の促進を宣言したダイバーシティ宣言や、改訂・公開された倫理綱領について、さらなる

普及を目指して Info-Workplace 委員会はダイバーシティ委員会と改称、他の委員会との連携、他団体との合同推進活動や他団体サポート活動などを推進する。

- ⑦ 去る 2020 年 11 月に公表した「60 周年宣言」に基づき 2021 年度に策定した「中期計画」を推進するとともに、本会各種活動の「データドリブンな意思決定」に向け策定した「本会主要アクティビティ」は、その名称を「学会主要活動指標」として理事会レベルで共有し活動の活性化に繋げていく。
- ⑧ 中長期視点からの持続的な経費削減ならびに事務局職員の働き方の実態に合わせたオフィスの最適化を目的として、2025 年度内の実施を目指し本会事務局本部の移転計画を進める。
- ⑨ 日本 IT 団体連盟（IT 連）とそれぞれの委員会にメンバを出し合い、新たなイベント、サービスを検討し、より多くの IT エンジニアへのサービス提供を目指す。

1.2 IT エンジニア向け活動の強化

従来からの認定技術者制度、各種セミナー、イベントや IT フォーラム活動の実施、各種団体、企業との連携による活動推進に加え、相互理事制を取り関係を強化した日本 IT 団体連盟（IT 連）との連携を活用し、活動内容の見直しや新しい企画立案を推進する。

- ① 日本 IT 団体連盟（IT 連）のメンバを IT 産業界アドバイザーとして技術応用委員会に招聘し、連携を強化する。より広範囲な IT エンジニアに寄与し得るセミナー、イベント、資格制度とする検討を開始し、IT 連加盟団体会員へのサービス機会の拡大を目指す。
- ② 認定情報技術者（Certified IT Professional：略称 CIP）制度については、CIP の再成長のための取組として「DX 人材に対する資格拡充」の検討を引き続き進める。関係機関との協力体制の構築に努め、ワーキンググループを設けて制度設計に着手する。また、広報に関する取り組みとしては、引き続き IT 技術者を対象とした本会の他事業と連携してプロモーション活動を企画・実施する。
- ③ デジタルプラクティス、連続セミナー・短期集中セミナー、IT フォーラムなどの相互連携活動により、IT エンジニアの育成に貢献するとともに、会員増、収入増を図る。
- ④ 日本 IT 団体連盟（IT 連）、全国地域情報産業団体連合会（ANIA）、情報処理推進機構（IPA）、情報サービス産業協会（JISA）、日本情報システム・ユーザー協会（JUAS）、電子情報技術産業協会（JEITA）、科学技術振興機構（JST）、先端 IT 活用推進コンソーシアム（AITC）、インターネット協会（IAJ）、情報通信技術委員（TTC）、日本データ通信協会（JADAC）、日本規格協会（JSA）、モバイルコンピューティング推進コンソーシアム（MCPC）、IT スキル研究フォーラム（iSRF）、iCD 協会、日本情報技術取引所（JIET）、学びのイノベーション・プラットフォーム（PLIJ）などの IT エンジニアを対象とする団体や企業との連携をさらに深め、共同イベントの開催などを推進して、会員増に貢献する。

1.3 学生・若手研究者育成の活動推進

初等中等教育を含む情報教育プログラムの推進、今後の情報教育のグランドデザインの検討を推進していく。

- ① 2025 年実施の大学入学共通テスト「情報」の出題を受け、今後一層多くの大学の入試における「情報」の出題の実現に向けた活動を行う。また国公立大学の個別入試においても「情報」の出題が一層活性化することを期待し、情報教育の推進に全面的に協力する。また、2022 年度から始まった学習指導要領の高校教科「情報Ⅰ」「情報Ⅱ」に関する教員研修に対し、講師の派遣や文科省の全国教員研究プラットフォーム（Plant）を通じた研修の提供、オープン教材 IPSJ-M00C の提供を行っていく。また、小中高校教員および教員のうち教育行政職へ出向している者を対象とした「小中高校教員支援プログラム」を新たな制度として実施する。更に、次期学習指導要領に向けた研究・調査を行う。
- ② 国立情報学研究所と協力してグローバルサイエンスキャンパス「情報科学の達人」の後継となる「JST 次世代科学技術チャレンジプログラム」の共同開催を継続する。
- ③ 教育理事を中心とする「ジュニア会員活性化委員会」およびその後継事業において、小中高校生、高専生、大学学部生の一部を対象とする会費無料の「ジュニア会員制度」を活用し、学生・生徒の育成

を支援するとともに、ジュニア会員期間終了以降における有料学生会員への移行・学会活動の継続を促進する。若い IT 人材を育成し日本の将来の成長に資する。

- ④ 研究会や支部などの協力も得て、学生や若手研究者、ジュニア会員のためのイベントを企画開催する。
- ⑤ 若手研究者が招待講演を経験することで研究実績につながることをねらい、各研究会が主催している研究発表会・シンポジウムにおいて、若手研究者に招待講演を依頼する際に、講演者に支払う謝金を学会が支援する「若手研究者招待講演謝金補助」事業を進める。
- ⑥ 中高生情報学研究コンテストについては、2023 年度に開始したブロック大会を支部とともに継続して実施、各専門分野の審査を担当可能な審査員の拡充に努める。開催形式について改善すべき点があれば改善して行く。
- ⑦ DX ハイスクール施策（文科省）に協力して、支部とともに情報教育のための人材支援を行う。

1.4 会員サービスと広報広聴活動の充実

会員サービスと満足度の向上および広報宣伝の充実を図るため、広報広聴戦略委員会が中心となって「広報」と「広聴」を戦略的に推進し、魅力ある学会作りを進めていく。

- ① 2023年度に立ち上げた9つのワーキンググループ（ウェビナー/SNS/Web/メール/ガイドライン/学生交流向け/産業界向け/情処ラジオ/ノベルティ）は、特に関連性が強いSNS/Web/メール/情処ラジオ/ノベルティを集約し、4つのワーキンググループ（ウェビナー/学生交流向け/産業界向け/情報発信）に再編成し活動を推進する。ガイドラインは、広報広聴戦略委員会にて必要に応じた改訂等の対応を進めていく。
- ② 学会のセミナー・イベント、委員会など各種活動をオンライン開催、現地開催、ハイブリッド開催など最適な形態での開催を推進する。
- ③ オンライン刊行物の新しいビジネスモデルの推進、ビデオを中心とした IPSJ-YouTube や JM00C 等を活用したサービス提供形態の検討を推進する。
- ④ 小中高教員および教員のうち教育行政職へ出向している者のための新規入会および会費割引キャンペーンの過去 5 年間の検証をもとに、新たな「小中高校教員支援プログラム」を開始し、効果検証を行う。
- ⑤ 会員・非会員の活動傾向等を分析し、目的に合わせたステップメール、セグメントメール、リアル施策による各種交流会等を通じて、入会促進、退会防止活動を推進する。
- ⑥ 2024 年度にリニューアルした Web サイトの FAQ を随時使い易いものにアップデートしていく。
- ⑦ 2024年度に検討した「会員サービスの差別化」に着目した「入会に結びつけるための広報戦略」の検討を継続する。

1.5 情報システム・DXの推進

情報システム・DX委員会が主体となり、学会情報システムの見直しに加え、事務局業務のBCP/DX化を推進し、ニューノーマル時代に対応したデジタル化を目指す。

- ① 電子図書館については2024年に新システムWeko3 に移行した情報学広場の安定稼働に努める。また、クレジットカード決済の 3Dセキュア対応を実施する。
- ② 学会 Web サイトやメールサーバなどの本部情報システムについて、学会の DX 活動、広報広聴マーケティング活動と連動した改善項目を抽出・精査し、今後のコンテンツ充実やシステム改善に向けた検討を行う。
- ③ Web施策関連のメール配信に関しては開封率、URLクリック率の調査および効果検証を行っていく。同時にセグメント切り分け方法やコンテンツの継続的な見直しの実施を検討する。
- ④ BCP 対応およびセキュリティ対策としてサーバ類の冗長化ならびにオンプレミス・サーバのクラウド化、オフィス LAN へのリモートアクセス化を実施する。

1.6 調査研究・学術講習・会誌・論文活動の継続推進

ニューノーマル時代での学会誌・研究論文の在り方を継続検討していく。学会誌はオンライン記事の強化を行うとともに、好評だった過去の特集などのオンライン化を推進する。論文誌については、オープンアクセス時代に向けた在り方について継続検討していく。

- ① IT を活用した効果的な研究会活動を推進する。特に各種オンラインツールを利用した新しい研究会やシンポジウムのよりよい開催方式(オンライン開催、ハイブリッド開催を含む)や、調査研究活動の財政面での最適化等を検討する。
- ② 各種オンラインツールを利用した全国大会、FIT、セミナーなど各種イベントの最適な開催方式(ハイブリッド・現地・オンライン開催)を財務面も含めて推進する。
- ③ 会誌は、オンライン特集記事や、「note」の定着化とともに、会誌ウェビナーや記事のビデオ化をはじめとした会員に有益な情報を届けるための方策を検討する。

1.7 グローバル化の推進

研究会活動を中心に、国際会議を積極的に主催、共催し活動の活性化を図るとともに、海外学協会とのニューノーマル時代の新たな連携を推進する。

- ① IEEE や ACM 等のグローバルトップの国際学会活動を参考にして、学会のグローバル運営戦略を検討し、これを実施する。また、Joint Award の継続、浸透を図る。
- ② アジアの関連学会である中国 CCF (China Computer Federation)、韓国 KIISE (The Korean Institute of Information Scientists and Engineers) と中長期的な CJK 連携の強化活動を加速し、国際会議の合同開催等を継続する。
- ③ SC44 (Consumer protection in the field of privacy by design) の国内審議体制の構築を進める。また JTC 1 の運営・方向性を議論する直属の AG、AHG についても、優先度を見極めながら対応していく。
- ④ 2023 年度の第 86 回全国大会で中国 CCF より提案された APAC (Asia-Pacific Alliance for Computing) の創設について、本会として参画するスタンスで対応を進めていく。

2. 会員数について

下記の取り組みを実施し、会員数の増加を目指す。

2.1 新規会員の獲得と会員減の防止

- ① 広報広聴マーケティング関係として、前年度に試行した施策を継続推進する。
- ② 各活動において学会の価値向上に取り組み、かつ適宜理事会レベルで共有した「学会主要活動指標」を振り返り新規会員の獲得、各種実施事業の活性化に努める。
- ③ 会員・非会員の活動傾向等を分析し、目的に合わせたステップメール、セグメントメール、リアル施策による各種交流会等を通じて、入会促進、退会防止活動を推進する。
- ④ 会費の未払いに対する事前通知など、会費滞納に伴う会員資格の喪失を防止するよう努める。
- ⑤ 外部 IT 団体との連携推進により、産業界に属する会員への学会価値向上に向けた検討を進める。
- ⑥ 非会員も含めたマイページのアクセス率向上を推進する。

2.2 小中高校教員、学生会員ならびにジュニア会員の獲得と育成

- ① ジュニア会員活性化委員会後継事業を中心にジュニア会員制度を通じて若年層に学会活動を広く周知し、学生会員の獲得を促進する。
- ② 学生会員の 1 研究会無料登録を継続し、研究会活動への参画を通じて学生会員の育成に努める。

- ③ 学生会員の新規獲得と正会員への定着率の向上のため、学生から企業若手社員をターゲットとしたコンテンツの拡充によって学会の魅力を向上させる。
- ④ ジュニア会員獲得の施策として、小中高校教員および教員のうち教育行政職へ出向している者を対象とした新たな「小中高校教員支援プログラム」を実施する。
- ⑤ 教育担当理事をはじめ関連担当理事が参画した「ジュニア会員活性化委員会」（2018 年度～2025 年 5 月末 時限委員会）後継事業の在り方について情報処理教育委員会で検討する。

会員種別	会員数		増減数 ①－②	備考：2025 年度の異動内訳				
	①2025 年度末	②2024 年度末		入会		退会		資格 喪失
名誉会員	46	45	1	0 1	新入会 正会員から異動			
正会員	13,736	14,013	-277	520 800 0	学生会員から異動 ジュニアから異動	1,100 1	名誉会員に異動	496
学生会員	3,483	3,295	188	1,870 70	ジュニアから異動	920 800	正会員に異動	32
ジュニア会員	3,551	3,461	90	1,250		1,090 0 70	正会員に異動 学生会員に異動	
個人会員 計	20,816	20,814	2	4,511		3,981		528
賛助会員 (口数)	258 (640)	258 (640)	0 (0)	15 (15)		15 (15)		

*2025 年度期末正会員数には終身会員 914 名を含む。

3. 会議等に関する事項

下記の会議を計画する。遠隔会議システム等を活用し効率的な運用に努める。

3.1 2025 年度通常総会

2025 年 6 月 11 日（水）に、出版クラブ（東京都千代田区）にてハイブリッド（参加型）開催する。

3.2 理事会および各種委員会

理事会および各種委員会はオンライン開催を基本とし、理事会は年度内に 6 回以上開催し、学会活動に関する諸事項を審議する。また、各種委員会は必要に応じて開催し、所轄活動に関する諸事項を審議する。

3.3 アドバイザリーボード

第三者機関であるアドバイザリーボードの助言も得て、引続き学会価値の向上と運営の改善への取り組みを継続する。

3.4 各支部との連携推進

「中高生情報学研究コンテスト」のブロック大会など、学会創立 60 周年宣言の「More local」促進に向けた活動を本部と連携し推進する。

4. 実施事業1：調査研究活動（定款第4条1項1号および2号）

学会のコアの活動として重点的に取組み、関連諸活動とも連携して研究会登録数の減少を食い止めるとともに研究会登録費の改訂により収入増も目指す。具体的には下記の取り組みを推進する。

- ① IT を活用した効果的な研究会活動を推進する。特に各種オンラインツールを利用した新しい研究会やシンポジウムのよりよい開催方式(オンライン開催、ハイブリッド開催を含む)や、調査研究活動の財政面での最適化等を検討する。
- ② 国の政策や方針に関する各研究分野の提言提案活動を推進する。
- ③ 本会として必要なグローバル化のための議論を継続する。国際会議を積極的に主催、共催し財務の健全化に努める。CCF, KIISE との連携を軸に CJK での活動を加速し、国際会議の開催等を継続する。
- ④ 研究会活動の国際化、特に、海外学会との共同シンポジウム、合同ワークショップを積極的に開催し、国際的かつ継続的な“研究コミュニティの形成”を行い、新しい研究、技術の国際的発信を継続的に行う研究活動環境を構築する。
- ⑤ 調査研究運営委員会直下に設置した1つの研究グループを中心に、領域横断的な研究分野に対する研究活動実施体制の深化を含む、研究コミュニティの持続的発展を支える体制構築を促す環境整備を継続して検討・実施する。
- ⑥ 学生・若手に向けた積極的な取り組みにより、将来を担う学生・若手研究者の育成を図る。学生会員の1研究会無料登録制度や学生プログラムコンテスト等、若手研究者の積極性を促すような企画を計画・実施する。
- ⑦ 調査研究積立資産を活用し、個々の研究会活動を超えて、領域単位のプロジェクト、若手表彰、国際化の推進など調査研究全体の活動も積極的に展開する。研究会の収支の透明化を図り、適切な管理費の負担を行う。また、積立資産の有効活用として音楽情報科学研究会のWeb ページリニューアルを行う予定である。
- ⑧ 若手の意見を吸上げ、研究会の動画配信・動画コンテンツを含む研究会資料などの取組を継続して実施する。その他、必要に応じて、研究会組織の見直し、研究発表会への新たな参加方法の検討などを行う。
- ⑨ 若手研究者が招待講演を経験することで研究実績につながることをねらい、各研究会が主催している研究発表会・シンポジウムにおいて、若手研究者に招待講演を依頼する際に、講演者に支払う謝金を学会が支援する「若手研究者招待講演謝金補助」事業を進める。
- ⑩ 情報規格調査会と連携し、標準化活動に積極的に参加する。

4.1 研究発表会

全41研究会、4研究グループ（詳細は p. 82 「付表1」 参照）により、150回程度（前年度153回）の研究発表会を開催する。

4.2 シンポジウム・ワークショップ等

シンポジウム・ワークショップ等については、マルチメディア、分散、協調とモバイル（DICOM02025）シンポジウム、コンピュータセキュリティシンポジウム（CSS2025）やインタラクション2026など計19回の開催を計画する（詳細は p. 83 「付表2」 参照）。

4.3 表彰

優れた研究発表および業績等に対して、山下記念研究賞、業績賞、情報処理技術研究開発賞、マイクロソフト情報学研究賞、IPSJ/ACM Award for Early Career Contributions to Global Research, IPSJ/ IEEE Computer Society Young Computer Researcher Award、若手奨励賞などを贈呈する。

5. 実施事業2：人材育成（定款第4条1項4号）

初等中等教育を含む情報教育、および企業の技術者を対象とした教育プログラムの推進に向けて、以下の施策を実施する。

5.1 情報教育

(1) J17 カリキュラム標準の更新

2017年度に策定したJ17-CS、J17-IS、J17-CE、J17-SE、J17-ITの情報専門学科用カリキュラム標準および、一般情報教育用カリキュラム標準J17-GEについて、データサイエンス（DS）領域を含めて後継となるJ27作成に向けて調査を実施するとともに、カリキュラム策定方針について議論する。この際、コンピテンシーベースでの新しい記述方法の可能性についても検討する。

(2) 初等中等教育での情報教育支援

「会員の力を社会につなげる」研究グループ(SSR)と連携して、初等中等教育現場の情報分野の教員の養成支援、教材開発や出張授業などを通じて、教育現場支援をさらに推進する。また、国の情報教育の方向および内容に関して、関係する学術団体等とも連携して、提言の公表を行うほか、情報教育課程の設計指針の改訂に協力する。更に、NAPROCK（高専プロコン交流育成協会）、ITジュニア育成交流協会等の団体と連携を行う。文科省が推進する「高等学校DX加速化推進事業（DXハイスクール）」に対して、本会として学術的コンサルティングや指導者教育・人材育成などを全面的に支援、推進する。

5.2 アクレディテーション（技術者教育プログラムの認定）

アクレディテーションによる大学・大学院専門教育の質的向上の推進のため、日本技術者教育認定機構（JABEE）委託の認定評価を継続する。関連して、認定校・受審予定校のコミュニティの育成、専門職大学院認証評価などの活動支援を行う。また、JABEEに協力して情報専門系課程教育の品質保証に努め、ソウル協定による国際水準を目指して教育改善を推進する。JABEEへの働きかけを継続し、データサイエンス分野の認定制度の構築を推進する。

5.3 認定情報技術者制度

認定情報技術者（Certified IT Professional：略称 CITP）制度については、引き続き個人認証および企業認定の新規応募者や更新審査を実施する。CITPの再成長のための取組として、「DX人材に対する資格拡充」の検討を引き続き進める。関係機関との協力体制の構築に努め、ワーキンググループを設けて制度設計に着手する。また、広報に関する取り組みとしては、引き続きIT技術者を対象とした本会の他事業（デジタルプラクティス、ITフォーラム、連続セミナー、賛助会員向けイベントなど）と連携してプロモーション活動を企画・実施する。

5.4 情報教育を担う教員のへの支援

現職研修も含めた「新たな教師の学びの姿」の実現のために充実した教員研修支援を継続する。また、高校の情報科教員の養成を支援する。加えて、2022年度から始まった学習指導要領の高校教科「情報Ⅰ」「情報Ⅱ」に関する教員研修に対して、独立行政法人教職員支援機構の全国教員研究プラットフォームPlantを通じた研修の提供、オープン教材IPSJ-MOOCの提供を継続する。また、2024年度まで実施した、小中高校教員および教員のうち教育行政職へ出向している者を対象とした会費割引キャンペーンに引き続き、新たな「小中高校教員支援プログラム」を実施する。

5.5 その他

(1) 教育シンポジウムならびにコンテストの運営・後援等

教育に関するシンポジウムを企画運営するほか、全国大会や FIT を通じて情報発信を行う。特に、高校教科「情報」およびその代替科目を中心とした情報教育の一層の振興をはかるため、高校教科「情報」シンポジウムを開催する。また、一般情報教育の一層の振興をはかるためのシンポジウムを開催する。

(2) 大学入試科目への「情報」導入を拡張するための活動

2025 年実施の大学入学共通テスト「情報」の出題を受け、今後一層多くの大学の入試における「情報」の出題の実現に向けた活動を行う。大学入学共通テスト「情報関係基礎」の問題・正解・自己評価等を情報関係基礎アーカイブに追加するとともに、「情報」の問題・正解・自己評価等についてもアーカイブするための検討を進める。共通テスト「情報関係基礎」や「情報」に関して大学入試センターから依頼があれば、それに対応する。国公私立大学の個別入試においても「情報」の出題が一層活性化することを期待し、情報教育の推進に全面的に協力する。

(3) ジュニア（中高生）世代の活性化をはかる活動

若い世代への本会のプレゼンス向上をめざして、高校生、高専生、大学生等を対象とするコンテストの運営および後援（表彰活動）等を推進する。具体的には、全国大会において中学生、高校生および高専生（3 年生まで）を対象とした中高生情報学研究コンテストを継続実施するとともに、初等中等教員同士が連携を深めるためのイベントを開催することで、教員と連携しながら中高生に対する情報教育の一層の活性化を図る。なお、中高生情報学研究コンテストについては、2023 年度に開始したブロック大会を支部とともに継続して実施、各専門分野の審査を担当可能な審査員の拡充に努める。開催形式について改善すべき点があれば改善して行く。国立情報学研究所と協力してグローバルサイエンスキャンパス「情報科学の達人」の後継となる「次世代科学技術チャレンジプログラム」を通じて、情報分野におけるトップクラスのエリート養成を推進する。情報システムに関連する教育実践の一層の拡充を図るために、情報システム教育コンテストを開催する。高専の情報教育を一層推進するために、全国高専プログラミングコンテストの運営に協力する。ジュニア会員活性化委員会およびその後継事業により、ジュニア世代の情報学分野での活動支援をさらに推進する。また、情報系学部への女子進学率を増やすための取り組みを推進する。

(4) 情報学分野に隣接する領域の教育への協力

J17 カリキュラム標準の改訂に合わせて、データサイエンス・AI 領域のカリキュラム策定方針について議論する。また、この策定に向けて、各種情報を収集する。

(5) 情報教育の国際化への活動

ソフトウェア工学教育を始め国際化に関して引き続き国際動向を調べる。

(6) 学会誌への教育関連記事の掲載

会員の情報教育への関心を高め、初中等教育現場関係者の学会活動への参加を促すために、学会誌に「ぺた語義」、「note オンライン記事」などの教育関連連載記事を企画・編集する。特に、教科「情報」の入学試験問題に関する記事を発信する。

(7) 表彰、その他

- ① 優れた情報教育の実践等を顕彰するため、優秀教育賞・教材賞を贈呈する。
- ② 教材、講義素材、講義資料などのデジタルアーカイブ実現に向けて調査・検討を行う。
- ③ 教育関連の事業活動の成果を学会収益に結びつける仕組みや寄付の募集を検討する。
- ④ 次々期学習指導要領に向けた研究・調査を行う。

6. 実施事業3：学術講習会の開催（定款第4条1項1号および2号）

学術講習会は、学会の重要な収入源であるとともに、学生も含めた若手研究者の活動の場あるいは企業のIT技術者の情報交換の場でもある。2025年度は下記の方針で取り組む。

- ① 全国大会は、松山大学文京キャンパスにてハイブリッド開催予定。
- ② 情報科学技術フォーラム（FIT）は、北海道科学大学にてハイブリッド開催予定。
- ③ 企業のITエンジニア向けの連続セミナー、短期集中セミナーなどは魅力的なテーマを選定し、連続回数や一回当たりの講演時間の適正化を図りつつ活動を活性化する。
- ④ イベント周知のため、学会誌への定期的な記事掲載、WebやSNSなど各種媒体での告知を検討する。
- ⑤ 支部企画によるジュニア会員向けのプログラミング教室やプログラミングコンテストを継続する。

6.1 全国大会／FIT

(1) 第88回全国大会 [所掌：全国大会運営委員会]

会期：2026年3月6日（金）～8日（日）、会場：松山大学 文京キャンパス

参加者目標：約4,500名（前年度参考4,504名）

中高生情報学研究コンテスト、情処ツアーも継続実施する。

(2) 第24回情報科学技術フォーラム（FIT2025）

会期：2025年9月3日（水）～5日（金）、会場：北海道科学大学

参加者目標：約2,500名（前年度参考2,474名）

選奨セッション、トップコンファレンスセッションを継続実施する。研究会との合同開催も継続し、集客とスポンサー獲得にも注力する。

(3) 表彰

優れた発表を顕彰するため、全国大会優秀賞・奨励賞などを贈呈する。

6.2 セミナー／その他イベント

(1) 連続セミナー2025

産業界向けのイベントとして以下を企画、オンラインで全12回の開催を予定、一部(③・④)ハイブリッドでの開催も検討している。

開催：2025年6月～12月

延べ申込者数目標：1,004名。※前年度参考：延べ申込者数826名

全体テーマ：「AIが拓く次世代イノベーション」

※各回テーマは以下を予定（仮題）

- ① 人工知能（AI）研究開発の俯瞰と展望
- ② AI、生成AIの急速な進展と保険・金融ビジネスへのインパクト、AIガバナンス
- ③④ 大規模言語モデル（LLM）の開発・活用
- ⑤ AI安全・AIガバナンス・AI標準化
- ⑥ マルチモーダルAI・フィジカルAI
- ⑦ 情報技術が切り拓くメディアコンテンツの未来
- ⑧ AIロボット駆動科学
- ⑨ 量子ソフトウェア
- ⑩ ヒューマンセンシング
- ⑪ セキュリティ心理学とトラスト
- ⑫ 医療・ヘルスケア

(2) 短期集中セミナー等

IT エンジニア向けの標準化関連をテーマにしたイベントをタイムリーに開催する。関連団体と共催しセミナーを開催する。ジュニア会員向けのプログラミング教室をジュニア会員活性化委員会と連携し開催する。また、広報広聴関連の方で実施している「IPSJ 賛助企業との交流会」と連携して職場見学も兼ねたオンラインイベントの実施を検討する。

(3) IT フォーラム 2026

4 つの IT フォーラムの年間活動発表を含め産業界の課題を中心に議論する。

会期：2026 年 2 月 6 日予定、会場：オンライン開催予定、参加者数見込：400 名

- ① 本イベント開催形態、プログラム等の改善などにより、集客力を強化する。
- ② IT フォーラム、デジタルプラクティスとの連携によりシナジー強化を図る。

(4) プログラミング・シンポジウム

以下3つのシンポジウムを開催する。

- ① 夏のプログラミング・シンポジウム 会期：2025年9月頃予定 オンラインまたは合宿形式
- ② 情報科学若手の会 会期：2025年10月頃予定 オンラインまたは合宿形式
- ③ 第67回プログラミング・シンポジウム 会期：2026年1月頃予定 オンラインまたは合宿形式

6.3 IT フォーラム

- ① 次の 3 つのフォーラムで活動する。

サービスサイエンス／コンタクトセンター／CITP

- ② 年1回の成果報告と評価を実施し、それに基づくフォーラム組み替えの仕組みを確立し、新たなフォーラムの立ち上げを検討する。
- ③ 戦略的な広報活動とアウト・リーチする仕組みの確立のため、日本IT団体連盟（IT連）、情報処理推進機構（IPA）、情報サービス産業協会（JISA）、日本情報システム・ユーザー協会（JUAS）、電子情報技術産業協会（JEITA）、モバイルコンピューティング推進コンソーシアム（MCPC）、一般社団法人情報通信技術委員会（TTC）、インターネット協会（IAj）、ITスキル研究フォーラム（iSRF）、iCD協会など、ターゲットとする関連コミュニティとの連携を強化する。また、ITエンジニアが学会に何を期待するのかを、フォーカスグループなどにより調査する。
- ④ 論文誌トランザクションデジタルプラクティス編集委員会／会誌デジタルプラクティスWG、ITプロフェッショナル委員会との連携を強化して、ITエンジニアに魅力のあるコミュニティに向けて検討する。

6.4 各支部による支部連合大会、講習会等の開催

各支部において支部連合大会、講習会、ジュニア会員向けイベント（プログラミング教室やプログラミングコンテスト）、中高生情報学研究コンテストブロック大会等を開催する。

7. 実施事業 4：会誌の刊行（定款第 4 条 1 項 1 号および 2 号）

全会員に冊子で配布される唯一の媒体として「読まれる会誌」、「魅力ある会誌」を目指す。会員からのフィードバックを参考に、特集と連載中心の編集を行う。

7.1 会誌「情報処理」

「読まれる学会誌」を目指して、会員サービスという観点からも、会員増という観点からも学会誌をさらに面白いものにする。動画・ソースコードなどを加えた学会誌オンラインを充実する。オンラインのみの記事の検討も行うとともに、紙媒体の会誌は一覧性を考慮しつつ厳選する。また、2025 年度は「無

料掲載記事一覧の見直し」「広告収入の安定化」を新たに検討する。

- ① 時事性・話題性の高い「特別解説」や連載記事のバラエティを増やすなど、幅広い読者に読まれる会誌を目指す。
- ② 毎月の季節を考慮した定番記事を工夫する。
- ③ ジュニア会員を含めた会員モニタによる意見をフィードバックする。
- ④ noteなどのオンライン記事を強化する。また、冊子では伝えきれない体験型の情報提供・啓蒙のための会誌付録、記事と連動したマルチメディアデータの掲載についても検討する。
- ⑤ デジタルプラクティス、論文誌との連携を強化し、連動した特集を企画していく。
- ⑥ 小中高生（ジュニア会員）向け記事を増やす。
- ⑦ 女性編集委員を各WGで増やし委員会活性化、記事の魅力の増加、新たな企画提案につなげる。
- ⑧ 会員へ国内外会議の周知、また、積極的な参加を呼びかけるため会議レポートを毎月1,2本は掲載する。
- ⑨ 会員外にも訴求するように記事を工夫する。
- ⑩ 研究室、研究所のインタビュー・取材記事を検討する。
- ⑪ 非専門家や学びたい初学者、教えたが教員のためにフレッシュマンコースや学校での講義素材となるような記事を企画する。
- ⑫ 分野を越え、多くの領域とつながる情報技術に目を向けた記事を増やす。

7.2 その他、広報・宣伝の充実および編集体制の改善

- ① 技術書典など技術者の集まるイベントへの出展とグッズ販売を通し、学会の認知度を高める。
- ② 一貫した編集方針のもとで円滑に編集作業を進められるよう、編集長の業務をサポートしフォローできる役職として副編集長制度を継続する。
- ③ 会誌への広告掲載、IPJS メールニュースへの広告掲載、Webサイトへのバナー広告掲載、カタログ同封サービスへの広告掲載の魅力を高め、広報広聴戦略委員会と協力して広告獲得に一層努力する。また、広報マーケティングの調査結果などを踏まえた、会員企業の活性化、学生会員への満足度向上のための「企画広告」（「戦略的広告」）により、広告費を増加させる。
- ④ 別刷の購入、書籍化を視野に入れた特集等の企画を積極的に行う。
- ⑤ 特集記事に関連した広告を掲載できるように広報活動を強化する。
- ⑥ 一般読者が読み物として気軽に読めるように、各記事のページ数を減らす。
- ⑦ noteやX（旧Twitter）、YouTube、GitHubによる情報発信の強化を行う。
- ⑧ 会誌ウェビナーの企画を検討する。

8. 実施事業5：論文誌・学術図書等の刊行（定款第4条1項1号および2号）

論文誌の論文投稿数、掲載数の増加と論文の質の確保を継続する。英文論文誌 Journal of Information Processing（以下、JIP）は基幹英文論文誌として育成・強化する。トランザクションのインパクトファクターの取得も目指す。

8.1 論文誌（ジャーナル/JIP/トランザクション）

(1) 「情報処理学会論文誌（ジャーナル）」（月刊）

1) 論文投稿数の増加に向けた取り組み、および掲載数の増加に向けた取り組み

- ① 年間の論文掲載数は、230編（ジャーナル155編、JIP preprint75編）以上を目標とする。
- ② 論文執筆のための心構えの広報の強化、および倫理審査を必要とする研究への啓発による投稿論

文の質の向上を図るとともに、「べからず集」の徹底による査読の質の向上とそれに伴う採択率の安定・向上を目指す。

- ③ 研究会推薦論文制度や招待論文制度等を積極活用し、良質の論文の投稿を喚起する。
 - ④ 付録データの活用を促進し、論文の価値の向上を目指す。
 - ⑤ 論文誌編集委員会企画の特集号を継続する。
 - ⑥ 全国大会でイベント企画（論文必勝法）を実施する。イベント企画におけるトランザクションデジタルプラクティスとの連携も検討する。
 - ⑦ ジュニア会員の掲載料無料化を実施し広報を行う。
- 2) 編集体制と論文査読管理システム運用の見直し
- ① 2017 年度に整備された編集体制にもとづき、論文誌担当理事とは独立した編集長（任期は 1 期 2 年で再任まで）のもとで、引き続き編集委員会を運営する。グループ主査および副査の任期についても柔軟に対応し、編集委員会の継続性向上やノウハウの伝承がよりの確に行われるように配慮する。
 - ② 査読システムに関する中長期的な検討を行う。ScholarOne Manuscripts の利便性向上のためシステム開発元と調整し改修を行う。またマニュアル等の整備により、安定的運用を図る。
- 3) 電子化を有効活用した改善
- 論文誌関連の統計情報（例：ダウンロード数）の有効利用を検討する。
- 4) その他
- オープンアクセスやプレプリント時代に向けた中長期的な論文誌のあり方について随時検討を行う。また、デジタルコンテンツ事業検討委員会とともに電子図書館のプラットフォームについても引き続き検討を進める。

(2) 「Journal of Information Processing (JIP)」

JIP の海外投稿促進と国際化に向けて、Web of Science 収録基準を満たし、インパクトファクター (IF) の取得に向けた施策を実施する。

- ① 年間論文掲載数は 100 編（うち連携分 25 編）以上を目指す。
- ② 研究会推薦論文の英語化を促し JIP に掲載するというパスを確立させ、良質の論文を呼び込む。
- ③ 編集委員に海外の研究者を迎え入れて国際化された編集委員会を本格化させる。
- ④ 国際会議の優秀論文、著名な研究者の招待論文、国内の大規模プロジェクト等の成果論文を積極的に採録する。また、国際会議・海外の学会との連携等、JIP 独自の特集号を企画する。
- ⑤ arXiv などパブリックなプレプリント・サーバーを活用して JIP 論文のビジビリティ向上を図る。
- ⑥ クラリベイト・アナリティクス社の Emerging Sources Citation Index (ESCI) への登録による citation の向上計測を行う。
- ⑦ 二重投稿対策を継続して検討し、投稿論文の質の向上を図る。
- ⑧ オープンアクセス化のための活動を継続し、JST の支援で DOAJ (Directory of Open Access Journals) に申請する。申請後、JST インパクトファクター取得支援プログラムに応募する。

(3) トランザクション (10 誌)

発行の安定性と永続性、ジャーナルとの協調、JIP との連携、購読数の拡大を目標に、トランザクション 10 誌合計で掲載論文数 120 編（うち JIP preprint 25 編）以上を目指す。特に研究会との連携による投稿数増大を目指すとともに、分野の特性に応じた論文の種類について検討する。ジャーナルと同様に英文論文の投稿促進、および英文トランザクションのインパクトファクター取得の検討を進める。また、トランザクションにおける論文査読管理の電子化の推進を行う。

(4) その他

各誌の優れた論文を顕彰するため、論文賞等を贈呈する。
編集委員の貢献に報いるため、論文誌編集委員会の貢献賞を贈呈する。

8.2 専門誌：教科書シリーズ

発行済 67 冊の教科書の改訂を着実に進めるとともに、新規企画の検討を行う。特に「人工知能」については、生成 AI を含めた新しい技術を取り込んだ教科書の改訂を進める。「ソフトウェア工学」、「組み込みシステム」についても、近年の動向を踏まえた内容への改訂を進める。改訂と新規企画にあたっては、書籍の電子化を進めるとともに、産業界向けに話題性の高い技術の企画出版を検討する。

8.3 歴史資料の保存・公開

- ① 現存している歴史的に価値のある機器の保存活動を継続して行う。
- ② 第 88 回全国大会で特別セッション「私の詩と真実」を企画する。
- ③ 2000 年代のコンピュータの歴史を掲載した冊子本を作るための WG 設立を検討する。

8.4 デジタルコンテンツ事業の推進

- ① 多くのユーザーへのビジビリティ向上を目的に2014年度開始当初契約数36件から2024年度92件とサービスを拡大してきている。2025年度は94件を目指す。引き続き大学図書館コンソーシアム連合の会員館の希望する機関に対し、期間限定の無料トライアルを実施し、サイトライセンスサービスの周知拡大に努める。
- ② 電子図書館については2024年に新システム Weko3 に移行した情報学広場の安定稼働に努める。また、クレジットカード決済の3Dセキュア対応を実施する。
- ③ 2024年度に引き続きJM00C特別講座について、本会連携講座シリーズの講座を拡大する。

9. 実施事業 6：標準化活動（定款第 4 条 1 項 3 号）

ISO/IEC JTC 1 対応を主に、情報技術に関する国際規格の審議およびこれに関する調査研究、国内規格の審議などによる標準化活動を行う。より戦略的かつ健全な運営を行うために、標準化活動の重み付けのさらなる検討と、規格賛助員および委員会メンバのためのサービス向上に努める。

9.1 情報規格調査活動

(1) ISO/IEC JTC1 対応組織としての戦略的な貢献

ISO/IEC JTC 1 および直属の 21 の SC（全 24 SC 委員会中）、AG (Advisory Group)、WG (Working Group)、AHG (Ad Hoc Group) への国際審議等の対応を行う。さらに国際提案準備と、JIS 原案作成を適宜行う。

- ① 日本としての重点領域である、文字コード (SC 2)、デジタル記憶媒体 (SC 23)、メディア符号化 (SC 29)、文書記述言語 (SC 34) の議長、幹事国引き受けを継続する。
- ② 新たに設置された SC 44 (Consumer protection in the field of privacy by design) の国内審議体制構築の検討を進めるとともに、SC 43 (Brain-computer Interface) の国内審議体制の充実を図る。また JTC 1 の運営、方向性を議論する JTC 1 直属の AG、AHG についても、優先度を見極めながら JTC 1 サブグループ対応小委員会、あるいはディレクティブズ小委員会 (ISO/IEC 専門業務用指針に係る事項を検討する小委員会) で対応していく。
- ③ 議長、幹事国、コンビーナ、プロジェクトエディタ等を引き受けているものも含め、活動の優先度を見極め人的資源の集中化・重点化を図る。
- ④ JTC 1 が取り組むテーマが ISO、IEC、および ITU-T と重複する傾向があることから、日本として整合の取れた対応をすべく、ビジネス機械・情報システム産業協会 (JBMIA)、電子情報技術産業協会 (JEITA)、情報通信技術委員会 (TTC) などの協力を得ながら関連の国内対応委員会との情報交換しながら積極

的な対応を推進する。特に、新しく設置された SC 43や SC 44の国内審議体制の構築・充実には、消費者団体等これまで情報調査会に参加されていない団体等の参加が必要となっていることから、関係各所に相談しながら、審議体制の構築を図る。

(2) 健全な情報規格調査会の運営の維持

- ① 対面会議とあわせてオンライン会議の活用による委員会活動の効率化や利便性の向上を進め、所在地にかかわらず専門家が委員会等へ積極的に参加できる環境をつくり、委員会活動への参加者の拡大を図る。また、事務局業務の DX 化をさらに推進し、ニューノーマルに適応した情報規格調査会の運営の確立をめざす。
- ② 情報システムについては、本会本部のシステムの検討と歩調を合わせながら、情報規格調査会としてのシステムのあり方を検討し、その実現を進める。
- ③ 本部と情報規格調査会との連絡会を継続して開催し、予算計画など本部との情報共有を図りつつ健全な運営を図る。

(3) 標準化活動の支援と広報

- ① 2024年度に引き続き標準化セミナーを開催し、国際標準化におけるホットトピックスや各委員会における活動内容を紹介することで、国際標準化に対する意識を高め、国際標準化活動への参加拡大を図る。
- ② 情報規格調査会の存在と活動に関する認知度を高めるため、広報広聴戦略委員会との連携による学会と一体となった広報活動を展開するとともに、SNS の活用など情報規格調査会としての広報活動の在り方を検討する。
- ③ DX 時代に即した IT ツールやシステムの利用について検討し、情報規格調査会の委員会活動の支援を推進する。

10. 実施事業7：国際活動（定款第4条1項5号および2号）

研究会活動を中心に、国際会議を積極的に主催、共催し活動の活性化を図るとともに、海外学協会との連携を推進する。

10.1 関連する海外学協会との連携・協力

(1) International Federation for Information Processing (IFIP) 活動への参加

- ① IFIP 日本代表、各 TC 日本代表の総会 General Assembly (GA) ・理事会 Council への参加
- ② 各 TC 日本代表の TC-meeting への参加と IFIP 活動周知の活性化
- ③ IFIP IP3の活動に参加し、CITP 資格の国際的相互認証の仕組みを継続

(2) IEEE ならびに IEEE-Computer Society との連携・協力

- ① The 49th Annual International Computer Software & Applications Conference (COMPSAC2025) への技術協力（日程：2025年7月8日～11日、場所：Toronto, Canada）
- ② 全国大会での IEEE-CS 会長招待講演実施と連携の為のミーティングを継続
- ③ IEEE-CS との姉妹学会 MOU を継続するとともに、会員向けの連携サービスを検討
- ④ IEEE-CS と本会との Joint Award として、3名以内に「IPSJ/IEEE-CS Young Computer Researcher Award」を授与

(3) ACM との連携・協力

- ① 全国大会での ACM 会長招待講演実施と連携の為のミーティングを継続
- ② ACM との姉妹学会 MOU を継続するとともに、会員向けの連携サービスを検討

- ③ ACMと本会との Joint Award として、1名に「IPSJ/ACM Award for Early Career Contribution to Global Research」を授与

(4) 海外学協会との連携・協力

- ① China Computer Federation (CCF) と双方の全国大会への交互招聘を継続し連携・協力を推進する。
- ② Korean Institute of Information Scientists and Engineers (KIISE) との連携・協力および双方の全国大会での会長の交互招聘・招待講演を実施する。
- ③ CJK-meeting (中国・日本・韓国) を継続する。
- ④ 下記の海外学協会との協力関係を継続する。
- ・ Computer Society of India (CSI)
 - ・ Australian Computer Society (ACS)
- ⑤ The International Association for Pattern Recognition (IAPR) 活動への参加。
- ⑥ 2023年度の第86回全国大会で中国 CCF より提案された APAC (Asia-Pacific Alliance for Computing) の創設について、本会として参画するスタンスで対応を進める。
- ⑦ 日本に留学生を多く輩出しているアジア地域などの国々の情報系学会との共同シンポジウムなどによる連携の機会を検討し、新たな取り組みを企画する。

(5) 国際会議

COMPSAC2025の他、下記3件の国際会議を開催する。

- ・ International Conference on Mobile Computing and Ubiquitous Networking (ICMU2025)
2025年9月10日～12日, AVANI Central Busan (韓国)
- ・ International Workshop on Security (IWSEC2025)
2025年11月25日～27日, アクロス福岡 (日本)
- ・ International Conference on High Performance Computing in Asia Pacific Region (HPCAsia2026)
2026年26日～29日, グランキューブ大阪 (日本)

11. その他：関連学協会等との連携および協力（定款4条1項6号）

関連学協会との連携および協力を行う。日本 IT 団体連盟（IT 連）、情報処理推進機構（IPA）、情報サービス産業協会（JISA）、日本情報システム・ユーザー協会（JUAS）等とこれまでの協力関係をさらに強化する。

11.1 関連学協会・日本学術会議

(1) 日本工学会および電気・情報関連学会連絡協議会への参加

日本工学会および電気・情報関連学会連絡協議会に参加し、関連学協会との協力連携を図る。

(2) 研究発表・学術講習会等の共催

電子情報通信学会との共催による「情報科学技術フォーラム（FIT）（前6項参照）」ほか、研究発表会および学術講習会において関連学協会等と適宜共催を行う。

(3) 日本学術会議など関連団体等への協力

日本学術会議に協力学術研究団体として参加協力する。

11.2 会議の協賛後援等

関連学協会からの要請に応じて適宜、連携イベントや会議の協賛後援等を行う。

12. 法人運営

(1) ニューノーマルに向けた取り組み

ニューノーマル時代、そして持続可能な地球環境と経済活動の両立が必須となる世界において「本会 60 周年宣言～More local and more diverse for global values～」を念頭に、引き続き学会のイベント、委員会等各種活動のオンライン開催、現地開催、あるいはハイブリッド開催といった適切な活動形態を推進していく。また事務局業務に関しても 2020 年からの BCP/DX 化推進を継続し業務の効率化を進めていく。新たな働き方への対応・経費削減という観点から事務局本部の移転計画・実施を進める。

(2) 中長期計画の推進

去る 2020 年 11 月に公表した「60 周年宣言」に基づき 2021 年度に策定した「中期計画」を推進するとともに、本会各種活動の「データドリブンな意思決定」に向け策定した「本会主要アクティビティ」は、その名称を「学会主要活動指標」として理事会レベルで共有し活動の活性化に繋げていく。

12.1 財務基盤の強化

- ① 財務基盤安定のための検討と学会のビジネスモデルの検討を長期戦略の検討と合わせて継続する。
- ② 2022 年度版事業別サマリを使って健全な学会運営・財務管理体制構築を推進する。
- ③ 学会本部事務局の移転を推進し固定経費の削減を図る。

12.2 アドバイザリーボードによる運営改善

第三者機関であるアドバイザリーボードの助言も得て、引続き学会価値の向上と運営の改善への取り組みを継続する。また、IT ユーザー業界からのメンバ増強に加え、様々な観点からアドバイスを頂けるよう、ボードメンバのダイバーシティにも配慮したメンバ構成とする。さらに、ボードメンバからのアドバイスを具体的な学会のアクションプランにつなげるための体制を強化する。

12.3 広報広聴活動の推進

2023 年度に立ち上げた 9 つのワーキンググループ（ウェビナー/SNS/Web/メール/ガイドライン/学生交流向け/産業界向け/情処ラジオ/ノベルティ）は、特に関連性が高い SNS/Web/メール/情処ラジオ/ノベルティを集約し、4 つのワーキンググループ（ウェビナー/学生交流向け/産業界向け/情報発信）に再編成し活動を推進する。ガイドラインは、広報広聴戦略委員会にて必要に応じた改訂等の対応を進めていく。また、2024 年度に検討した「会員サービスの差別化」に着目した「入会に結びつけるための広報戦略」の検討を継続する。

- ① 4 つのワーキンググループ活動推進
ウェビナー/学生交流向け/産業界向け/情報発信
- ② 各ワーキンググループの活動評価（継続、廃止、統廃合）
- ③ 必要な新規ワーキンググループの立ち上げ検討

12.4 情報システムの拡充

情報システム・DX 委員会が主体となり、学会情報システムの見直しに加え、事務局業務の BCP/DX 化を推進し、ニューノーマル時代に対応したデジタル化を推進する。

- ① 電子図書館については 2024 年に新システム Weko3 に移行した情報学広場の安定稼働に努める。また、クレジットカード決済の 3D セキュア対応を実施する。
- ② 学会 Web サイトやメールサーバなどの本部情報システムについて、学会の DX 活動、広報広聴マーケティング活動と連動した Web ページ構成等の改善項目を抽出・精査し、今後のコンテンツ充実やシステム改善に向けた検討を継続する。また、Google Workspace（GWS）の各研究会での利活用を進める。
- ③ Web 施策関連のメール配信に関しては開封率、URL クリック率の調査および効果検証を行っていく。同

時にセグメント切り分け方法やコンテンツの継続的な見直しの実施を検討する。

- ④ 事務局職員 PC 入れ替え（主に Windows11マシンへの移行）やシステムプラットフォームの強化・ライセンス更改などを継続的に実施する。
- ⑤ 学会会員システム(SMMS)維持のための保守開発を継続する。
- ⑥ BCP 対応およびセキュリティ対策としてサーバ類の冗長化ならびにオンプレミス・サーバのクラウド化，オフィス LAN へのリモートアクセス化を学会本部事務局の移転にあわせて実施する。
- ⑦ 東北支部サーバを既に統合済みの他の6支部と同様に移設統合する。

12.5 ダイバーシティへの取り組み

2021年に公開されたダイバーシティ宣言を踏まえ，会員・非会員の多様性を向上し，公平な社会を促進するための活動を行う。また，本活動を所掌する「Info-WorkPlace 委員会」は，その活動内容も含め委員会名を2025年6月定時総会後より「ダイバーシティ委員会」に変更し活動を推進し，働き方改革やダイバーシティへの取り組みに関する情報発信・情報共有に力を入れる。特に，情報発信ワーキンググループ（広報広聴戦略委員会所掌）と連携した，「情処ラジオ」として，聞き流しが可能な音声による発信を引き続き推進する。

12.6 その他表彰等

功績賞，学会活動貢献賞，感謝状の贈呈のほか，フェロー認定，シニア会員認定，情報処理技術遺産・分散コンピュータ博物館の認定等を行う。

以上

【付表 1：研究会・研究グループ】

【コンピュータサイエンス領域：研究会（11）（括弧内は英略称）】

データベースとデータサイエンス（DBS），ソフトウェア工学（SE），システム・アーキテクチャ（ARC），システムソフトウェアとオペレーティング・システム（OS），システムと LSI の設計技術（SLDM），ハイパフォーマンスコンピューティング（HPC），プログラミング（PRO），アルゴリズム（AL），数理モデル化と問題解決（MPS），組込みシステム（EMB），量子ソフトウェア（QS） 各研究会

【情報環境領域：研究会（15）（括弧内は英略称）】

マルチメディア通信と分散処理（DPS），ヒューマンコンピュータインタラクション（HCI），情報システムと社会環境（IS），情報基礎とアクセス技術（IFAT），コラボレーションとネットワークサービス（CN），ドキュメントコミュニケーション（DC），モバイルコンピューティングと新社会システム（MBL），コンピュータセキュリティ（CSEC），高度交通システムとスマートコミュニティ（ITS），ユビキタスコンピューティングシステム（UBI），インターネットと運用技術（IOT），セキュリティ心理学とトラスト（SPT），コンシューマ・デバイス&システム（CDS），デジタルコンテンツクリエイション（DCC），高齢社会デザイン（ASD） 各研究会

【メディア知能情報領域：研究会（15），研究グループ（3）（括弧内は英略称）】

自然言語処理（NL），知能システム（ICS），コンピュータビジョンとイメージメディア（CVIM），コンピュータグラフィックスとビジュアル情報学（CG），コンピュータと教育（CE），人文科学とコンピュータ（CH），音楽情報科学（MUS），音声言語情報処理（SLP），電子化知的財産・社会基盤（EIP），ゲーム情報学（GI），エンタテインメントコンピューティング（EC），バイオ情報学（BIO），教育学習支援情報システム（CLE），アクセシビリティ（AAC），スポーツ情報学（SI） 各研究会
ネットワーク生態学（NE），会員の力を社会につなげる（SSR），情報処理に関する法的問題（LIP） 各研究グループ

【調査研究運営委員会：研究グループ（1）（括弧内は英略称）】

ビッグデータビジネス（PBD）研究グループ

【付表 2：シンポジウム・ワークショップ等】

シンポジウム等名（主催研究会）	開催日	場 所
◆マルチメディア, 分散, 協調とモバイル (DICOMO 2025) シンポジウム (DPS, CN, MBL, CSEC, ITS, UBI, IOT, SPT, CDS, DCC)	2025. 6.25(水)～27(金)	母畑温泉八幡屋
◆画像の認識・理解シンポジウム (CVIM)	2025. 7.29(火)～8.1(金)	国立京都国際会館
◆cross-disciplinary workshop on computing Systems, Infrastructures, and programminG (xSIG2025) (ARC, OS, HPC, PRO)	2025. 8. 6(水)	サンポートホール高松
◆情報教育シンポジウム (SSS2025) (CE)	2025. 8.19(火)～21(木)	武蔵野大学
◆エンタテインメントコンピューティング 2025 (EC)	2025. 8.25(月)～27(水)	日本大学
◆DA シンポジウム 2025 (SLDM)	2025. 8.27(水)～29(金)	ゆのくに天祥
◆ソフトウェアエンジニアリングシンポジウム (SES2025) (SE)	2025. 9.16(火)～18(木)	早稲田大学
◆コンピュータセキュリティシンポジウム 2025 (CSS2025) (CSEC, SPT)	2025.10.	(岡山)
◆マルチメディア通信と分散処理ワークショップ (DPS)	2025.10. or 11.	(未定)
◆Asia Pacific Conference on Robot IoT System Development and Platform (APRIS2025) (EMB)	2025.11.	(芝浦工業大学)
◆コラボレーションとネットワークサービスワークショップ 2025 (CN)	2025.11.	(未定)
◆ゲームプログラミングワークショップ (GPW2025) (GI)	2025.11.	箱根セミナーハウス/ オンライン
◆第37回コンピュータシステム・シンポジウム (ComSys2025) (OS)	2025.12.	(未定)
◆災害コミュニケーションシンポジウム (IS,IOT,SPT)	2025.12.	(未定)
◆インターネットと運用技術シンポジウム (IOTS2025) (IOT)	2025.12.	(未定)
◆人文科学とコンピュータシンポジウム (じんもんこん 2025) (CH)	2025.12.	九州大学
◆ウィンターワークショップ 2025 (SE)	2026. 1.	(未定)
◆ITS 研究フォーラム (ITS)	2026. 3.	早稲田大学
◆PWS Meet Up (CSEC)	2026. 3.	(未定)
◆インタラクション 2026 (HCI, CN, UBI, DCC, EC)	2026. 3.	学術総合センター／ 一橋講堂

[第 1 号報告]

1-2. 2025 年度収支予算書

2025年度収支予算書（損益計算ベース）

2025年4月1日から2026年3月31日まで

（単位：円）

※公益法人会計基準（2008年4月11日 内閣府公益認定等委員会）に準拠。

科目	2025年度予算	2024年度予算	増減	備考（増減5,000千円以上のコメントほか）
※一般正味財産のみ				
1. 経常増減の部				
（1）経常収益				
特定資産運用益	43,000	43,000	0	
特定資産受取利息	43,000	43,000	0	
受取入会金	700,000	700,000	0	
受取入会金	700,000	700,000	0	
受取会費	177,100,000	180,150,000	△ 3,050,000	
正会員受取会費	128,200,000	132,500,000	△ 4,300,000	*正会員減、滞納増、会費減免増
学生会員受取会費	17,500,000	16,600,000	900,000	
賛助会員受取会費	31,400,000	31,050,000	350,000	
事業収益	453,241,000	435,576,000	17,665,000	
頒布収益	40,931,000	42,084,000	△ 1,153,000	
掲載料収益	58,197,000	57,820,000	377,000	
広告収益	40,158,000	30,109,000	10,049,000	*調査研究増 MIRU開催あり
参加費収益	182,209,000	170,770,000	11,439,000	*調査研究増 MIRU開催あり
審査料、登録料収益	4,818,000	3,487,000	1,331,000	
研究会登録費収益	27,500,000	27,500,000	0	
規格賛助員費収益	87,000,000	91,900,000	△ 4,900,000	*規格賛助員減口
国際会議収益	1,280,000	1,680,000	△ 400,000	
分担金収益	2,361,000	2,507,000	△ 146,000	
抄録料、著作権使用料等収益	3,021,000	2,621,000	400,000	
受取民間委託費	5,766,000	5,098,000	668,000	
受取補助金等	12,840,000	12,879,000	△ 39,000	
受取民間補助金	5,610,000	8,630,000	△ 3,020,000	
受取民間助成金	7,230,000	4,249,000	2,981,000	
受取国庫助成金	0	0	0	
受取寄付金	2,500,000	2,500,000	0	
受取寄付金	2,500,000	2,500,000	0	
雑収益	185,000	185,000	0	
受取利息	25,000	25,000	0	
雑収益	160,000	160,000	0	
経常収益計	646,609,000	632,033,000	14,576,000	
（2）経常費用				
事業費	470,493,000	460,964,000	9,529,000	
給料手当	114,778,000	116,826,000	△ 2,048,000	
賞与引当金繰入額	14,202,000	14,032,000	170,000	
臨時雇賃金	10,642,000	11,375,000	△ 733,000	
退職給付費用	1,000,000	1,000,000	0	
福利厚生費	26,114,000	25,680,000	434,000	
会議費	59,299,000	78,430,000	△ 19,131,000	*標準化減 国内大規模国際会議の開催なし
旅費交通費	38,128,000	38,619,000	△ 491,000	
通信運搬費	16,271,000	16,600,000	△ 329,000	
減価償却費	950,000	950,000	0	
消耗品費	6,158,000	6,143,000	15,000	
印刷製本費	64,673,000	63,581,000	1,092,000	
光熱水料費	100,000	150,000	△ 50,000	
賃借料	8,300,000	8,100,000	200,000	
保険料	442,000	566,000	△ 124,000	
諸謝金	18,201,000	17,677,000	524,000	
租税公課	83,000	102,000	△ 19,000	
支払負担金	556,000	370,000	186,000	
広告宣伝費	0	0	0	
委託費	86,046,000	56,234,000	29,812,000	**調査研究増 MIRU開催あり
支払手数料	3,399,000	3,523,000	△ 124,000	
支払分担金	1,064,000	682,000	382,000	
研修費	0	10,000	△ 10,000	
雑費	87,000	314,000	△ 227,000	

科目	2025年度予算	2024年度予算	増減	備考（増減5,000千円以上のコメントほか）
管理費	228,890,000	222,083,000	6,807,000	
給料手当	39,322,000	55,307,000	△ 15,985,000	*事務局職員減
賞与引当金繰入額	4,698,000	6,468,000	△ 1,770,000	
臨時雇賃金	1,275,000	2,600,000	△ 1,325,000	
退職給付費用	2,450,000	2,100,000	350,000	
福利厚生費	12,182,000	15,448,000	△ 3,266,000	
会議費	4,749,000	6,184,000	△ 1,435,000	
旅費交通費	2,799,000	3,621,000	△ 822,000	
通信運搬費	1,354,500	1,593,000	△ 238,500	
減価償却費	12,414,000	9,530,000	2,884,000	
消耗品費	2,532,000	3,204,000	△ 672,000	
印刷製本費	579,500	1,025,000	△ 445,500	
光熱水料費	4,000,000	4,600,000	△ 600,000	
賃借料	29,300,000	29,000,000	300,000	
保険料	80,000	80,000	0	
諸謝金	10,064,000	10,768,000	△ 704,000	
租税公課	14,770,000	15,270,000	△ 500,000	
支払負担金	5,000,000	4,300,000	700,000	
支払助成金	220,000	190,000	30,000	
広告宣伝費	935,000	935,000	0	
委託費	66,517,000	42,542,000	23,975,000	*派遣委託増・システム委託増
支払手数料	4,861,000	5,214,000	△ 353,000	
支払分担金	8,388,000	1,672,000	6,716,000	*支部連合大会幹事学会増
雑費	400,000	432,000	△ 32,000	
経常費用計	699,383,000	683,047,000	16,336,000	
当期経常増減額	△ 52,774,000	△ 51,014,000	△ 1,760,000	
2. 経常外増減の部				
(1) 経常外収益				
（該当なし）	0	0	0	
経常外収益計	0	0	0	
(2) 経常外費用				
移転費	18,100,000	0	18,100,000	*学会事務局本部移転
固定資産除却損	1,900,000	0	1,900,000	
経常外費用計	20,000,000	0	20,000,000	
当期経常外増減額	△ 20,000,000	0	△ 20,000,000	
当期正味財産増減額	△ 72,774,000	△ 51,014,000	△ 21,760,000	
正味財産期首残高	1,268,088,212	1,277,832,101	△ 9,743,889	
正味財産期末残高	1,195,314,212	1,226,818,101	△ 31,503,889	

注）収支予算書は、「公益法人会計基準」により、損益ベースで作成しています。

付．参考：事業別サマリー（2025年度予算）

グループ	項 目	収益			経費			差額		
		2024予算	2024決算	2025予算	2024予算	2024決算	2025予算	2024予算	2024決算	2025予算
グループ1	会誌・学術刊行物	114,234	112,219	113,558	128,836	121,018	126,016	-14,602	-8,799	-12,458
	会誌理事	17,529	15,734	17,166	41,147	36,244	38,886	-23,618	-20,510	-21,720
副会長	会誌発送経費				14,148	13,995	14,114	-14,148	-13,995	-14,114
	論文理事	53,963	56,236	54,902	35,653	34,187	35,981	18,310	22,049	18,921
	トランザクション	14,716	11,881	12,883	10,427	8,354	8,649	4,289	3,527	4,234
	出版-電子出版等	28,026	28,368	28,607	25,246	26,084	25,578	2,780	2,284	3,029
	出版-歴史	0	0	0	2,215	2,154	2,808	-2,215	-2,154	-2,808

グループ2	項 目	2024予算	2024決算	2025予算	2024予算	2024決算	2025予算	2024予算	2024決算	2025予算
		204,676	218,863	246,984	210,601	213,031	248,047	-5,925	5,832	-1,063
副会長	調査研究・人材育成・学術講習会・国際	35,211	38,533	36,461	39,608	39,879	42,662	-4,397	-1,346	-6,201
	調査委員会	0	0	0	2,241	2,017	2,388	-2,241	-2,017	-2,388
	シンポジウム等 ※奇数年MIRU幹事	89,896	99,216	130,129	81,317	91,115	117,404	8,579	8,101	12,725
	国際活動	550	2,129	590	1,836	843	2,008	-1,286	1,286	-1,418
	教育活動	502	951	824	2,957	2,585	2,906	-2,455	-1,634	-2,082
	教育活動-受託分	3,320	2,153	3,243	2,974	2,770	3,039	346	-617	204
	資格認定	3,487	3,413	4,818	5,454	4,670	5,925	-1,967	-1,257	-1,107
	事業理事	33,120	36,467	33,891	32,994	28,919	30,843	126	7,548	3,048
	F I T	25,819	25,963	26,160	25,782	24,046	25,546	37	1,917	614
	プロシシ	2,538	2,737	2,538	2,442	3,188	2,442	96	-451	96
	セミナー	9,903	7,120	8,220	9,894	9,894	10,812	9	-2,774	-2,592
	技術応用（IT7+5M）	330	110	110	3,102	3,105	2,072	-2,772	-2,995	-1,962
	積立資産利息(調研) 他は2021年度長期積立へ集約	0	71	0	0	0	0	0	71	0

グループ3	項 目	2024予算	2024決算	2025予算	2024予算	2024決算	2025予算	2024予算	2024決算	2025予算
		122,256	121,273	96,281	121,527	111,954	96,430	729	9,319	-149
副会長	標準化	122,256	121,273	96,281	121,527	111,954	96,430	729	9,319	-149

グループ4	項 目	2024予算	2024決算	2025予算	2024予算	2024決算	2025予算	2024予算	2024決算	2025予算
		190,867	190,781	189,786	222,083	206,877	248,890	-31,216	-16,096	-59,104
副会長	総務理事	180,960	181,090	178,405	10,659	10,381	13,859	170,301	170,709	164,546
	財務理事	7,227	6,590	8,701	28,314	21,570	25,781	-21,087	-14,980	-17,080
	長期理事	15	219	15	15,070	13,940	34,570	-15,055	-13,721	-34,555
	企画理事	2,665	2,882	2,665	168,040	160,986	174,680	-165,375	-158,104	-172,015

合計	632,033	643,136	646,609	683,047	652,880	719,383	-51,014	-9,744	-51,014	-72,774
----	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	--------	---------	---------

本部合計	509,777	521,863	550,328	561,520	540,926	622,953	-51,743	-19,063	-51,743	-72,625
------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------

[第2号報告]

2. 会費滞納会員の取り扱い

会費滞納会員の取扱い

定款第 10 条 1 項 1 号にもとづき、2023 年度からの会費を滞納した会員 528 名については、その会員資格を喪失したものと扱う。